第２章　根拠に基づく介護実践を推進する教育に関する調査
（アンケート調査結果データ）

1　アンケート調査の基本的枠組み

調査の基本的枠組みと概要は、以下のとおりである。

●名　　称：根拠に基づく介護実践を推進する教育に関する調査

●対　　象：介護福祉士養成校（全数調査）

●配布方法：郵送により送付

●回収方法：郵送、ウェブフォーム、エクセルダウンロードから回答者が選択し回答

●調査期間：令和５年１０月１８日～１１月１５日
締切後到着の調査票は対応が可能な範囲で集計の対象とした。
礼状兼督促のはがきを２回送付（１０月３０日、１１月7日）した。

●サンプルと回収：

	対象数	※無効	有効対象	回答数	回答率
福祉系高等学校	１１２	１	１１１	５９	５３.１%
専　門　学　校	１９０	１	１８９	４４	２３.２%
短　期　大　学	４８	０	４８	８	１６.６%
４ 年 制 大 学	５９	１	５８	１０	１７.２%
合　　計	４０９	３	４０６	１２１	２９.８%

※無効：募集停止や閉鎖等の連絡があった養成校

●調査協力：全国福祉高等学校長会様、日本介護福祉士養成施設協会様に、名簿提供についてご協力をいただいた。

●調査における配慮・留意点
・ＬＩＦＥについて知っていただくための説明書を調査票に添付した。
・①調査で得られた内容は安全措置を講じてデータの漏洩がないように管理・保管し、施設や回答者が特定できないよう統計処理すること、②調査への拒否があってもそのことで不利益が生じることはないこと、③目的外に利用しないこと、④回答にあたって合理的配慮が必要な場合は個別に対応する旨を明記した。

2 調査票(紙面)

厚生労働省 令和5年度社会福祉推進事業

根拠に基づく介護実践を推進する教育に関する調査

●本事業は、**「根拠に基づく介護実践を推進するための介護福祉士養成課程における介護過程教育のあり方に関する調査研究事業」（厚生労働省　令和５年度社会福祉推進事業）**の１つとして行われる調査です。

●回答のご記入にあたって－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

※本調査は、学科主任、領域「介護」の主担当、介護過程の授業を担当されている方などにご回答をお願いしております。

※**本紙による回答**のほか、ウェブフォーム、エクセルによるファイル回答が可能です。いずれか1つの方法でご回答ください。

ウェブフォーム →
https://x.gd/LyKYT

エクセルダウンロード →
https://comon.jp/dl/kaigo.html

※ご回答にあたり、合理的配慮が必要な場合は、回答のサポートをさせていただきます。お手数ですが、お申し出いただければ対応いたします。

※回答の　**締切は令和５年１１月１５日（水）**です。

●お問合せ先－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

株式会社コモン計画研究所　https://www.comon.jp/
東京都杉並区成田東５－３５－１５　２F
担当：下川（しもかわ）、相澤（あいざわ）
kaigo@comon.jp　電話　０３－３２２０－５４１５

↓ここから質問が始まります。

【A：貴校の基本属性】

Q1 学校種別をお教えください。（１つに○）

１．4年制大学　　４．福祉系高等学校
２．短期大学　　５．その他
３．専門学校　　（　　　　　　　　　）

Q2 教育年限をお教えください。　（　　　　）年

Q3 生徒・学生数をお教えください。　（　　　　）人
※介護福祉士養成に係る1学年あたりの定員数をご記入ください

Q4 教員数をお教えください。
専任教員(必置数員)　（　　　　）人
その他の教員　（　　　　）人
※介護福祉士養成に関係する学科、コースの教員数についてご回答ください

Q5 貴校（養成校）の特徴についてお教えください。
※例：在校生の属性、教育内容や方法、カリキュラム、教員体制など

Q6 この調査票にご回答いただく回答者の職位または立場をお教えください。
※記入例：学科主任、領域「介護」の主担当、介護過程の授業を担当　など
※複数で回答した場合は、代表者についてご記入ください

【B：根拠に基づく介護実践と介護過程を結びつける教育について】

Q7 貴校では、①介護過程の定義や②展開する意義・目的をどのように認識していますか。

①介護過程の定義	
②展開する意義・目的	

※Q8～Q11は、介護過程のPDCAの流れで質問をしていきます。

Q8 根拠に基づく「アセスメント」について

(1) 根拠に基づく「アセスメント」とは何だと考えますか。

(2) 根拠に基づく「アセスメント」を教育するために工夫していることはありますか。

(3) 根拠に基づく「アセスメント」を教育するために用いているツールや指標には、どのようなものがありますか。

Q9 根拠に基づく「計画」について

(1) 根拠に基づく「計画」とは何だと考えますか。

(2) 根拠に基づく「計画」を教育するために工夫していることはありますか。

(3) 根拠に基づく「計画」を教育するために用いているツールや指標には、どのようなものがありますか。

Q10 根拠に基づく「実施」について

(1) 根拠に基づく「実施」とは何だと考えますか。

(2) 根拠に基づく「実施」を教育するために工夫していることはありますか。

(3) 根拠に基づく「実施」を教育するために用いているツールや指標には、どのようなものがありますか。

Q11 根拠に基づく「評価」について

(1) 根拠に基づく「評価」とは何だと考えますか。

(2) 根拠に基づく「評価」を教育するために工夫していることはありますか。

(3) 根拠に基づく「評価」を教育するために用いているツールや指標には、どのようなものがありますか。

●次に「LIFEという仕組みと介護過程教育」について質問します。

●LIFEについては、同封の別紙をご参照ください。➡　別紙へ

【C：LIFEという仕組みが介護過程教育に与える影響】

Q12 LIFE（科学的介護情報システム）についてどのくらいご理解されていましたか。

1．説明できる程度　（1つに○）
2．だいたい理解していた
3．あまり知らなかった
4．知らなかった

Q13 これまでの貴校の教育において、LIFEを取りあげたことがありますか。

1．介護過程の授業でとりあげた　（1つに○）
2．介護過程以外の授業でとりあげた
　→取り上げた授業をお教えください
　（　　）
3．とりあげたことはない

Q14 Q13で「1．介護過程の授業でとりあげた」「2．介護過程以外の授業でとりあげた」と答えた方は、どのように取りあげたかお教えください。

Q15 介護過程の教育において、どのようにLIFEを活用することが想定できますか。

Q16 LIFEを介護過程の授業で取り入れるとしたら、どのような効果があると思いますか。

Q17 介護過程の教育において、LIFEを取り入れていく上での課題がありましたらお教えください。

①授業展開の課題	
②教員側の課題	
③生徒・学生側の課題	
④その他の課題	

Q18 LIFEの理解は学生にとって必要だと思いますか。　（1つに〇）

1．とてもそう思う
2．そう思う
3．そうは思わない
4．全く思わない

(1) Q18で回答した理由をお教えください。

【D：今後の調査事業へのご協力について】

Q19 今後、根拠に基づく介護実践教育として、介護過程の授業を見学させて頂くことは可能ですか。（1つに〇）

1．はい
2．学校の承諾があれば可能 → 下の★★にご記入ください
3．いいえ

Q20 根拠に基づく介護実践教育についてヒアリングさせて頂くことは可能ですか。（1つに〇）

1．はい
2．学校の承諾があれば可能 → 下の★★にご記入ください
3．いいえ

Q21 根拠に基づく介護実践教育についての座談会にご参加いただくことは可能ですか。（1つに〇）

1．はい
2．学校の承諾があれば可能 → 下の★★にご記入ください
3．いいえ

★★Q19．20．21の「1はい」または「2　学校の承諾があれば可能」に〇の場合は、以下にご記入をお願いいたします。

都道府県 ＿＿＿＿＿＿＿＿

養成校名 ＿＿＿＿＿＿＿＿

ご協力いただける先生のお名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先メール ＿＿＿＿＿＿＿＿

本調査研究報告書の郵送をご希望の場合は、以下にご記載ください。
2024年4月以降に郵送させていただきます。

送り先住所　〒 ＿＿＿＿＿＿＿＿

お宛名 ＿＿＿＿＿＿＿＿

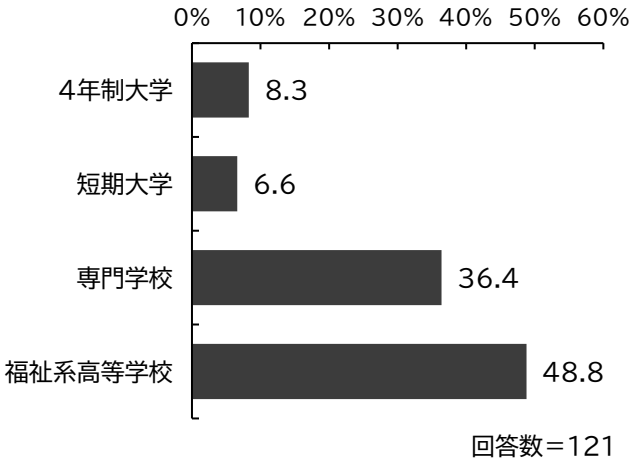
～お忙しいなか、ご協力をいただきありがとうございました～

3　アンケート調査結果

3－1　回答養成校の基本属性

（1）回答養成校の学校種別及び教育年限

Q1　学校種別をお教えください。(1つに〇)

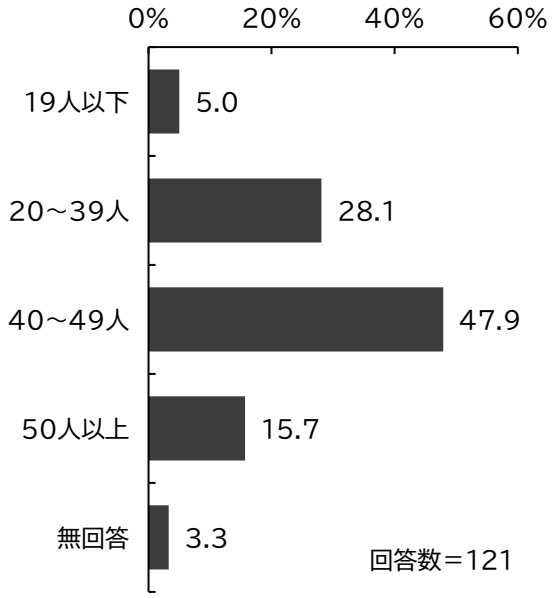


Q2　教育年限をお教えください。

教育年限	回答数
1 年	3
2 年	50
3 年	48
4 年	12
無回答	8
合計	121

（2）生徒・学生数及び教員数

Q3　生徒･学生数をお教えください。



Q4　教員数をお教えください。

教員数専任　回答数=121	
3 人以下	27.3%
4 人	29.8%
5 人	19.0%
6 人以上	19.0%
無回答	5.0%
教員数専任以外　回答数=121	
3 人以下	26.4%
4～10 人	29.8%
11 人以上	18.2%
無回答	25.6%

３－２　根拠に基づく介護実践と介護過程を結びつける教育

（１）介護過程の定義や展開する意義・目的に関する認識

Q7　貴校では、①介護過程の定義や②展開する意義・目的をどのように認識していますか。

①②の回答が混在していたため、下表の流れで整理している。

①介護過程の定義に記載されていた「介護過程の目的」

Q7①介護過程の定義に記載されていた「介護過程の目的」	コーディング	中項目	大項目
個々の利用者に対して、介護福祉士が利用者の生活課題を見出し、アセスメント、介護計画の立案、介護の実施、評価を行い、利用者にとって少しでもよりよい生活につなげて道筋のことである	少しでもより良い生活につなげること	より良い生活・人生の実現	本人らしい生活・人生のため
介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人にとって「よりよい生活・人生」を実現していくための道筋のこと	その人にとってより良い生活・人生を実現する		
介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人にとってより良い生活、よりよい人生を実現していくための道筋	その人にとってより良い生活、人生を実現する		
介護福祉士の専門性のひとつであり、尊厳を守るために行われるもの、利用者が望む「よりよい生活、よりよい人生を実現するために行う科学的な思考過程」	尊厳を守るため 利用者が望むより良い生活・人生を実現する		
対象者の望む生活（よりよい生活）を実現する思考・実践過程	望む生活（より良い生活）の実現		
介護過程とは、介護を必要としている利用者が望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するという介護の目的を達成するために、介護の専門性にもとづき情報の収集・分析を行い、支援課題を整理し、根拠にもとづく介護を展開する支援過程	本人が望むより良い生活・人生を実現する		
利用者の生活上の課題解決によって「よりよい生活・人生」を実現するための道筋	より良い生活・人生を実現すること		
利用者の生活上の課題を解決し、その人にとって「よりよい生活」「よりよい人生」を実現していくための道筋の事	より良い生活・人生を実現すること		
介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人にとって「よりよい生活」「よりよい人生」を実現していくためのプロセス	より良い生活・人生を実現する		
介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人にとってより良い生活、よりよい人生を実現できるようにするために、全体像を把握し、その人の状態に合わせて、専門的知識、技術を活用した客観的で科学的な思考過程のこと	より良い生活・人生を実現できるようにする		
利用者個々のニーズを導き出し、そのニーズに応じた介護の実践をおこない、よりよい生活を提供する	より良い生活の提供		
その人にとって「よりよい生活」「よりよい人生」を実現していくための道筋のこと	より良い生活・人生を実現する		
利用者の生活の支援において、介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、よりよい生活を実現するためのプロセス	より良い生活を実現する		
よりよい生活を実現するための道すじ	より良い生活を実現する		
利用者の「よりよい生活」「よりよい人生」の実現に向けて介護実践を展開するためのプロセス及びその技術・方法	より良い生活・人生の実現		
利用者のよりよい生活や人生を実現していくためのプロセス	より良い生活や人生を実現すること		
介護過程とは利用者が望む「よりよい生活」「より良い人生」を実現するという介護の目的を達成するために行う、専門的知識・技術を活用した客観的で科学的な思考過程	利用者が望むより良い生活・人生を実現する		
利用者の尊厳の保持、自立生活支援の観点から、利用者が望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するという介護の目的を達成するために、専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程のこと	利用者が望むより良い生活・人生を実現する		

Q7①介護過程の定義に記載されていた「介護過程の目的」	コーディング	中項目	大項目
利用者の望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するという介護の目的を達成するための専門的知識を活用した客観的で科学的な思考過程	利用者が望むより良い生活・人生を実現する	より良い生活・人生の実現	本人らしい生活・人生のため
利用者がより良い人生、より良い生活を送るために取り組む科学的思考と実践のプロセス	利用者のより良い人生・生活を送る		
利用者が望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するという、介護の目的を達成するために行う専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程	利用者が望むより良い生活・人生を実現する		
利用者のより良い人生、より良い生活に向けて取り組む	利用者のより良い人生・生活		
利用者の生活をより良くするために、客観的・科学的に介護することを目的とする	利用者の生活をより良くする		
利用者の自立の維持・向上そして利用者の望む生活の実現をするために、エビデンスに基づいた実践を行うこと	自立の維持・向上と望む生活実現	望む生活の実現	
利用者の望む暮らし、その人らしさを科学的な根拠に基づく思考過程	利用者の望む暮らし、その人らしさ		
利用者が望む生活の実現に向けて、意図的・計画的な介護を展開するプロセス	望む生活の実現		
「人間関係を築きながら対象者が望む生活を実現するために、専門的知識や技術を活用しながら生活課題を明確にし、根拠に基づく実践を示すための科学的な思考と導き出された支援を実践する過程である」と定義に授業で示すとともに、専任教員の共通認識のもとで教育にあたっている	対象者が望む生活を実現するために		
利用者が望む生活を実現するために必要な課題を解決すること	利用者が望む生活の実現		
利用者の望む生活を実現するために望ましい方法を利用者視点で考え、実践すること	利用者が望む生活の実現		
利用者の希望する生活の実現に向けて、意図的に介護を展開するためのプロセス	利用者が望む生活の実現		
利用者が望む生活を実現するために科学的思考にて、課題を展開し、介護実践する	利用者が望む生活の実現		
「利用者が望む生活を実現するために取り組む科学的思考と実践のプロセス」をいう、護過程は、介護実践の根拠となるものであり、利用者の生活支援において、個別ケアの方向性や具体的な介護方法を示すものである	利用者が望む生活の実現		
利用者が望む生活を実現させるための科学的思考とプロセス	利用者が望む生活の実現		
利用者が望む生活の実現のために展開する思考と実践のプロセスである	利用者が望む生活の実現		
利用者の望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するという介護の目的を達成するための専門的知識を活用した客観的で科学的な思考過程	利用者が望むより良い生活・人生を実現する		
利用者の望む生活実現のための科学的な思考過程および実践課程	利用者の望む生活の実現		
利用者の望む生活の実現	利用者の望む生活の実現		
利用者が望む生活を実現するために取り組む、科学的思考と実践のプロセスのことであり、介護実践の根拠となるもの	利用者が望む生活の実現		
利用者が望む生活を実現するために取り組む、科学的思考と実践のプロセスのこと	利用者が望む生活の実現		
利用者が望む生活を実現するために取り組む、科学的思考と実践のプロセス	利用者が望む生活の実現		
ご利用者が望む生活を実現するために取り組む、科学的思考と実践のプロセス	利用者が望む生活の実現		
利用者が望む生活を実現するために取り組む、科学的思考と実践のプロセスのこと	利用者が望む生活の実現		
利用者が望む日常生活を実現するために取り組む科学的思考と実践のプロセスで介護実践の根拠となるもの	利用者が望む日常生活の実現		
介護が必要な方の状況や、どのような生活を望んでいるかを把握し、望む生活の実現のためにはどのような支援が必要なのか介護福祉職の専門的な知識や技術を活用し思考言語化し、ケアの根拠を明確にした上で介護を提供する、また、それによって介護者それぞれの思いつきや感覚ではなくチームで統一したケアを行うこと	望む生活の実現		

Q7①介護過程の定義に記載されていた「介護過程の目的」	コーディング	中項目	大項目
高齢者のその人らしい生活の実現のため、根拠をもって支援を行うためのもの	高齢者のその人らしい生活の実現	その人らしい生活の実現	本人らしい生活・人生のため
介護を必要とする人の全体像を捉え、その人らしい生活を実現するためにどのような介護が必要なのか、目的にそったプロセスを経て介護計画を作成し、専門職として生活課題を解決させるための思考過程としている	その人らしい生活の実現 生活課題の解決		
利用者のその人らしい生活や自己実現を支援するための科学的な思考過程	その人らしい生活や自己実現支援		
利用者がその人らしい暮らしが送れるように課題を明確にし、改善策を実践していく過程のこと	その人らしい暮らしが送れる		
中央法規「介護福祉士養成講座 9 介護過程」において、「介護過程とは、介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人にとってよりよい生活、よりよい人生を実現していくための道筋」と記されている、本校においても、その人らしさを実現するための思考プロセスであるとの認識に立ち、指導を重ねている	その人らしさを実現する		
介護過程とは、利用者がその人らしい生活を営むことができるよう利用者の生活上のニーズ（課題）を把握し、計画を立案し、実施、評価する一連の過程です	その人らしい生活ことができる その人らしい人生・生き方をサポートする		
その人らしい人生、生き方をサポートするための道しるべ			
利用者の方がその人らしく生活できるよう、またそれを維持する為に意図的に介護を計画・実践し、評価する	その人らしく生活し、維持する		
利用者の生活の質を向上させるための課題解決に向けた問題解決プロセス思考というような定義をしています	利用者の生活の質を向上させる	生活の質の向上	
介護過程は、利用者様の健康や生活の質を向上させるための計画的で継続的なアプローチと認識しています また、家族や他の関係者、職員との連携、専門職との協力を通じて、総合的なサポート体制を構築することも重要だと考えています	利用者の健康や生活の質を向上させる		
利用者にあった個別ケアを実践するための、客観的で科学的な思考過程のこと	個別ケアを実践する	個別ケアの実践	介護福祉の原則の実践のため
介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人の個別性に応じた生活、人生を実現していくためのプロセスと認識（高校教科書と介護福祉士テキストを参考にしている）	個別性に応じた生活・人生を実現する		
利用者一人ひとりの状態に応じた適切な支援を行うためのプロセス（PDCA サイクル）、また情報分析や課題抽出、目標設定に「介護福祉士」の支援の特徴や価値観が表出され、多職種における介護福祉職の特徴があらわれる	利用者一人ひとりの状態に応じた適切な支援を行う		
利用者の尊厳の保持と自立支援に向け、本人や家族が望む生活の元、ICF の観点の枠組みから生活課題を明らかにし、計画的・継続的によりよい生活を送るためのツール（手段）	利用者の尊厳の保持と自立支援	利用者の尊厳	
利用者の尊厳を主とした介護実践	利用者の尊厳		
介護福祉の専門性をいかして利用者の尊厳を守りながら自立支援を行い、利用者の状況に応じた個別ケアを実践するための思考過程、介護実践の過程	利用者の尊厳、自立支援、個別ケアを実践する		
科学的で根拠のある介護を実践するため、情報収集、課題（ニーズ）の抽出、計画、実施・評価を行うもの	科学的で根拠ある介護を実践する	根拠ある実践	専門職としての実践のため
根拠に基づく介護実践を行うための思考過程を可視化したもの	根拠に基づく介護実践を行うため		
アセスメント、介護計画の立案、実施、評価の 4 つのプロセスで構成され、専門的で根拠ある介護の内容と方法で実践するための思考過程	専門的で根拠ある介護の内容と方法で実践する		
根拠のある介護実践のため、利用者理解、専門職としての専門性	根拠のある介護実践		
根拠ある介護を展開するために専門家として行う客観的で科学的な思考過程であり、サービス提供において果たすべき約束事、多職種連携を図る共通言語	根拠ある介護を展開する		
介護過程は、アセスメント、介護計画、実施、評価の一連のプロセスであること、介護過程の過程（プロセス）には、介護における支援の根拠を明確にし、妥当性のある根拠に基づくと実践を導くための思考過程と支援を行うための実践過程があると認識している	支援の根拠を明確にして妥当性のある根拠に基づく実践を導く		
介護が必要な人の生活課題を明確にし、解決するための支援の方法を計画し、実施評価する一連の支援過程	生活課題を解決する	生活課題を解決する	

Q7①介護過程の定義に記載されていた「介護過程の目的」	コーディング	中項目	大項目
生活上の困難、支障をかかえている人の生活課題を解決する、科学的活動のプロセス－個別ケア		生活課題を解決する	専門職としての実践のため
利用者の生活上の課題解決に向けて取り組むプロセス	利用者の生活上の課題解決		
人間としてあたりまえの日常生活を送る上での、生活上の支障を抱えている人の生活課題を、解決するために取り組む、科学的活動のプロセスとして介護過程がある	生活課題を解決すること		
経験則に伴わない、科学的な介護福祉実践のための思考過程	科学的な介護福祉実践	科学的介護実践	
科学的介護を実践するためのプロセス	科学的介護を実践する		
養成校で学ぶべきこと	養成校で学ぶべきこと	その他	その他
利用者本位を念頭にした、介護サービスの提供全般	利用者本位		
介護実践のための一連の思考の過程と実践のプロセス	介護実践		
質の高い介護を提供するため、利用者の情報収集から介護計画を立案するもの	質の高い介護を提供する		

①介護過程の定義に記載されていた「介護過程の手段・方法」

Q7①介護過程の定義に記載されていた「介護過程の手段・方法」	コーディング	中項目	大項目
個々の利用者に対して、介護福祉士が利用者の生活課題を見出し、アセスメント、介護計画の立案、介護の実施、評価を行い、利用者にとって少しでもよりよい生活につなげて道筋のことである	アセスメント、介護計画の立案、介護の実施、評価を行う	アセスメント・計画・実施・評価のプロセスで	科学的アプローチによって
介護過程とは、介護を必要としている利用者が望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するという介護の目的を達成するために、介護の専門性にもとづき情報の収集・分析を行い、支援課題を整理し、根拠にもとづく介護を展開する支援過程	情報の収集・分析を行い、支援過程を整理し、根拠に基づく介護を展開する		
利用者の方がその人らしく生活できるよう、またそれを維持する為に意図的に介護を計画・実践し、評価する	意図的に介護を計画・実践し、評価する		
介護の目的を達成するために必要な各プロセスにそって考え、言語化して行動を記録し、関係者と話し合い、協力関係を築き、介護職を教育・訓練する方法であり技術	必要な各プロセスにそって考え、言語化して行動を記録し、関係者と話し合い、協力関係を築き、介護職を教育・訓練する		
介護過程とは、利用者がその人らしい生活を営むことができるよう利用者の生活上のニーズ（課題）を把握し、計画を立案し、実施、評価する一連の過程です	生活上のニーズを把握、計画立案、実施、評価する		
介護を必要とする人の全体像を捉え、その人らしい生活を実現するためにどのような介護が必要なのか、目的にそったプロセスを経て介護計画を作成し、専門職として生活課題を解決させるための思考過程としている	その人の全体像を捉え、目的に沿ったプロセスを経て介護計画を作成		
介護過程とは、利用者 1 人ひとりが望む生活を実現するために、多角的な情報収集を行い、生活上のニーズや解決すべき課題を明確にし、介護計画を立案、実施、評価する一連の思考と実践の過程である、この過程は、利用者との関係が続く限り継続する	多角的な情報収集を行い、生活上のニーズや解決すべき課題を明確にし、介護計画を立案、実施、評価する		
アセスメント、介護計画の立案、実施、評価の 4 つのプロセスで構成され、専門的で根拠ある介護の内容と方法で実践するための思考過程	アセスメント、介護計画の立案、実施、評価の 4 つのプロセス		
介護が必要な人の生活課題を明確にし、解決するための支援の方法を計画し、実施評価する一連の支援過程	支援の方法を計画し、実施評価する		
利用者が望む生活を実現するために科学的思考にて、課題を展開し、介護実践する	科学的思考にて課題を展開し、介護実践する	科学的思考で	
よりよい介護を提供するまでの道筋を科学的思考と問題解決思考に基づいて介護を展開する支援過程	科学的思考と問題解決思考に基づいて		
「人間関係を築きながら対象者が望む生活を実現するために、専門的知識や技術を活用しながら生活課題を明確にし、根拠に基づく実践を示すための科学的な思考と導き出された支援を実践する過程である」と定義に授業で示すとともに、専任教員の共通認識のもとで教育にあたっている	人間関係を築きながら、生活課題を明確にし、根拠に基づく実践を示すこと	根拠に基づいて	
介護が必要な方の状況や、どのような生活を望んでいるかを把握し、望む生活の実現のためにはどのような支援が必要なのか介護福祉職の専門的な知識や技術を活用し思考言語化し、ケアの根拠を明確にした上で介護を提供する、また、それによって介護者それぞれの思いつきや感覚ではなくチームで統一したケアを行うこと	専門的知識や技術を活用して言語化し、ケアの根拠を明確にして介護を提供する		
介護福祉士の専門性を見出す重要な科目と考えている 利用者の方がその人らしい生活・望む生活が送れるように生活課題を解決（エビデンスに基づいた介護展開を実施）していく道筋であると考える	生活課題をエビデンスに基づいた介護展開で解決する		
利用者の尊厳の保持と自立支援に向け、本人や家族が望む生活の元、ICF の観点の枠組みから生活課題を明らかにし、計画的・継続的によりよい生活を送るためのツール（手段）	ICF の観点から生活課題を明らかにし、計画的・継続的に行う	生活上の課題解決によって	生活課題の解決によって
利用者がその人らしい暮らしが送れるように課題を明確にし、改善策を実践していく過程のこと	課題を明確にし、改善策を実践する		
利用者の生活上の課題解決によって「よりよい生活・人生」を実現するための道筋	生活上の課題解決		
介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人にとって「よりよい生活」「よりよい人生」を実現していくためのプロセス	生活上の課題を解決する		

Q7①介護過程の定義に記載されていた「介護過程の手段・方法」	コーディング	中項目	大項目
介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人にとってより良い生活、よりよい人生を実現できるようにするために、全体像を把握し、その人の状態に合わせて、専門的知識、技術を活用した客観的で科学的な思考過程のこと	全体像を把握、その人の状態に合わせて、専門的知識、技術を活用し生活上の課題を解決する	生活上の課題解決によって	生活課題の解決によって
介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人の個別性に応じた生活、人生を実現していくためのプロセスと認識（高校教科書と介護福祉士テキストを参考にしている）	利用者の生活上の課題を解決する		
介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人にとってより良い生活、よりよい人生を実現していくための道筋	利用者の生活上の課題を解決する		
利用者の生活の支援において、介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、よりよい生活を実現するためのプロセス	利用者の生活上の課題を解決する		
介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人にとって「よりよい生活・人生」を実現していくための道筋のこと	利用者の生活上の課題を解決		
利用者の生活上の課題を解決し、その人にとって「よりよい生活」「よりよい人生」を実現していくための道筋の事	利用者の生活上の課題を解決		
介護過程とは利用者が望む「よりよい生活」「より良い人生」を実現するという介護の目的を達成するために行う、専門的知識・技術を活用した客観的で科学的な思考過程	専門的知識・技術を活用する	専門的知識を活用して	専門的知識によって
利用者の尊厳の保持、自立生活支援の観点から、利用者が望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するという介護の目的を達成するために、専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程のこと	専門的知識を活用		
利用者の望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するという介護の目的を達成するための専門的知識を活用した客観的で科学的な思考過程	専門的知識を活用		
利用者が望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するという、介護の目的を達成するために行う専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程	専門的知識を活用		
利用者が望む生活の実現に向けて、意図的・計画的な介護を展開するプロセス	意図的・計画的な介護を展開する	その他	その他
利用者のできること、できないこと、望んでいることを把握して、専門的知識を活用し、利用者の状態に応じて行う計画的で客観的で科学的な思考過程	利用者のことを把握し、利用者の状況に応じて行う		
利用者のフェルトニーズを理解し実現できるよう支援することは勿論ではあるが、専門職として基礎知識をもとにノーマティブニーズを考え実践すること	フェルトニーズとノーマティブニーズを考え		
介護過程は単なる経験にもとづく技術を積み重ねていくだけでなく、個別事例から積み上げてきた知識をもとに、介護の原理原則を導き出し、介護の専門性や質を向上させていくことである	積み上げられた個別事例の知識をもとに介護の原理原則を導き出す		
利用者の希望する生活の実現に向けて、意図的に介護を展開するためのプロセス	意図的な介護を展開する		
利用者個々のニーズを導き出し、そのニーズに応じた介護の実践をおこない、よりよい生活を提供する	利用者個々のニーズを導き出し、ニーズに応じた介護実践を行う		

①介護過程の定義に記載されていた「介護過程とは」

Q7①介護過程の定義に記載されていた「介護過程とは」	コーディング	中項目	大項目
利用者のできること、できないこと、望んでいることを把握して、専門的知識を活用し、利用者の状態に応じて行う計画的で客観的で科学的な思考過程	客観的で科学的な思考過程	科学的思考過程	科学的思考過程
中央法規「介護福祉士養成講座 9 介護過程」において、「介護過程とは、介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人にとってよりよい生活、よりよい人生を実現していくための道筋」と記されている、本校においても、その人らしさを実現するための思考プロセス	思考プロセス		
「人間関係を築きながら対象者が望む生活を実現するために、専門的知識や技術を活用しながら生活課題を明確にし、根拠に基づく実践を示すための科学的な思考と導き出された支援を実践する過程である」と定義に授業で示すとともに、専任教員の共通認識のもとで教育にあたっている	科学的な思考、導き出された支援を実践する過程		

Q7①介護過程の定義に記載されていた「介護過程とは」	コーディング	中項目	大項目
利用者にあった個別ケアを実践するための、客観的で科学的な思考過程のこと	客観的で科学的な思考過程	科学的思考過程	科学的思考過程
介護過程とは利用者が望む「よりよい生活」「より良い人生」を実現するという介護の目的を達成するために行う、専門的知識・技術を活用した客観的で科学的な思考過程	客観的で科学的な思考過程		
利用者が望む生活を実現するために取り組む、科学的思考と実践のプロセスのことであり、介護実践の根拠となるもの	科学的思考と実践のプロセス、介護実践の根拠		
利用者が望む生活を実現するために取り組む、科学的思考と実践のプロセスのこと	科学的思考と実践のプロセス、介護実践の根拠		
利用者の尊厳の保持、自立生活支援の観点から、利用者が望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するという介護の目的を達成するために、専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程のこと	客観的で科学的な思考過程		
利用者の望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するという介護の目的を達成するための専門的知識を活用した客観的で科学的な思考過程	客観的で科学的な思考過程		
介護過程とは、利用者 1 人ひとりが望む生活を実現するために、多角的な情報収集を行い、生活上のニーズや解決すべき課題を明確にし、介護計画を立案、実施、評価する一連の思考と実践の過程である、この過程は、利用者との関係が続く限り継続する	一連の思考と実践の過程		
対象者の望む生活（よりよい生活）を実現するための思考・実践過程	思考・実践過程		
利用者が望む生活を実現するために取り組む、科学的思考と実践のプロセス	科学的思考と実践のプロセス、介護実践の根拠		
アセスメント、介護計画の立案、実施、評価の 4 つのプロセスで構成され、専門的で根拠ある介護の内容と方法で実践するための思考過程	思考過程		
介護福祉の専門性をいかして利用者の尊厳を守りながら自立支援を行い、利用者の状況に応じた個別ケアを実践するための思考過程、介護実践の過程	思考過程、介護実践の過程		
利用者の生活の質を向上させるための課題解決に向けた問題解決プロセス思考というような定義をしています	課題解決に向けた問題解決プロセス思考		
利用者がより良い人生、より良い生活を送るために取り組む科学的思考と実践のプロセス	科学的思考と実践のプロセス		
「利用者が望む生活を実現するために取り組む科学的思考と実践のプロセス」をいう、介護過程は、介護実践の根拠となるものであり、利用者の生活支援において、個別ケアの方向性や具体的な介護方法を示すものである	科学的思考と実践のプロセス		
利用者の望む暮らし、その人らしさを科学的な根拠に基づく思考過程	科学的な根拠に基づく思考過程		
利用者が望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するという、介護の目的を達成するために行う専門知識を活用した客観的で科学的な思考過程	客観的で科学的な思考過程		
よりよい介護を提供するまでの道筋を科学的思考と問題解決思考に基づいて介護を展開する支援過程	よりよい介護を提供するまでの道筋を展開する思考過程		
利用者の望む生活実現のための科学的な思考過程および実践課程	科学的な思考過程・実践過程		
介護福祉士の専門性のひとつであり、厳を守るために行われるもの、利用者が望む「よりよい生活、よりよい人生を実現するために行う科学的な思考過程」	科学的な思考過程・実践過程		
根拠に基づく介護実践を行うための思考過程	根拠に基づく介護実践を行うための思考過程		
ご利用者が望む生活を実現するために取り組む、科学的思考と実践のプロセス	科学的思考と実践のプロセス		
利用者が望む生活を実現するために取り組む、科学的思考と実践のプロセスのこと	科学的思考と実践のプロセス		
利用者が望む生活を実現させるための科学的思考とプロセス	科学的思考とプロセス		
利用者のその人らしい生活や自己実現を支援するための科学的な思考過程	科学的な思考過程・実践過程		
介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人にとってより良い生活、よりよい人生を実現できるようにするために、全体像を把握し、その人の状態に合わせて、専門的知識、技術を活用した客観的で科学的な思考過程のこと	客観的で科学的な思考過程		
利用者様にあった介護を展開するための思考過程	利用者にあった介護を展開するための思考過程		
経験則に伴わない、科学的な介護福祉実践のための思考過程	思考過程、介護実践の過程		

Q7①介護過程の定義に記載されていた「介護過程とは」	コーディング	中項目	大項目
根拠ある介護を展開するために専門家として行う客観的で科学的な思考過程であり、サービス提供において果たすべき約束事、多職種連携を図る共通言語	客観的で科学的な思考過程	科学的思考過程	科学的思考過程
介護過程は、アセスメント、介護計画、実施、評価の一連のプロセスであること、介護過程の過程（プロセス）には、介護における支援の根拠を明確にし、妥当性のある根拠に基づくと実践を導くための思考過程と支援を行うための実践過程があると認識している	思考過程と実践過程		
客観的で科学的な思考と実践の過程	客観的で科学的な思考と実践の過程		
根拠に基づいた思考過程	根拠に基づいた思考過程		
利用者が望む日常生活を実現するために取り組む科学的思考と実践のプロセスで介護実践の根拠となるもの	科学的思考と実践のプロセス		
個々の利用者に対して、介護福祉士が利用者の生活課題を見出し、アセスメント、介護計画の立案、介護の実施、評価を行い、利用者にとって少しでもよりよい生活につなげて道筋のことである	道筋	道筋	プロセス
利用者の生活上の課題解決によって「よりよい生活・人生」を実現するための道筋	道筋		
よりよい生活を実現するための道筋	道筋		
その人にとって「よりよい生活」「よりよい人生」を実現していくための道筋のこと	道筋		
介護過程とは、利用者がその人らしい生活を営むことができるよう利用者の生活上のニーズ（課題）を把握し、計画を立案し、実施、評価する一連の過程です	一連の過程		
介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人にとって「よりよい生活・人生」を実現していくための道筋のこと	道筋		
利用者の生活上の課題を解決し、その人にとって「よりよい生活」「よりよい人生」を実現していくための道筋の事	道筋		
介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人にとってより良い生活、よりよい人生を実現していくための道筋	道筋		
介護福祉士の専門性を見出す重要な科目と考えている、利用者の方がその人らしい生活・望む生活が送れるように生活課題を解決（エビデンスに基づいた介護展開を実施）していく道筋と考える	道筋		
利用者のよりよい生活や人生を実現していくためのプロセス	プロセス	一連のプロセス	
人間としてあたりまえの日常生活を送る上での、生活上の支障を抱えている人の生活課題を、解決するために取り組む、科学的活動のプロセスとして介護過程がある	科学的活動のプロセス		
利用者が望む生活の実現に向けて、意図的・計画的な介護を展開するプロセス	プロセス		
利用者の「よりよい生活」「よりよい人生」の実現に向けて介護実践を展開するためのプロセス及びその技術・方法	実践プロセス・技術・方法		
介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人にとって「よりよい生活」「よりよい人生」を実現していくためのプロセス	プロセス		
生活上の困難、支障をかかえている人の生活課題を解決する、科学的活動のプロセー個別ケア	科学的活動のプロセス―個別ケア		
利用者の希望する生活の実現に向けて、意図的に介護を展開するためのプロセス	プロセス		
介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人の個別性に応じた生活、人生を実現していくためのプロセスと認識（高校教科書と介護福祉士テキストを参考にしている）	プロセス		
利用者の生活上の課題解決に向けて取り組むプロセス	プロセス		
利用者一人ひとりの状態に応じた適切な支援を行うためのプロセス（PDCA サイクル）、また情報分析や課題抽出、目標設定に「介護福祉士」の支援の特徴や価値観が表出され、多職種における介護福祉職の特徴があらわれる	プロセス		
介護が必要な人の生活課題を明確にし、解決するための支援の方法を計画し、実施評価する一連の支援過程	一連の支援過程		
利用者の生活の支援において、介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、よりよい生活を実現するためのプロセス	プロセス		
介護を行っていくうえで、必要な考え方のプロセス	のプロセス		
科学的介護を実践するためのプロセス	プロセス		
介護実習や介護総合演習と連携して取り組むもの、サービスを利用しようとしたところからサービスの終了までの一連流れ	サービス利用開始時から終了までの一連の流れ		
利用者が望む生活の実現のために展開する思考と実践のプロセスである	思考と実践のプロセス		
介護実践のための一連の思考の過程と実践のプロセス	一連の試行の過程と実践のプロセス		

Q7①介護過程の定義に記載されていた「介護過程とは」	コーディング	中項目	大項目
介護過程とは、介護を必要としている利用者が望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するという介護の目的を達成するために、介護の専門性にもとづき情報の収集・分析を行い、支援課題を整理し、根拠にもとづく介護を展開する支援過程	根拠に基づいた支援過程	根拠に基づくもの	専門職としての支援
高齢者のその人らしい生活の実現のため、根拠をもって支援を行うためのもの	根拠を持って支援を行うためのもの		
根拠に基づく介護実践	根拠に基づく介護実践		
利用者が望む日常生活を実現するために取り組む科学的思考と実践のプロセスで介護実践の根拠となるもの	介護実践の根拠となるもの		
介護過程は単なる経験にもとづく技術を積み重ねていくだけでなく、個別事例から積み上げてきた知識をもとに、介護の原理原則を導き出し、介護の専門性や質を向上させていくことである	介護の専門性や質を向上させること	専門性たるもの	
根拠のある介護実践のため、利用者理解、専門職としての専門性	利用者理解、専門職としての専門性		
介護福祉士の専門性の根幹となるもの、思考過程の重要なアセスメントを適切に行える介護福祉分野の専門性	介護福祉分野の専門性		
介護が必要な方の状況や、どのような生活を望んでいるかを把握し、望む生活の実現のためにはどのような支援が必要なのか介護福祉職の専門的な知識や技術を活用し思考言語化し、ケアの根拠を明確にした上で介護を提供する、また、それによって介護者それぞれの思いつきや感覚ではなくチームで統一したケアを行うこと	チームで統一したケアを行うこと	統一したケアを行うためのもの	
介護・福祉の現場では、介護福祉士などの専門職以外の人たちも、共に介護や支援など専門職と同じ対応方法を提供し働いている、異なる考え方や価値観を持った人と人が関わるその中で、安心安全を保障できる活動がなされるためにも、専門的知識を持った人が中心となり、誰にでもわかりやすく、明確な目的を持った支援が提供できるように準備されるものであると理解している	誰にでもわかりやすく、明確な目的を持った支援が提供できるよう準備されるもの		
教科書通り	教科書通り	その他	その他
どのような状況になっても、基本的人権が守られること	基本的人権が守られること		
厚労省の規定通りです	厚労省の規定通り		
利用者理解の方法	利用者理解の方法		
その人らしさを見つめるもの	その人らしさを見つめるもの		
利用者、家族のニーズあったケアプラン	利用者、家族のニーズあったケアプラン		
介護過程は、利用者様の健康や生活の質を向上させるための計画的で継続的なアプローチと認識しています、また、家族や他の関係者、職員との連携、専門職との協力を通じて、総合的なサポート体制を構築することも重要だと考えています	計画的で継続的なアプローチ		

②介護過程を展開する意義・目的

介護過程を展開する意義・目的	コーディング	中項目	大項目
介護福祉士の一方的な援助、支援とならぬように尊厳の保持や自立支援、利用者本位を念頭に置きながら、その方らしい生活の再構築を支援することを目的とする	その方らしい生活の再構築を支援すること	その人らしい生活の実現	利用者のための実践
利用者によって異なる生活課題に応じて、その人らしい生活を側面的に支援し、個別的なケアとして実践できるものとして展開されるものである	その人らしい生活を側面的に支援		
利用者主体の計画を作成し、実践することでよりよいくらし、その人らしい生き方を支援するために、必ず必要な手立て	よりよいくらし、その人らしい生き方を支援する		
対象者が望む自分らしい生活の実現に向けて適切な支援を考えることができる	対象者が望む自分らしい生活の実現に向けて適切な支援を考えることができる		
利用者一人一人のその人らしさ、個人因子から生活や人生に対する思い、望みを知り、介護福祉士の専門的知識で、その実現のためのケアを考、ケアの標準化、統一を図る	利用者一人一人のその人らしさ、その実現のためのケアを考える		
利用者がその人らしくより良い生活が送れるよう支援すること	利用者がその人らしくより良い生活が送れるよう支援する		
介護過程とは、利用者がその人らしい生活を営むことができるよう、利用者の生活上のニーズ（課題）を把握し、計画を立案し、実施・評価する一連の過程である	利用者がその人らしい生活を営むことができる		
老いにともなう心身のおとろえ、障害があることによって生じる生活上の困りごとを解決し、利用者が望むその人らしい生活を支援するため	利用者が望むその人らしい生活を支援する		

介護過程を展開する意義・目的	コーディング	中項目	大項目
その人らしい生活の実現するために行うこと	その人らしい生活の実現するために行う	その人らしい生活の実現	利用者のための実践
その人らしい暮らしが送れるように問題点の改善・解消を目的とし、どのような介護が必要なのかを考え実践するというプロセス	その人らしい暮らしを送るための問題点の改善・解消		
利用者が望むその人らしい生活の実現を目指し、生活上のニーズや解決すべき課題を明確にし、介護計画を立案、実施、評価する一連の思考と実践の課程	利用者が望むその人らしい生活の実現		
高齢者の質の高い生活の実現のため、他の科目で学んだ知識、根拠をもってその人らしい生活の実現にむけ支援を行う思考と実践の過程	その人らしい生活の実現にむけ支援を行う		
科学的根拠に基づき、利用者にその人らしい生活を過ごしていただくための介護を提供するためには計画的に行う介護過程が必要不可欠であることを意識させてます	利用者にその人らしい生活を過ごしていただくため		
その人らしい生活を実現させるために必要なもの	その人らしい生活を実現させるため		
利用者のその人らしい生活を実現するため	利用者のその人らしい生活を実現するため		
4 つのプロセスを繰り返し展開することを通して、利用者の望むその人らしい生活の実現をサポートするもの	利用者の望むその人らしい生活の実現をサポートする		
利用者のその人らしい生活や自己実現を支援するために必要なこと	利用者のその人らしい生活や自己実現を支援するため		
利用者の全体像を把握して課題を導き出し、根拠のある最適な介護を意図的に展開できるように計画を立て、実施、評価、再アセスメントを繰り返しながら、利用者本人が望むその人らしい生活の再構築を側面的に支援することができる	利用者本人が望むその人らしい生活の再構築を側面的に支援する		
利用者の QOL の向上、利用者の望む生活実現に向けて一人ひとりの適切な支援を導き出す	利用者の望む生活実現	望む生活の実現	
利用者の思いを実現するため、カンや経験だけで介護をするのではなく、根拠や理由があって行うもの、課題を抽出し、それらを解決するための実践	利用者の思いを実現する		
介護が必要な方の心身の状況に合わせ、尊厳や自立に配慮したケアをチームで提供することで、生活の質を高め、その方の望む生活を実現を支援する また介護福祉職の知識や技術を活用した根拠のある介護実践を行うことが介護福祉職の専門性につながっていく	その方の望む生活を実現を支援する		
生活支援における専門知識を活用したケアの標準化、利用者の心身の状況に応じたケアの個別化を他職種を含めたチームで実践し、その人が望む暮らしの実現をサポートする	その人が望む暮らしの実現をサポートする		
利用者の望む生活の実現（定義、意義、目的を同程度に認識）	利用者の望む生活の実現		
サービス利用者の複雑化、多様化、高度化する介護ニーズがあるなかで介護過程の展開を常に意識しながら、サービス利用者の望む生活を実現するために必要な課題を解決すること	利用者の望む生活を実現するため		
利用者の望む生活の実現	利用者の望む生活の実現		
利用者が望む生活実現のためのもの 介護過程はチームで行うもの、介護過程の展開により利用者に関わる全ての関係者が共通認識を持ち他職種との連携が図れる	利用者が望む生活実現のため		
介護福祉の倫理に基づいた思考と行動を実践し、サービス利用者の生活の質・人生の質を改善し、保ち、高め、サービス利用者が満足のいく生活を継続できることを目的とする	利用者が満足のいく生活を継続できること		
利用者の望む生活を実現する、根拠に基づいた介護を実践する	利用者の望む生活を実現する		
利用者のよりよい生活やよりよい人生を実現するために実施する	利用者のよりよい生活やよりよい人生を実現する	よりよい生活・人生の実現	
利用者の自立を支援するため、よりよい生活を送るため	よりよい生活を送るため		
利用者の自立を支援し、「よりよい生活」「よりよい人生」の実現すること	「よりよい生活」「よりよい人生」の実現する		
利用者にとって「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するために、利用者のできること、できないこと、望んでいること等を把握し、専門的な知識・技術を活用した客観的で科学的な思考過程によって支援していく	「よりよい生活」「よりよい人生」を実現する		
介護福祉職が利用者の生活上の課題を解決し、その人にとって「よりよい生活」「よりよい人生」を実現していくための道筋のこと	その人にとって「よりよい生活」「よりよい人生」を実現していくため		
対象者一人ひとりのよりよい生活支援のためのツール、根拠ある介護福祉実践、本人・関係者との連携・協働、介護評価・介護福祉の質の向上	よりよい生活支援のため		
より良い人生を実現するために必要な課題を解決することや介護の質を統一、向上せせるため	より良い人生を実現するために必要な課題を解決すること		

介護過程を展開する意義・目的	コーディング	中項目	大項目
利用者の生活を「よりよいもの」にするために介護福祉士としての視点から課題を見出し、解決する一連の流れ	利用者の生活を「よりよいもの」にするため	よりよい生活・人生の実現	利用者のための実践
利用者の QOL の向上、利用者の望む生活実現に向けて、一人ひとりの適切な支援を導き出す	利用者の QOL の向上	QOL の向上	
根拠に基づいた介護を行うため、科学的な支援により利用者の生活の質を向上させる	利用者の生活の質を向上させる		
アセスメント→計画→実施→評価を繰り返し展開していくことにより、利用者が望む生活の実現に向けたアセスメントで生活課題を導き出し、介護福祉士が一番考えなければならない QOL の向上を実践できるようにすること	QOL の向上を実践できるようにすること		
介護福祉職は利用者ができること、できないこと、望んでいることなどを把握し、アセスメントの結果から、根拠に基づいた支援を行っていくことで、利用者の QOL の向上につながるので	利用者の QOL の向上につながる		
利用者が望む生活を実現するうえで生じている生活課題を解決することにより、利用者の QOL（生活の質）を向上させること	利用者の QOL（生活の質）を向上させること		
専門職として介護の根拠を示し、多職種と連携を図りながら利用者の生活の質を向上を目指す	利用者の生活の質を向上を目指す		
本人が望む生活を実現するうえで生じている生活課題を解決することにより、本人の生活の質を向上させること	本人の生活の質を向上させること		
1 人の人のニーズを見出し、その方の QOL の向上を目的とするもの	その方の QOL の向上を目的とする		
介護過程の展開によって、利用者の心身の状況に応じた質の高い個別ケアを提供でき、利用者の QOL の向上につながる	利用者の QOL の向上		
利用者のより良い生活を目指す 根拠に基づく支援を学ぶ、思考のあり方を学ぶため	利用者のより良い生活を目指す		
ご利用者が望む生活を実現するうえで生じている生活課題を解決することにより、ご利用者の QOL を向上させることを目的とする	ご利用者の QOL を向上させること		
利用者の自立支援、生活の質の向上を目的として、専門的知識、技術を持って展開されるもの	生活の質の向上		
自己実現のための課題解決と、目指す方向に近づくための支援を生活面からアプローチしていく際に、支援の個別化と標準化を図り実践をふりかえることが、利用者の生活の質の向上につながるため、介護過程の考え方を学ぶことに意義があると考えている	利用者の生活の質の向上につながるため		
利用者の QOL の向上、利用者の望む生活実現に向けて、一人ひとりの適切な支援を導き出す	一人ひとりの適切な支援を導き出す	個別ケアの実践	介護福祉の理念の実践
利用者によって異なる生活課題に応じて、その人らしい生活を側面的に支援し、個別的なケアとして実践できるものとして展開されるものである	個別的なケアとして実践できる		
利用者一人ひとりに適した質の高いケアを提供すること（個別ケアの実践）	個別ケアの実践		
介護過程を展開する意義・目的は、対象者一人一人のその人らしさを理解し、個別化の原則に則り自己実現を図っていくことにあると解している そのためには、マズローの欲求階層説に照らした基本的人権（尊厳）を尊重し、ICF に基づく科学的根拠による援助が不可欠であると認識している	個別化の原則に則り自己実現を図っていくこと		
根拠に基づいた介護の展開によって、利用者の心身の状況に応じた質の高い個別ケアを提供でき、利用者の QOL の向上につながる 利用者が望む生活を実現する上で生じる生活課題を解決し、自己実現を目指しつづけていくこと	利用者の心身の状況に応じた質の高い個別ケアを提供でき、利用者の QOL の向上につながる		
個別ケアの推進、根拠を示したうえでケアができる	個別ケアの推進		
客観的で科学的な思考過程であり、目的は、尊厳を守るケア、個別ケアの実践のためと認識している（高校教科書と介護福祉士テキスト、介護実習の実習指導者や、外部講師の話を参考にしている）	個別ケアの実践のため		
利用者個々の生活のニーズを解決するために介護過程の展開をおこなう	利用者個々の生活のニーズを解決するため		
介護過程の展開によって、利用者の心身の状況に応じた質の高い個別ケアを提供でき、利用者の QOL の向上につながる	質の高い個別ケアの提供		
利用者の個々の特性と状態に応じた支援を行うための思考過程である	利用者の個々の特性と状態に応じた支援を行うため		
利用者の自立を支援するため、よりよい生活を送るため	利用者の自立を支援するため	利用者の自立支援	

介護過程を展開する意義・目的	コーディング	中項目	大項目
利用者の自立を支援し、「よりよい生活」「よりよい人生」の実現すること	利用者の自立を支援	利用者の自立支援	介護福祉の理念の実践
利用者の自立支援を実現する上で、援助者が身につけておくべき考え方	利用者の自立支援の実現		
実践の目的は、次のような視点をもって位置付けている 「活動の維持改善」「参加や役割の維持・拡充・実現」「健康の維持・改善」「社会生活の維持・拡充」「安心・安楽、生活の満足感」 また、実践の基盤として「介護サービスの理念」や「尊厳の保持」「利用者主体」「自立支援」を位置付けている 介護過程の展開が、利用者主体や自立支援といった価値を実現するための方法として考えるようにしている	利用者主体や自立支援といった価値を実現するため		
利用者の自立支援、生活の質の向上を目的として、専門的知識、技術を持って展開されるもの	利用者の自立支援		
根拠に基づいた介護を行うため 科学的な支援により、利用者の生活の質を向上させる	根拠に基づいた介護を行うため	根拠に基づく介護実践	専門職としての支援のため
根拠に基づいた介護を行うため	根拠に基づいた介護を行うため		
経験や勘・偶然のみに頼らず、根拠にもとづいて客観的にアセスメントを行い、介護を実践すること	経験や勘・偶然のみに頼らず、根拠にもとづいて客観的にアセスメントを行い、介護を実践すること		
根拠のある介護実践のため 利用者全体の生活支援の実践のため	根拠のある介護実践のため		
①予測性をもった根拠が明確な介護	予測性をもった根拠が明確な介護		
確かな根拠をもとに介護ケアを行うための過程であり、4 つのプロセスから介護過程を進めていくことにより、一人ひとりに適切でよりよい介護ケアを提供できるようになる	確かな根拠をもとに介護ケアを行うため		
介護実践の根拠となるもの	介護実践の根拠となるもの		
根拠ある介護実践に必要な考え方	根拠ある介護実践に必要な考え方		
根拠のある介護の実績に向けて必要である	根拠のある介護の実績に向けて		
思いつきではなく、科学的な根拠に基づく支援 科学的に進めていくためには調査し、その内容を分析、相関関係、分類するなどの科学的な手続きによって生活主体者のニーズや生活課題の抽出を行う客観的にかつ、仮説的な思考することと、さらにそれらのプログラムを計画的に実施して評価するという仕組みによって、より効果的に実践する一連の活動	科学的な根拠に基づく支援		
学んだ専門知識の統合、思考過程の文章化、介護福祉士の専門性、根拠のある介護	介護福祉士の専門性、根拠のある介護		
根拠に基づく介護を行うための思考過程の訓練	根拠に基づく介護を行うため		
根拠に基づいた介護の実践、皆が同じ方向を向いて介護をすすめる	根拠に基づいた介護の実践		
介護職が専門的な知識や技術を持ちいって介護過程を展開することで、科学的根拠に基づいた介護の実践が可能となり、実践結果を客観的に評価することが可能であり、それによって介護が必要な人の QOL を向上させることにつながる また介護過程の一連のプロセスを展開することで、介護が必要な人の望む生活の実現や継続を支援できる	科学的根拠に基づいた介護の実践が可能となる		
根拠を示した介護を実践すること	根拠を示した介護を実践すること		
介護過程の実践の成果を蓄積することで、専門知識や技術を進展させ、介護福祉の理論の構築や介護福祉士の成長につなげることができる	介護過程実践の成果蓄積により、介護福祉の理論の構築や介護福祉士の成長につなげること	介護の専門性への寄与	
日本介護福祉士会は介護過程の展開による根拠に基づいた介護実践をあげており、介護福祉士としての専門性を向上・確立させる大きな柱となるものである ＊参考：①・②ともに実教出版『介護福祉基礎』p126 日本介護福祉士 HP	介護福祉士としての専門性を向上・確立させる大きな柱となるもの		
経験に基づく技術を積み重ねていくだけでなく、個別事例から積み上げてきた知識をもとに、介護の原理原則を導きだし、介護の専門性や質を向上させていくこと	介護の専門性や質を向上させていくこと		
介護の学問としての構築、介護福祉士の自己成長	介護の学問としての構築		
介護が必要な方の心身の状況に合わせ、尊厳や自立に配慮したケアをチームで提供することで、生活の質を高め、その方の望む生活を実現を支援する また介護福祉職の知識や技術を活用した根拠のある介護実践を行うことが介護福祉職の専門性につながっていく	介護福祉職の専門性につながっていく		

介護過程を展開する意義・目的	コーディング	中項目	大項目
対象者一人ひとりのよりよい生活支援のためのツール、根拠ある介護福祉実践、本人・関係者との連携・協働、介護評価・介護福祉の質の向上	介護福祉の質の向上	介護の専門性への寄与	専門職としての支援のため
より良い人生を実現するために必要な課題を解決することや介護の質を統一、向上せせるため	介護の質を統一、向上せせるため		
利用者一人ひとりの状態に応じた適切な支援を行うためのプロセス（PDCA サイクル）および介護福祉職の特徴や役割を明確にする	介護福祉職の特徴や役割を明確にする		
加齢に伴う身体的・精神的な変化や障害の状況、これまでの生活や価値観、考え方などにより「望む生活」は人それぞれである これからの生活をどのように送りたいか、夢は何かを考え介護福祉士としての専門的知識・技術を持って客観的で科学的に考えていくことができる	介護福祉士としての専門的知識・技術を持って客観的で科学的に考えていくことができる		
介護福祉士の専門性	介護福祉士の専門性		
対象者個々の個別ケアを提供するために介護福祉職の同職種、多職種とのチームアプローチができる	介護福祉職の同職種、多職種とのチームアプローチができる	チームケア	連携のため
利用者一人一人のその人らしさ、個人因子から生活や人生に対する思い、望みを知り、介護福祉士の専門的知識で、その実現のためのケアを考える また、ケアの標準化、統一を図る	ケアの標準化、統一を図る		
根拠ある介護をチームとして行い、利用者の方を支えるため	根拠ある介護をチームとして行い利用者を支える		
意義として、長期・短期の介護目標の実現に向けて、介護職だけでなく他職種が関わることで、支援の幅・質が広がる また、介護という業務が、個々の職員による行き当たりばったりや思い付きで支援をするのではなく、根拠に基づいたケアをチームとして実践ができる	根拠に基づいたケアをチームとして実践ができる		
根拠立てて適切なケアをチームで取り組むことができる	根拠立てて適切なケアをチームで取り組むことができる		
チームで取り組む際にも、どの段階の話をしているのかなど確認を確実に実施することができる	チームで共通認識を持ちやすい		
①予測性をもった根拠が明確な介護、②利用者の選択の自由の保障、③多職種連携、④介護の伝達、⑤介護の学問としての構築、⑥介護福祉士の自己成長	多職種連携	他職種連携	
他職種と連携・協働することができること	他職種と連携・協働することができること		
意義として、長期・短期の介護目標の実現に向けて、介護職だけでなく他職種が関わることで、支援の幅・質が広がる また、介護という業務が、個々の職員による行き当たりばったりや思い付きで支援をするのではなく、根拠に基づいたケアをチームとして実践ができる	介護職だけでなく他職種が関わることで、支援の幅・質が広がる		
利用者が望む生活実現のためのもの 介護過程はチームで行うもの、介護過程の展開により利用者に関わる全ての関係者が共通認識を持ち他職種との連携が図れる	利用者に関わる全ての関係者が共通認識を持ち他職種との連携が図れる		
（定義にも重複しますが）福祉従事者として利用者を共感的に理解し、福祉の理念や倫理に則って根拠ある支援を展開していくためにもとても重要だと考えます また、他の専門職と共通言語や共通理解のもとケアやサービスを進めていくためにも重要な意義があります	他の専門職と共通言語や共通理解のもとケアやサービスを進めていくため		
ある程度の手順を踏むことで、見落としや取りこぼしなく目的をもって取り組むことができると考えている	支援の見落としを減らして網羅的に取り組める	その他	その他
利用者の心身の状況に応じた介護実践を可能にする	利用者の心身の状況に応じた介護実践を可能にする		
専門職として介護を展開するための思考過程 他科目での学びをアウトプットする授業	他科目での学びをアウトプットする		
介護過程の一連の展開プロセスを通じて、利用者様が尊重され、自己決定権を持ち、尊厳ある生活を送ることが可能となると認識しています	利用者様が尊重され、自己決定権を持ち、尊厳ある生活を送ることが可能となる		

（２）根拠に基づくアセスメントとは何だと考えますか

Q8　（1)根拠に基づく「アセスメント」とは何だと考えますか。

Q8（1）根拠に基づくアセスメントとは何だと考えますか	コーディング	中項目
利用者に対して、先入観や偏見を持たずにコミュニケーションを図りながら情報収集を行うこと と同時に観察として主観的観察、客観的観察を行いながら生活課題を明確化することである	観的観察、客観的観察を行いながら生活課題を明確化すること	課題を導き出すこと
利用者の望む生活に向け、生活上の支障や課題が解決達成できるよう、まつわる情報を収穫し解釈、分析、判断を通し、解決すべき課題を明らかにするものである	情報を収穫し解釈、分析、判断を通し、解決すべき課題を明らかにするもの	
利用者が望む生活の実現に向けた生活課題を導き出すこと そして、なぜそのケアをするのかの理由となるもの 本人や家族に対し、その方へのケアを説明していく時に何を根拠にそのケアが必要なのか？が説明できないといけないもの	利用者が望む生活の実現に向けた生活課題を導き出すこと	
情報の収集、情報の解釈・関連づけ・統合化、課題の明確化	課題の明確化	
収集した情報を「解釈・関連付け・統合化」することで、利用者の生活課題を明確にすること	生活課題を明確にすること	
根拠に基づくアセスメントとは、利用者さんの過去の情報や実際に関わることで得られる日々の情報と専門的な知識に裏付けられた、利用者理解及び課題の明確化	日々の情報と専門的な知識に裏付けられた、利用者理解及び課題の明確化	
利用者の介護に必要な情報を収集し、専門的知識・技術を根拠としたものから専門的な視点で分析・解釈を加え、複数の情報を関連付けて統合化することで、どのような介護が必要か生活上の課題を明確にすること	どのような介護が必要か生活上の課題を明確にすること	
面接、観察、資料に基づく情報収集から利用者を知り、利用者の思いをもとに介護福祉職としての専門知識を加えて言語化し、生活課題を導き出すこと	利用者の思いをもとに介護福祉職としての専門知識を加えて言語化し、生活課題を導き出すこと	
介護が必要方がどのような生活を望んでいるのか、望む生活を実現するためにはどのような支援が必要なのかを明確にすること	介護が必要方がどのような生活を望んでいるのか、望む生活を実現するためにはどのような支援が必要なのかを明確にすること	
情報の収集、分析、解釈、統合、判断をふまえて、生活課題を明確化すること、きちんとした判断に基づいた課題を明確にできること	情報の収集、分析、解釈、統合、判断から生活課題を明確化すること	
情報の意味と繋がりを分析し、課題の予測を立てること	情報の意味と繋がりを分析し、課題の予測を立てること	
情報を集め、集められた情報を解釈・関連づけ・統合し、本人の生活上の課題を明確にすること	情報を集め、集められた情報を解釈・関連づけ・統合し、本人の生活上の課題を明確にすること	
利用者の情報を多角的に収集し、本人の想いを課題を明確にすること	利用者の情報を多角的に収集し、本人の想いを課題を明確にすること	
収集した情報を解釈・関連付け・統合化し、生活課題を明確にすること	収集した情報を解釈・関連付け・統合化し、生活課題を明確にすること	
自立（自律）の可能性・その人らしさ・快適性などの視点からの情報を統合して、生活課題（現状と達成の可能性）を抽出	情報を統合して、生活課題を抽出	
その方の情報を集め課題を見出すもの	情報を集め課題を見出すもの	
情報を収集し、それをもとに課題を明らかにし、その方のその人らしい生活を実現するために必要なこと	情報を収集し、それをもとに課題を明らかにすること	
介護の必要性を統合的に判断するために、利用者について「情報収集」をし、「情報の解釈・関連づけ・総合化」を行い、「課題の明確化」を行うこと	情報収集、解釈・関連づけ・総合化を行い、課題の明確化を行うこと	
正しい情報収取を行い、科学的な分析で生活課題を導く	正しい情報収取を行い、科学的な分析で生活課題を導く	
利用者の状況把握と分析をして課題を明確にすること、事前評価、情報収集	利用者の状況把握と分析をして課題を明確にすること	
情報の解釈、関連付け、統合化による課題の明確化	情報の解釈、関連付け、統合化による課題の明確化	

Q8（1）根拠に基づくアセスメントとは何だと考えますか	コーディング	中項目
さまざまな知識・経験をもとに対象利用者と未来のイメージを共有し、そのイメージに近づくために課題（ニーズ）を明らかにすること	様々な知識・経験をもとに対象利用者と未来のイメージに近づくために課題（ニーズ）を明らかにすること	課題を導き出すこと
利用者の心身の状況や取り巻く環境、困りごとなどの全体像を ICF の視点で把握し、その情報を専門的知識を加えて解釈・関連付け・統合化し、生活課題（真のニーズ）を導き出すこと	ICF の視点で把握し、その情報を専門的知識を加えて解釈・関連付け・統合化し、生活課題（真のニーズ）を導き出すこと	
集めた情報を根拠に情報をまとめ課題を明らかにする アセスメントを含め介護過程の展開が介護実践の「根拠」になるのではないでしょうか、根拠に基づいたアセスメントとはどのようなものかわかりません	集めた情報を根拠に情報をまとめ課題を明らかにする	
的確に情報収集を行い、生活課題を導き出す思考	的確に情報収集を行い、生活課題を導き出す思考	
過去・現在・未来をしっかりととらえ、それらの情報を正確に分析することだと考えます	過去・現在・未来の情報を正確に分析すること	分析
サービス利用者の人権を尊重し、その人らしい生活を実現するためにどのような介護が必要なのか、あるいはどのような介護サービスが求められているのかを考え、科学的根拠にもとづいた情報収集と分析を行うこと	科学的根拠にもとづいた情報収集と分析を行うこと	
知識と客観的データにもとづいた、情報収集と分析 生活課題抽出の過程である	知識と客観的データにもとづいた、情報収集と分析	
利用者一人ひとりに合った介護を行うための情報収集、課題分析の明確化	利用者一人ひとりに合った介護を行うための情報収集、課題分析の明確化	
利用者の人権を尊重し、その人らしい生活を実現するためにどのような介護が必要なのか、あるいはどのような介護サービスが求められているのかを考え、科学的根拠に基づいた情報収集と分析を行うこと	科学的根拠に基づいた情報収集と分析を行うこと	
アセスメントとは、利用者の人権を尊重し、その人らしい生活を実現するためにどのような介護が必要なのか、あるいはどのような籠サービスが求められているのかを考え、科学的根拠にもとづいた情報収集と分析を行いことをいう	どのような介護が必要なのかを考え、科学的根拠にもとづいた情報収集と分析を行うこと	
事実や現状を見る、意識すること、それに基づいた分析、研究だと考えて指導しています 生活を支える専門職ということで、生活を見つめるのですが、生活は私たちにとって当たり前の活動です 当たり前のことに対して、通常は見逃してしまったり、勝手に予測してしまったりすることが多いと思います そのため、1 つひとつの活動はその時にしか見ることができない姿であり、意識して事実や現状を見ることを目指しています	事実や現状を見る、意識すること、それに基づいた分析、研究	
利用者が本来もっている力に着目しながら支援に必要な情報を収集し、その人らしく生き生きと元気に生活するために必要なことは何か、どのような支援が必要かをイメージしながらあらゆる可能性（自己実現に近づくプラスの可能性、本人の力を奪うマイナスの可能性）を考え分析する 他科目で学習した知識・技術を活用して分析する⇒生活課題を明らかにする	他科目で学習した知識・技術を活用して分析する	
ICF に基づく多角的な情報収集と分析	ICF に基づく多角的な情報収集と分析	
行動、言動分析	行動、言動分析	
利用者が望む生活を実現するために必要な情報収集と分析	利用者が望む生活を実現するために必要な情報収集と分析	
必要な情報の収集、複数の情報の関連づけと統合化	複数の情報の関連づけと統合化	解釈・関連付け・統合化
情報の収集、情報の解釈・関連づけ・統合化、課題の明確化	情報の解釈・関連づけ・統合化	
収集した情報を「解釈・関連付け・統合化」することで、利用者の生活課題を明確にすること	収集した情報を「解釈・関連付け・統合化」すること	
利用者の介護に必要な情報を収集し、専門的知識・技術を根拠としたものから専門的な視点で分析・解釈を加え、複数の情報を関連付けて統合化することで、どのような介護が必要か生活上の課題を明確にすること	利用者の介護に必要な情報を収集し、専門的知識・技術を根拠としたものから専門的な視点で分析・解釈を加え、複数の情報を関連付けて統合化すること	
1 つひとつの情報がもつ意味を専門的な知識や技術を根拠として解釈すること	1 つひとつの情報がもつ意味を専門的な知識や技術を根拠として解釈すること	

Q8(1)根拠に基づくアセスメントとは何だと考えますか	コーディング	中項目
必要な情報を収集し、専門的知識・技術を根拠として情報の関連付けと統合化を行う	必要な情報を収集し、専門的知識・技術を根拠として情報の関連付けと統合化を行う	解釈・関連付け・統合化
客観的・主観的な情報収集と課題抽出・分析	客観的・主観的な情報収集と課題抽出・分析	
利用者の情報を収集し、その情報の解釈・関連付け・統合化	利用者の情報を収集し、その情報の解釈・関連付け・統合化をしていく	
利用者の心身の状況、生活の状況、希望、願いなどについて必要な情報を収集する 1 つひとつの情報がもつ意味を専門的な知識、技術を解釈し、複数の情報と関連づけ統合化を行う	1 つひとつの情報がもつ意味を専門的な知識、技術を解釈し、複数の情報と関連づけ統合化を行う	
情報(基本)に基づき分析解釈をすること 利用者の現在の生活の全体像を把握し、情報を知識を活用し理解すること	情報(基本)に基づき分析解釈をすること	
集めた情報から利用者の現実(事実)を推測し、自分で見て、聞いて、関わることによって利用者の希望や思いを解釈すること	集めた情報から利用者の現実を推測し、見聞きして関わることで利用者の希望や思いを解釈すること	
利用者に対して、先入観や偏見を持たずにコミュニケーションを図りながら情報収集を行うこと と同時に観察として主観的観察、客観的観察を行いながら生活課題を明確化することである	先入観や偏見を持たずにコミュニケーションを図りながら情報収集を行うこと	情報収集
必要な情報の収集、複数の情報の関連づけと統合化	必要な情報の収集	
32 項目が理解でき、目的を持った情報収集	目的を持った情報収集	
情報の収集、情報の解釈・関連づけ・統合化、課題の明確化	情報の収集	
利用者の心身の状況、生活の状況、生活に対する希望や願い等について、必要な情報を収集し、利用者の全体像を捉える	必要な情報を収集し、利用者の全体像を捉える	
効果的な情報収集	効果的な情報収集	
利用者のニーズは何か、どのような援助方法があるかを知るために多角的に情報を収集すること、ニーズの明確化	多角的に情報を収集すること	
原則科学的な根拠に基づいた情報を収集すること	原則科学的な根拠に基づいた情報を収集すること	
利用者の状況把握と分析をして課題を明確にすること、事前評価、情報収集	情報収集	
利用者の心身の状況、生活状況基本情報及び、相互作用関係社会支援ネットワーグ、多職種の本人や家族の意見、地域住民などからの情報を含め、様々な角度から必要な情報を正確に収集する	様々な角度から必要な情報を正確に収集する	
客観的な情報収集	客観的な情報収集	
経験や勘に頼るのではなく、専門的な知識を用いてその人にとって必要な支援を導き出すこと	専門的な知識を用いてその人にとって必要な支援を導き出すこと	専門的知識や技術を用いる
アセスメントは、「情報収集」、「情報の解釈・関連付け・統合化」、「課題の明確化」から成り立っています 情報を集めるときの視点や方法、解釈・関連付け・統合化する際の知識や技術、課題を明確化した後の優先順位のつけ方など、随所に福祉の専門知識や専門技術が必要になる この専門知識や専門技術に基づくアセスメントが、科学的な根拠に基づくアセスメントであると考えます	専門知識や専門技術に基づくアセスメント	
利用者の介護に必要な情報を収集し、専門的知識・技術を根拠としたものから専門的な視点で分析・解釈を加え、複数の情報を関連付けて統合化することで、どのような介護が必要か生活上の課題を明確にすること	利用者の介護に必要な情報を収集し、専門的知識・技術を根拠としたものから専門的な視点で分析・解釈を加え、複数の情報を関連付けて統合化すること	
面接、観察、資料に基づく情報収集から利用者を知り、利用者の思いをもとに介護福祉職としての専門知識を加えて言語化し、生活課題を導き出すこと	利用者の思いをもとに介護福祉職としての専門知識を加えて言語化し、生活課題を導き出すこと	
利用者を理解したうえで、なぜその介護なのか、なぜその介護をしているのか、基礎知識をもとに理論的に説明できること	なぜその介護なのか、基礎知識をもとに理論的に説明できること	
1 つひとつの情報がもつ意味を専門的な知識や技術を根拠として解釈すること	1 つひとつの情報がもつ意味を専門的な知識や技術を根拠として解釈すること	
利用者が本来もっている力に着目しながら支援に必要な情報を収集し、その人らしく生き生きと元気に生活するために必要なことは何か、どのような支援が必要かをイメージしながらあらゆる可能性(自己実現に近づくプラスの可能性、本人の力を奪うマイナスの可能性)を考え分析する	他科目で学習した知識・技術を活用して分析する	

Q8（1）根拠に基づくアセスメントとは何だと考えますか	コーディング	中項目
必要な情報を収集し、専門的知識・技術を根拠として情報の関連付けと統合化を行う	必要な情報を収集し、専門的知識・技術を根拠として情報の関連付けと統合化を行う	専門的知識や技術を用いる
さまざまな知識・経験をもとに対象利用者と未来のイメージを共有し、そのイメージに近づくために課題（ニーズ）を明らかにすること	様々な知識・経験をもとに対象利用者と未来のイメージに近づくために課題（ニーズ）を明らかにすること	
利用者の心身の状況、生活の状況、希望、願いなどについて必要な情報を収集する 1 つひとつの情報がもつ意味を専門的な知識、技術を解釈し、複数の情報と関連づけ統合化を行う	1 つひとつの情報がもつ意味を専門的な知識、技術を解釈し、複数の情報と関連づけ統合化を行う	
知識と客観的データにもとづいた、情報収集と分析 生活課題抽出の過程である	知識と客観的データにもとづいた、情報収集と分析	客観的な情報に基づくこと
科学的客観的データに基づいたアセスメント	科学的客観的データに基づいたアセスメント	
事実や現状を見る、意識すること、それに基づいた分析、研究だと考えて指導しています 生活を支える専門職ということで、生活を見つめるのですが、生活は私たちにとって当たり前の活動です 当たり前のことに対して、通常は見逃してしまったり、勝手に予測してしまったりすることが多いと思います そのため、1 つひとつの活動はその時にしか見ることができない姿であり、意識して事実や現状を見ることを目指しています	事実や現状を見る、意識すること、それに基づいた分析、研究	
自分の頭の中ではなく、事実に基づいたもの	事実に基づいたもの	
客観的・主観的な情報収集と課題抽出・分析	客観的・主観的な情報収集と課題抽出・分析	
客観的な情報収集	客観的な情報収集	
客観的に収集した情報やデータなど	客観的に収集した情報やデータなど	
客観的情報、主観的情報を収集し、利用者の課題や願い、支援方法を明らかにすること	客観的情報、主観的情報を収集し、利用者の課題や願い、支援方法を明らかにすること	
教科書的にいうと情報収集などであるが、情報収集だけでなく、全ての観察だと考える 客観的観察だけでなく感情なども含めての観察 観察からの気づき全てかまアセスメントと言える	客観的観察だけでなく感情なども含めての観察、気づき全て	
利用者の人権を尊重し、その人らしい生活を実現するためにどのような介護が必要なのか、あるいはどのような介護サービスが求められているのかを考え、科学的根拠に基づいた情報収集と分析を行うこと	科学的根拠に基づいた情報収集と分析を行うこと	科学的根拠に基づいていること
アセスメントとは、利用者の人権を尊重し、その人らしい生活を実現するためにどのような介護が必要なのか、あるいはどのような籠サービスが求められているのかを考え、科学的根拠にもとづいた情報収集と分析を行いことをいう	どのような介護が必要なのかを考え、科学的根拠にもとづいた情報収集と分析を行うこと	
原則科学的な根拠に基づいた情報を収集すること	原則科学的な根拠に基づいた情報を収集すること	
正しい情報収取を行い、科学的な分析で生活課題を導く	正しい情報収取を行い、科学的な分析で生活課題を導く	
なぜその介護を必要とし何を目的に行うのかを、専門知識と問題解決思考を用いて説明できること	なぜその介護を必要とし何を目的に行うのかを説明できること	説明できること
一貫性があり言語化して説明できること、明確な評価基準（例えば尺度）が設定されていること	一貫性があり言語化して説明できること	
何らかの指標をもって説明責任が果たせるための方法であり、その能力だと考えます	何らかの指標をもって説明責任が果たせるための方法であり、その能力	
介護行為を言語化し説明するためのツール	介護行為を言語化し説明するためのツール	

（3）根拠に基づくアセスメントを教育するために工夫していること

Q8　（2)根拠に基づくアセスメントを教育するために工夫していることはありますか。

Q8（2）根拠に基づくアセスメントの教育で工夫していること	コーディング	中項目	大項目
事例や実際の体験談を取り入れる また、実際の現場から講義に来ていただく	実際の現場の体験談を伝える	現場の話でイメージを持つ	イメージや背景、知識を身につける
私自身が、臨時免許教員であるため現場での実践してきた介護技術を含め、症例など具体的にイメージを持たせながら説明していくことで理解を促すことができるよう工夫している	実際の現場事例でイメージを持たせる		
日本人の文化、気質の違いのりかい	日本人の文化、気質の違いの理解	人や利用者の背景を理解する	
人間、高齢者の生きてきた人生とは何か、映画などの DVD 視聴	人間や高齢者の理解に映画などを視聴		
時代背景が現在とは全く違うので、利用者の生きてきた時代・生活背景を理解するために、昭和初期～の出来事などを事前に学習させる	利用者の時代背景の事前学習		
要介護高齢者等の画像、動画、実際の対象者を観察する授業を設けている	要介護高齢者等の画像、動画、対象者を観察させている		
介護に関する事柄以外の題材をアセスメントに活用する	介護以外の題材をアセスメント	介護以外の身近な情報収集から始める	徐々にアセスメントに慣れる
広く情報収集する姿勢を理解する為に、色んな人（多くの人）にインタビュー形式で、情報収集する体験 身近な事例から、アセスメントする（まずは個人ワーク→グループワークの順）	インタビュー形式での情報収集体験		
高校生は生活や人生経験が少なく、人間を見る、人の生活を見る、人の話を聞く、人の人生について聞くという事に慣れていません そのため、何気ない会話や様々な場面からその人の背景などの分析をするのが難しいです 事例では、できるだけ文章ではなく映像や実在する人を対象として検討します	映像や実在する人物を用いた事例検討から文章事例へ移行		
まずは「クラスメイトの旅行先提案」の演習でアセスメントのイメージを作り、紙上事例や映像事例を活用して個人ワーク→グループワークで意見交換→全体共有（発表）を行い、考え方・視点などの確認を行っている	「クラスメイトの旅行先提案」を例題演習としてイメージ作りをする		
学生たちの日常生活を例に出し、身近なところから理解を深められるようにしている	学生の日常生活を例に身近なところから理解		
いきなり要介護高齢者のアセスメントをせず、身近な人物や自身をアセスメントしてみる	身近な人物のアセスメントから始める		
教員の情報収集をすること	教員の情報収集	教員を題材にアセスメント	
事例を用いたり、教員自身を利用者に見立てて実際にアセスメントを行うなど、実践的な内容を取り入れるように工夫している	教員自身を利用者に見立ててアセスメント		
誌上事例や教員が高齢者（麻痺など設定）となり、アセスメントを行う	教員が高齢者役となりアセスメントを行う		
授業では、級友の困りごと、どのような生活をしたいかなどの望みを聞き、それを目標と捉える その上で級友から収集した情報より目標達成のための生活課題を相手が納得できるよう根拠立てて説明できるように取り組む 介護実習では、利用者の情報収集を行い、ICFをベースにしたアセスメントシートに記録 実習後の授業で分析・統合し、利用者の生活課題を導き出す	学生同士で利用者に見立てて演習	学生同士でアセスメントを行う	
情報の収集の仕方をコミュニケーションから行う場合、生徒同士で互いの困っていることや望みを聞き出すことを演習で行っている	生徒同士でお互いの情報を聞き出す演習		

Q8（2）根拠に基づくアセスメントの教育で工夫していること	コーディング	中項目	大項目
友人のアセスメントを取る、事例の課題のアセスメントを取る、施設でアセスメントを取るなど順を追いながら行っています	友人のアセスメントを行う	学生同士でアセスメントを行う	徐々にアセスメントに慣れる
事例を活用、最初は自分自身について、又はクラスメイト同士で互いにアセスメントしてみる等をしている 介護実習においては利用者に対して事実をしっかりみるように言っている 方法については模索中	クラスメイト同士で互いにアセスメント		
最初は単語や一文程度を題材に、科学的に解釈できる事柄を言い合うなど、繰り返しトレーニングをしている	段階的に難易度を上げる	情報量を段階的に増やして慣れる	
事例をつかって「情報の解釈・関連づけ・統合化」をする まず少ない情報で分析を行い、その後いくつかの情報を追加して再度「情報の解釈・関連づけ・統合化」をする 内容の変化を確認し、情報の重要性を認識する 介護実習Ⅱの施設実習後、事例を持ちよりグループワークを実施 グループで 1 つの事例を選び、グループごとにアセスメントの再検討を実施する	情報量を段階的に上げて情報の重要性を認識させる		
友人のアセスメントを取る、事例の課題のアセスメントを取る、施設でアセスメントを取るなど順を追いながら行っています	友人、事例、実習と段階的に進める		
提示する情報の量を段階的に増やす 思考過程を可視化すること アセスメントシートは養成過程 2 年間共通のものを使用する 授業時に関連する科目のテキストを準備するように指導している	提示する情報量を段階的に増やす		
学生自身への自己覚知を行う	自己覚知を行う	自分の主観の偏りや他者との違いを自覚	情報を客観的に捉え根拠づける力を育てる
物事の捉え方や考え方には自分なりの癖がある（人それぞれ感じ方、受け止め方はちがう）ことを自覚させ、自身の主観や判断を入れない状況の観察しその状況の言語化をさせる	主観の偏りを自覚させ、主観を除いた客観的な情報を言語化させる		
想像力の低下・核家族など、人と人との付き合いの希薄化 年々、感じている学生の状況から、まずは色々な表情をしている人物のイラストを見て、学生たちの価値観や違いを感じる そのイラストを見て状況を考える	学生の感じ方の違いを認識させる		
自分の考えだけでなく、他者の意見を聞くことで自分の考える「普通」や「当たり前」がそうではない場合があることを知ることができるように取り組んでいる	他者の意見を聞き、自分の普通が当たり前ではない場合があることを知る		
学生自身に自分のアセスメントをさせている→先ずは、自分自身の介護過程を立案させている 学生は自分自身のことを深く考えるきっかけとなり、理解もし易いと意見が多かった 他者理解をする前に、自己を知ることが重要（自己覚知）	学生自身をアセスメントさせ自己覚知させる		
グループワークや演習を多く取り入れ、互いに学び合い多角的に物事を判断できるような構成にしている	多角的に物事を判断できるようなグループワーク	意見交換しながら情報を客観化する	
その人が望んでいることが、ニーズなのかデマンドなのかを把握するために、さまざまな意見を出し合い、客観的に情報をとらえられるようにグループワークの機会を多く取り入れている	グループワークで様々な意見を出し合わせ情報を客観化する		
事例を用いたワークシートを活用し、ペアワークやグループワークなどを取り入れて、生徒の主観だけにならぬよう客観的なアセスメントができるように工夫している	主観にならないようグループワークで客観化させる		
1 つのものごとをみんなで掘り下げていくことをしている （例）食事が食べられない→なぜをみんなで考えて→さらになぜをたくさんあげていく	グループで”なぜ”を繰り返させる		
分析の段階で、起こっている事象の根拠となるものをテキストや文献で調べさせ、文章化させている 状況に応じて根拠文献も提示させる	分析時に根拠となる文献の活用をさせる	事象や情報を客観的に捉え根拠づけを行う	
一つの情報にこだわらず複数の手段を用いて情報の信頼性を高めること 持っている知識や経験をもとに根拠のある推測を行いニーズの抽出を行うこと	情報の信頼性を高めて根拠あるニーズを抽出させる		
なぜ、どうしてという視点を持って言語化して記録するように伝えている	疑問を持ち言語化して記録することを伝える		

Q8（2）根拠に基づくアセスメントの教育で工夫していること	コーディング	中項目	大項目
利用者の課題を見つけることだけに集中するのではなく、利用者についてどのような人なのかを多角的な視点で情報収集するよう教授する、本人、家族、他職種など、利用者に関わる人から情報収集を行う	利用者について多角的な視点で情報収集するよう教授する	事象や情報を客観的に捉え根拠づけを行う	情報を客観的に捉え根拠づける力を育てる
情報収集する際に、先入観等を排除した客観的な事実となるデータを収集すること また、一つひとつの情報が持つ意味を考え、それらと関連する内容を意識しながら構成していく思考過程を重視	客観的な情報収集と情報の関連付けを意識させる		
客観的情報と主観的情報を区別させる	客観的情報・主観的情報を区別させる		
生徒に対して、手に入れた情報に対して多角的な視点で見てみるよう指導している	多角的な視点で見る指導		
生徒の考えた観察の視点がどのような項目に該当するのかというような授業を実施し、観察力を高める工夫を介護実習の前に行っています	観察の着眼点や事実と考察を弁別するための観察力を高める		
一つの情報だけでなく、いくつかの情報を見比べることを指導している	複数の情報を見比べさせる		
なぜ、なぜ、なぜと 3 回掘り下げる	なぜを繰り返す	事象や情報を客観的に捉え根拠づけを行わせる	
事実だけを捉えられるトレーニングを重ねている	事実を捉えるトレーニング		
事例による学習の中で、具体的な疾患名や障がいを提示し、その疾患や障がいのある人に介護をする際の留意点は何かなどを考えさせることにより、科学的根拠に基づくアセスメントを意識できるようにしている	事例中の疾患や障害に関する知識と結びつけて考えさせる	根拠を持つために他科目の知識等を関連づける	
他の科目で学んだ知識を再確認しながら、持っている知識と事例が統合できるよう他の科目との関連性を意識すること	他科目で学んだ知識と事例の関連性を意識させる		
「介護に必要な気づきの視点」を 6 つの視点を踏まえて学習させ、気づいたものをピックアップしている	介護に必要な気づきの 6 つの視点に応じたピックアップ	モデル・視点を踏まえた教育	アセスメント時の視点を養う
「空・雨・傘」理論で論理的なストーリーを作り、集めた情報を分析・解釈し、文章にするトレーニングをしている	空・雨・傘理論の活用で分析のトレーニング		
介護過程の授業のみならず、生活支援技術においても、場面によって③に示す「自立、快適、安全の視点」に応じた声かけや支援のバリエーションを考える機会をつくる	自立、快適、安全の視点を基にして考えさせる		

（4）根拠に基づくアセスメントを教育するためのツールや指標

Q8　（3）根拠に基づく「アセスメント」を教育するために用いているツールや指標には、どのようなものがありますか。

Q8（3）根拠に基づくアセスメントを教育するためのツールや指標	コーディング	中項目
ICF の構成要素	ICF の構成要素	ICF
ICF	ICF	
ICF	ICF	
ICF	ICF	
ICF	ICF	
基本的には、ICFの視点に基づいて「アセスメント」をしていくように指導をしている	ICF	
ICF	ICF	
考え方の基本として、ICF を用いている	ICF	
ICF	ICF	
ICF は、情報に偏りや不足は無いか確認するために使用しています	ICF	
ICF	ICF	
「ICF」	ICF	
ICF の活用	ICF	
ICF 生活機能の構成要素の相互作用、している活動できる、活動する活動	ICF	
ICF	ICF	
ICF	ICF	
ICF	ICF	
ICF	ICF	
ICF	ICF	
ICF	ICF	
テキストに沿った ICF 視点からの指標	ICF 視点からの指標	
ICF モデル	ICF モデル	
ICF など	ICF	
ICF	ICF	
マズローの 5 段階欲求階層説～優先順位の指標として	マズローの 5 段階欲求階層説	マズローの欲求階層説
マズローの欲求階層説	マズローの欲求階層説	
マズロー	マズロー	
認知症高齢者の日常生活自立度	認知症高齢者の日常生活自立度	認知症高齢者の日常生活自立度
認知症高齢者の日常生活自立度判定基準	認知症高齢者の日常生活自立度判定基準	
研修で教えていただいた P.E.I.P も参考に取り組んでいます	P.E.I.P	P.E.I.P
「P.E.I.P」	P.E.I.P	
アセスメントの 3 つの視点に関連づけて思考する 自立の視点、快適の視点、安全の視点	自立の視点・快適の視点・安全の視点	自立、快適、安全の視点
自立、快適、安全の視点（中央法規出版のテキストに記載された内容）	自立、快適、安全の視点	
障害高齢者の日常生活自立度	障害高齢者の日常生活自立度	障害高齢者の日常生活自立度
WHO 健康の定義	WHO 健康の定義	WHO 健康の定義
「ヘンダーソンの看護理論」	ヘンダーソンの看護理論	ヘンダーソンの看護理論
認定調査	認定調査	認定調査
DBD13	DBD13	DBD13
バーセルインデックス	バーセルインデックス	バーセルインデックス
LIFE データ項目等	LIFE データ項目	LIFE データ項目

（５）根拠に基づく計画とは何だと考えますか

Q9　（1）根拠に基づく「計画」とは何だと考えますか。

Q9（1）根拠に基づく計画とは何だと考えますか	コーディング	中項目
利用者の望む生活を実現するために、アセスメントで得た情報に基づいた、その方のための援助方法	アセスメントで得た情報に基づいた本人のための援助方法	アセスメントから得られた結果が反映されたもの
ICF の視点を基に導き出した生活課題解決のため、個別化の原則に従って立案された計画だと考えている 計画の立案においては、学習指導要領で示された「尊厳の保持や自立支援」「多職種連携」の視点に留意し、科学的根拠に基づいた具体的かつ安全の視点が大切であると指導している	ICF の視点を基に導き出した生活課題解決のため、個別化の原則に従って立案された計画	
アセスメントの生活課題で、すでに根拠となる課題が導き出されているかがポイントで、課題を基に計画を立案できているか 計画の中身もなぜそれが必要なのかが言えること	アセスメントで根拠となる課題が導き出され、課題を基に立案された計画	
利用者の現状を把握し、明確になった課題を解決するための方法のこと	利用者の現状を把握し、明確になった課題を解決するための方法	
アセスメントによって得られた情報・課題等（←これが根拠となる）に基づき、利用者が望む「よりよい生活」「よりよい人生」を実現するという計画	アセスメントによって得られた情報・課題等に基づき、利用者が望む「よりよい生活・人生を実現する計画	
根拠に基づくアセスメントによって、明らかになった生活課題を解決するための目標（短期・長期）や具体的援助内容を、福祉の専門知識や専門技術を取り入れて作成した計画だと考えます	根拠に基づくアセスメントから得た生活課題を解決するための目標や具体的援助内容を、福祉の専門知識や専門技術を取り入れて作成したもの	
得られた直接的・間接的情報を解釈・分析し、ニーズ・課題として位置づけ、利用者の方の環境因子や個人因子などを含めて介護の計画を立てること	アセスメントにより得られたニーズ・課題を背景因子を含めて立てた計画	
分析内容に基づいた、矛盾のない計画	分析内容に基づいた、矛盾のない計画	
利用者の介護に必要な情報を収集し、専門的知識、技術を根拠にしたものから、専門的な視点で分析・解釈を加え、複数の情報を関連付けて統合化することで、どのような介護が必要か生活上の課題を明確にし、その課題を解決するのが根拠に基づく計画だと考える	アセスメントから得られた課題を解決する計画	
なぜそのケアが必要なのかという根拠であるアセスメントの結果が反映されており、5W1H の記載がされている 内容は具体的で実現の可能なものであり、誰が見ても統一したケアの実施ができるチームで統一したケアを行うことで望む生活の実現につなげることのできるもの	アセスメント結果が反映され、具体的で実現可能なもの	
アセスメントした結果をもとに、利用者の性格、価値観、優先順位等を加味して作成された計画	アセスメントした結果をもとに、利用者の性格、価値観、優先順位等を加味して作成されたもの	
アセスメントで見つかった課題を解決するための計画 目標設定と目標達成までのプログラム	アセスメントで見つかった課題を解決するための計画	
利用者の情報を集め、課題を分析した後、何をめざし、何のために、いつ、何を、どのような時に、どのような方法で実施するのかを、利用者の意思を確認しながら決めるものだと考える	アセスメント後に何をどのような方法で実施するかを利用者の意思を確認しながら決めるもの	
前述の根拠に基づく「アセスメント」をふまえ関連した介護計画であり、チームの指示書として客観的に実践および評価できる計画のこと	アセスメントをふまえ関連した介護計画	
アセスメントによって明確にした生活上の課題をもとに利用者の希望する生活を実現するための計画	アセスメントで得た課題をもとに利用者の希望する生活を実現するためのもの	
計画とは、利用者の情報を集め、課題を分析した後、何をめざし、何のために、いつ、何を、どのような時に、どのような方法で実施するのかを、利用者の意思を確認しながら決めるものである	アセスメント後に何をどのような方法で実施するかを利用者の意思を確認しながら決めるもの	
利用者の生活全般や思いをアセスメントを通して導き出し、根拠を示す	アセスメントを通して導き出し、根拠を示すもの	

Q9(1)根拠に基づく計画とは何だと考えますか	コーディング	中項目
目的を明確化したうえで合理的根拠、エビデンスに基づくものであることが大切である	目的を明確化したうえで合理的根拠、エビデンスに基づくもの	アセスメントから得られた結果が反映されたもの
アセスメントで得られた情報を解釈・分析された計画	アセスメントで得られた情報を解釈・分析された計画	
解決すべき課題に対する解決策と積極的な対策を援助方法にしてまとめること	課題に対する解決策を援助方法としてまとめたもの	
抽出された生活課題に対して、課題を解決するための目標を設定し、その目標を達成するための内容と方法	課題を解決するための目標を設定し、その目標を達成するための内容と方法	
情報収集を元に、利用者のニーズや改善方法を ICF の観点も入れながら構築していく	利用者のニーズや改善方法を ICF の観点も入れながら構築していくもの	
「情報の解釈・関連づけ・統合化」によって導き出した生活課題を解決するための介護について計画する 「情報の解釈・関連づけ・統合化」が計画された介護内容の根拠となることを説明する	アセスメントで得られた生活課題を解決するための介護について計画したもの	
明確になった生活課題を解決するもの	明確になった生活課題を解決するもの	
アセスメントで明確になった課題を解決し、その人らしい生活の実現につながるもの	アセスメントで明確になった課題を解決し、その人らしい生活の実現につながるもの	
明確となった生活上の課題を解決するために目標設定し、具体的援助内容と支援方法を組み立てること	明確になった生活課題を解決するために目標設定し、具体的援助内容を組み立てること	
アセスメントに基づいて、課題を明確にし、計画を作成することで根拠のある介護につながる	アセスメントに基づいて課題を明確にして計画を作成すること	
利用者のニーズに応じた計画の作成	利用者のニーズに応じた計画の作成	
アセスメント(本学)において現状および目標達成の可能性を分析し、計画の根拠とする	アセスメントを計画の根拠とする	
アセスメントで見出した課題について計画を考える また、ケアマネが考えたケアプランを軸に計画を立てると考える	アセスメントで得た課題について計画を考える	
介護計画の立案では、アセスメントによって抽出した生活課題を解決するための「介護目標」を設定し、その介護目標を達成するために必要な支援、内容及び支援方法を組み立てる	アセスメントで得られた生活課題を解決するための介護目標を達成するために必要な支援内容を組み立てる	
計画に必要なのはニーズや生活課題を抽出がしっかり出来ていないとその計画の土台が安定しない それをベースとして長期目標というアウトカムを設定し、それを達成するためのスモールステップの設定、それらに基づいた内容を示したもの すべての人が見て分かりやすいケアの設計図	アセスメントでニーズや生活課題の抽出がしっかりできている計画	
生活課題を解決するための介護目標の設定と、その目標達成のための具体的内容・支援方法	生活課題を解決するための介護目標と具体的支援内容	
アセスメントから適切な情報を抜き出し計画をたてる	アセスメントから得た情報を抜き出し計画する	
アセスメントによって明確化された生活課題を解決するための計画	アセスメントによって明確化された生活課題を解決するもの	
アセスメントにより明確になった生活課題を解決、軽減に向けた目標の設定と目標達成、そのための支援内容、方法を書式にあらわす	アセスメントで明確になった生活課題を解決、目標、支援内容を表したもの	
情報を解釈し生活課題を明確にした上での計画立案	アセスメントで生活課題を明確にした上での計画	
アセスメントで明確になった課題に対して、立てるもの	アセスメントで明確になった課題に対して、立てるもの	
アセスメントで導き出された課題に対して、目的を明確にした上で立案する支援計画	アセスメントで得た課題に対して目的を明確にして立案するもの	
根拠あるアセスメントによって明確になった生活課題を解決するために、介護目標の設定とその目標達成のための具体的な支援内容・支援方法を書き示すこと	アセスメントで得た課題を解決するために介護目標と支援内容を書き示すこと	

Q9（1）根拠に基づく計画とは何だと考えますか	コーディング	中項目
利用者の情報から専門職として視点で分析し導き出したニーズ、支援方法	アセスメントで導き出したニーズ、支援方法	アセスメントから得られた結果が反映されたもの
アセスメントにて導き出した思いや課題、その解決を目指した具体的で実現可能な内容がプランされていること	アセスメントで得た課題の解決を目指した具体的内容があること	
アセスメントの結果と連動性があること	アセスメントの結果と連動性があること	
アセスメントから見出させた課題を解決することのできる計画	アセスメントで得た課題を解決できるもの	
アセスメントに基づく計画	アセスメントに基づく計画	
利用者やその家族の状況や希望を踏まえ介護サービスの目標を設定し内容をまとめたもの	アセスメントから介護目標を設定してまとめたもの	
アセスメントから導き出された課題に取り組み、目標達成するための具体的な介護の支援内容を形成すること	アセスメントで得られた課題に取り組み、目標達成のための介護内容を形成すること	
生活課題の解決に向けて目標が設定され、目標達成に向けて、利用者が無理なく進められる計画	生活課題の解決に向けた目標、利用者が取り組めるもの	
アセスメントした事柄から、既存の知識と、新たに必要とされる知識を用いながら、ニーズや支援内容を検討し、生活に密着した現実的な目標と方法（時間や回数の目安などがあれば）を具体的に可視化すること	アセスメントから目標と方法を具体的に可視化すること	
作成したアセスメント表を基にして、利用者とともに考えられた計画であり、他職種で共有できる内容であること	利用者とともに考えられた計画であり、他職種で共有できる内容であること	チームで統一的なケアが行えるもの
利用者の生活課題を解決するための目標設定（長期・短期）と、達成のための介護内容を書式として表し、チームで共有するものである ～個別援助計画としての重要な位置付け	チームで共有するもの	
利用者の思いから課題を抽出し、それらを解決できるよう、長期・短期目標を設定し、実際に介護福祉職としてどのように援助すれば良いのか、統一したケアが行えるようにしたもの	課題を解決できるよう長・短期目標を設定し、統一したケアが行えるようにしたもの	
内容は具体的で実現の可能なものであり、誰が見ても統一したケアの実施ができるチームで統一したケアを行うことで望む生活の実現につなげることのできるもの	誰が見ても統一したケアの実施ができるもの	
ケアの標準化やケアの個別化の視点を持ち、必要な支援の明確化 多職種連携を図ること	ケアの標準化やケアの個別化の視点を持ち、必要な支援の明確化	
前述の根拠に基づく「アセスメント」をふまえ関連した介護計画であり、チームの指示書として客観的に実践および評価できる計画のこと	チームの指示書として客観的に実践および評価できるもの	
利用者が望むよりよい生活 利用者が望むよりよい人生　を実現させるもの 計画を立てた人以外の誰もが計画を実施できるように作成する	計画を立てた人以外の誰もが計画を実施できるもの	
他にも、チームとしての方向性を確認できるものでもあると考えます 学校ではなかなか身を持って体験することが難しいですが	チームとしての方向性を確認できるもの	
すべての人が見て分かりやすいケアの設計図	全ての人が見てわかりやすいケアの設計図	
アセスメントによって明確化された生活上の課題に対して、目標、支援内容・方法など多職種連携も合わせて立案する	アセスメントで明確化した生活課題に対して目標、支援内容などを多職種連携で立案する	
チームで共有するため、計画した本人だけが分かる表現方法ではなく、チームメンバーが理解でき、実施できる表現であることも重要である	チームメンバーが理解、実施できる表現であること	
「計画」は、介護福祉士であれば「誰でも実践できる」ことが必要であり、商品の統一性と「なぜその支援が必要か明確に説明できること」が計画の科学性と捉えている	介護福祉士であれば誰でも実践できること	
本人の思いが十分反映され、尚かつ実現できるもの	本人の思いが十分反映され、尚かつ実現できるもの	利用者の望む生活が反映されているもの
介護福祉士として生活支援をする専門職であることから、利用者の望む生活、生活の質の向上を目指す内容 また、身体介助においては、本人の自立を促せるような、より具体的な計画を作成する	利用者の望む生活、生活の質の向上を目指す内容	
対象利用者の、なりたい姿を文章化した、長期目標であると考えます	対象利用者のなりたい姿を文章化した、長期目標	
利用者の「よりよい生活」「よりよい人生」の実現に向けて介護実践を展開するための指針	利用者のよりよい生活・人生の実現に向けて介護実践を展開するための指針	

Q9(1)根拠に基づく計画とは何だと考えますか	コーディング	中項目
利用者が望むよりよい生活、利用者が望むよりよい人生を実現させるもの、計画を立てた人以外の誰もが計画を実施できるように作成する	利用者が望むよりよい人生　を実現させるもの	利用者の望む生活が反映されているもの
対象となる人の生活の質の向上につながるツールであると考えて指導をしています 基本的には、再アセスメントを繰り返していくことが前提であると思います 他にも、チームとしての方向性を確認できるものでもあると考えます 学校ではなかなか身を持って体験することが難しいですが	対象となる人の生活の質の向上につながるツール	
利用者のニーズに適している、利用者の ADL、コンプライアンス	利用者のニーズに適している	
利用者の生活課題を利用者本人も納得した上で、よりよい生活・人生が送られるように具体的に道筋を立てること	よりよい生活・人生が送られるように具体的に道筋を立てること	
利用者が自分らしく生活しやすい環境にするもの	利用者が自分らしく生活しやすい環境にするもの	
利用者がその人らしい生活を行う上で必要な 1 日を過ごす上での援助内容	利用者がその人らしい生活を行う上で必要な 1 日を過ごすための援助内容	
利用者に必要な事であり生活のためのもの	利用者に必要なこと、生活のためのもの	
相手が望む生活を実現するために、納得して合意いただける提案	利用者が望む生活を実現するために納得、合意できる提案	
利用者中心のニーズに応じた継続的支援に結びつくケア項目	ニーズに応じた継続的支援に結びつくケア項目	
なぜ「その人」に「その計画」が必要なのかが明確であり、生活にとけ込める内容であること	なぜ「その人」に「その計画」が必要なのかが明確であること	説明責任が果たせるもの
まさに、「説明責任」が果たせるかという点だと思います また、測定可能な計画(評価を見据えたもの)であることも重要な要素になると考えます	説明責任が果たせるかどうか	
介護計画は、本人や家族に説明と同意のもと、利用者一人ひとりに応じた介護方針や内容を共有するものである なぜ、その介護が必要かを言語化しないと伝わらない	本人や家族に説明し同意を得るために共有するもの	
「なぜその方法を選択するのか」「なぜその期間で実施するのか」など理由を説明することができる	介護の方法と期間の理由を説明できるもの	
この計画を行う理由が説明でき、対象利用者が「やってみたい」と思えるもの、また「アセスメント」において理由付けができているもの	計画を行う理由が説明できるもの	
「なぜその支援が必要か明確に説明できること」が計画の科学性と捉えている	支援の必要性を説明できること	
介護福祉専門員の作成するケアプランに沿い、利用者のニーズを捉え、生活課題を解決するためのプロセスが明確に示されているもの	ケアプランに沿って、利用者の生活課題を解決するためのプロセスが示されているもの	ケアプランに沿ったもの
ケアマネが考えたケアプランを軸に計画を立てると考える	ケアマネが考えたケアプランを軸に計画を立てる	
自分がしたい、やりたい介護にならないために必要	自分がやりたい介護にならないためのもの	その他
なぜ「その人」に「その計画」が必要なのかが明確であり、生活にとけ込める内容であること	生活にとけ込める内容であること	
測定可能な計画(評価を見据えたもの)であることも重要な要素になると考えます	測定可能な計画であること	
アセスメントには介護福祉独自の視点を活用しますが、計画では近接領域も含め、さまざまな知見を活用して、適切な支援計画の根拠をつくる 例えば、90 歳代の高齢者の余暇活動として適切な時間や回数など	近接領域も含め、さまざまな知見を活用して、適切な支援計画の根拠をつくる	
対象利用者が「やってみたい」と思えるもの、また「アセスメント」において理由付けができているもの	利用者がやってみたいと思えるもの	
実施可能な計画作成	実施可能なもの	

（６）根拠に基づく計画を教育するために工夫していること

Q9　（2)根拠に基づく「計画」とを教育するために工夫していることはありますか。

Q9(2)根拠に基づく計画を教育するために工夫していること	コーディング	中項目	大項目
学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の視点に留意し、グループワークやディスカッションを多用した授業を展開している 具体的には、介護現場で実際に行われているカンファレンスを模擬体験する中で、自らが立案した計画を言葉で説明し、質疑応答や議論の時間を多く取っている このことにより、言語活動の充実を図るとともに、専門職として科学的な根拠に基づく具体的な計画を共に考える機会としている	自らが立案した計画をグループディスカッションして言語活動の充実を図る	作成した計画を学生同士で確認	より精度の高い計画立案のための工夫
学校の授業でも、学生同士で確認し合うようにし、複数の目で根拠のある計画になっているか確認している	学生同士で確認し合い、根拠のある計画になっているか確認させる		
授業では、各自が計画したものを介護職役と利用者役のペアで実践し、振り返り・評価を行い、立案した計画に無理や矛盾がないかを確認し、修正する必要があれば修正する	学生ペアになり互いの計画に無理や矛盾がないか確認して必要に応じて修正している		
事例を用いたワークシートを活用し、ペアワークやグループワークなどを取り入れて、生徒同士で計画の内容を確認できるよう工夫している	ペアワークやグループワークにより生徒同士で確認させる		
上事例や映像事例を活用して個人ワーク→グループワークで意見交換→全体共有（発表）を行い、考え方・視点などの確認を行っている 実際に計画したものを想定して実施してみて、第三者も計画通り実施できるか、利用者の生活に不都合がないか確認させている	グループワークによる意見交換で考え方、視点の確認を行い、計画に不備がないか確認させる		
モデルプランを参考にする、作成した計画を閲覧し他者と意見交換して視野を広げる、計画のプレゼン、計画に基づいて実施してみるなど	作成した計画を他者と意見交換して視野を広げる		
生活課題を解決するために行う具体的援助について、その援助内容が課題の解決につながる根拠があるかを考えて計画を立てさせるようにしている また、具体的援助内容を添削する際にも、そういった視点で見るようにしている	根拠があるかを考えて計画を立てさせる	根拠に基づく計画	
分析内容、目標、計画、評価の視点が矛盾なく、筋の通った内容になっているか確認	分析内容や目標に矛盾がなく筋が通っているか確認		
計画表に、「何のためにこの計画を行うのか」を再度記入させている	計画表に「何のためにこの計画を行うのか」を再度記入させる		
生活支援技術、こころとからだのしくみなど、他科目で援助に対しての根拠（意味づけ）を考えながら、教育している	他科目の学びを根拠づけて考えるよう教育している		
生活支援技術、こころとからだのしくみ、障害の理解、認知症の理解のテキストに示されている知見を取り入れた計画にする	他科目の知見を取り入れた計画にさせる		
生活支援技術の基本的な介助手順と関連づけて具体的計画を立案するようにしている	他科目と関連付けて立案		
課題を解決した姿のイメージを作る、現実的であること	現実的であること	現実的で具体的な計画を立案	
望む生活の実現へ向けての目標を実現するために実現可能な小さな目標を分割して設定していくイメージをさせる	実現可能な小さな目標を分割して設定させている		
学生には、①具体的に書く②実践可能なこと③個別性をとらえ介護する際の留意点、注意することなどを書く	具体的で実現可能なことを書かせる		
達成可能な目標を設定する	達成可能な目標を設定させる		
実現および実施可能な計画づくりを意識させている	実施可能な計画を意識させる		
具体的であること	具体的であること		
ひとりの利用者にひとりの介護福祉職が関わるだけでなく、複数の職員が関わることを想定し、より個別的により具合的に立案することを指導している 統合化し、本人家族の意向、安全性など優先順位を決めながら計画立案する	個別的、具体的に立案することを指導		

Q9(2)根拠に基づく計画を教育するために工夫していること	コーディング	中項目	大項目
5W1H を意識して計画を作成、1 つひとつの支援の手順を細かく記載	5W1H を意識し、細かな手順を記載させる	わかりやすい書き方の指導	より精度の高い計画立案のための工夫
介護計画を、介護福祉職の誰もが、実践継続できるように 5W1H を用いて記すこと	5W1H を用いて記させる		
何故その支援が必要なのか他者に伝わるように言葉で表せるように指導している	他者に伝わる表現で表すよう指導		
具体的な数値や目で見てわかることなど、具体性をもたせること	具体的な数値や目視できることなど具体性を持たせる	客観的評価が可能な具体的画	
内容は変化の観察をすることができ、測定が可能な内容にしていく 数値化したり観察の基準を設ける 写真等に残していく	観察、測定可能な内容にして、数値化、観察基準を設ける		
自立と利用者のストレングスの視点、優先順位、計画の具体性(数値化を用いる)など	計画の具体性(数値を用いる)など		
Q8 の回答にあるアセスメント能力の育成に力を入れている 利用者が抱える問題の所在を明らかにすることが一番難しく、問題の所在が明らかになると計画等次の段階が立てやすくなると考えている これについて参考にする考えとして「55 分は問題を定義することについて考えることに費やす そして、残りの 5 分でそれを解決しようと試みるだろう」というアインシュタインの言葉(諸説ある)がある アセスメントによって得られた情報や課題を根拠に、計画を立てるようにしている	アセスメントに大半の時間を費やして計画を立てさせている	計画立案のためのアセスメントの重要性を教授する	
学生自身が「したい」支援にならないよう、アセスメントによって明らかになった根拠をもとにした計に画なること	学生の主観ではなく、アセスメントを根拠に計画立案させている		
根拠に基づく「計画」を立てるには、しっかりとしたアセスメントが必要であることを教授する	アセスメントの重要性を教授する		
情報収集、分析などのアセスメントとの関連性が必要不可欠なため、介護過程の展開は一方通行ではなくアセスメント⇔計画など、振り返りながら立案する視点に留意している	アセスメントのと計画立案の関連性が必要であることに留意している		
計画を立案する前に課題の関連付け・統合化をすることで、課題の明確化し、根拠ある内容になっているか視覚化する	計画立案前のアセスメントを視覚化する		
アセスメントをしっかり行い、根拠を明らかにしながら計画を考えさせる	アセスメントで根拠を明らかにして計画を考えさせる		
グループワークで他者と連携して計画を立案する	グループワークで他者と連携して立案	学生同士で意見交換をして計画を立案	計画を書けるようにする工夫
1 人の人を考えてその人のために計画立案できるよう、まずは身近な友達同士などから取り組む	身近な友達同士で計画立案する		
介護計画立案のなかでは、長期目標、短期目標とその期間を設定する目的を理解しにくい様子がみられるため、その後の実施と評価をイメージしながら設定するよう促している	実施と評価をイメージしながらの立案を促す	計画の後の介護過程プロセスを意識化	
介護計画を立案、実践することで対象者がどのようになったのかを動画で確認することを教育内容として組み込んでいる	計画を実施後に対象者がどうなったかを動画で確認する		
過去の学生が取り組んだ(作成)事例を授業の中で話している	過去の学生が取り組んだ事例を授業中に話す	過去の学生の計画を事例	
授業の中では事例を用いての「計画」としてしか実施することができないため、教科書の事例だけでなく、卒業生等が計画したプランを事例化している	卒業生の計画を事例として活用		
ほとんどの学生が文章化できないため、定型文を例示し、体裁を整えるように指導している(最低限)	定型文を例示して体裁を整えるよう指導	計画立案に取り組むハードルを下げる	
模範例を用いて説明をする	模範例を活用		
動画や実習などイメージがつきやすいようにしています	動画や実習でイメージを持たせる		
「根拠」となるものの例を提示する	根拠となるものを例示する		
学生が創造しやすいテーマの選定	学生が創造しやすいテーマ選定		
わかりやすく、取り組みやすい事例の活用	取り組みやすい事例の活用		
実際により良い方向に変わった介護計画の例を参考にして授業を実施している	好事例を参考にする		

Q9(2)根拠に基づく計画を教育するために工夫していること	コーディング	中項目	大項目
実際の現場での体験、経験談を活かして伝えると、よりリアリティがあり生徒には伝わっていると思う	教員の現場体験、経験を活かして伝える	計画立案に取り組むハードルを下げる	計画を書けるようにする工夫
計画作成で Google のジャムボードを活用して言語化、共有	Google のジャムボードを活用して言語化し共有		
利用者の方がどのように毎日過ごしていて、生きがいや満足感を何で感じているのかを介護者が考える・イメージできるようになることを大切にしている 介護計画を実践することで、よりその人らしく生き生きと生活できる、また、それを継続できるのか考えるよう伝えている	介護計画の実践がその人らしい生活につながるかを考えさせる	利用者のための計画であることを意識づける	計画の意義を伝える
利用者の生活歴とその時代の日本における生活スタイルの理解、日課として継続可能なものであると同時に、できる限り利用者自身に日常生活を送る上で必要な動作につながる計画を考えさせる	利用者の日常生活で必要な動作につながる計画を考えさせる		
主体が介護者とならないようにすることを常に伝えています また、レクリエーションを実施して 1 回で何か成果や結果を得ることに偏らないことを意識させています 生活の中に、どのような工夫が必要なのかなどを考えるように伝えています 介護実習などでも、自分自身が〇〇をやった、〇〇できた、〇〇と言ってもらったなど自分への評価を大切にしている様子が見られます そのため、自分の計画がうまくいくように操作しないことなどを伝えています	計画の遂行の可否が主軸とならないよう、伝えている		
利用者の持つ思いや、力を引き出す計画の立案	利用者の思いや力を引き出す計画立案		
言語化、文章化　言葉にこだわる 用い方が不適切であれば利用者の尊厳に関わる 自分自身の考えている言葉一つにこだわること	言語化、文章化、言葉一つにこだわること		
自分本位ではなく、利用者の望む生活は何かを常に意識すること	自分本位ではないことを意識させる		
目標が生活課題を解決するためのものか考えさせる、実施の期間を考えさせる	目標が生活課題を解決するためのものか考えさせる		
実習後の学生それぞれのアセスメント表を学生間で交換し、計画を立案してみることを行っています	実習後の学生のアセスメント表を学生同士で交換して計画立案させている	実習利用者の計画を立案	計画立案機会としての実習
介護実習に於ける受け持ちケース選定を通し、計画立案の演習を行っている 事例学習として、演習に取り組んでいる	実習受け持ちケースの計画立案		
実習において、段階的に介護過程の展開を実習課題に組み込んでいる 実際に実習で経験した事例(自身及び他の学生)をもとに計画の立案を行っている	実習事例で計画立案		
校外での介護実習で実際に行ったアセスメントの内容を活用して担当利用者への計画を立ててみるようにしている	実習の担当利用者への計画を立案		
介護実習の機会を活用し、実際の利用者の計画を立案する 2 か月半後に再度アセスメントをおこない、計画が利用者の現状に即しているよう、修正をしている	実習担当利用者への計画立案と計画の修正		
校内で介護過程の授業を行った後、3 年次での介護実習の内容に介護過程を組み込み、実習先の利用者の計画を作成している	実習先の利用者の計画を作成		
介護実習時に現場で学習を深めている	実習で学習を深めさせる		
実習時のカルテや、実際にアセスメントを行った実習対象者の情報を基に、計画を立てる	実習対象者の計画を立てる		
実際の受け持ち利用者に実践させてもらっている	受け持ち利用者で実践		
2 年生の後半の介護実習で、担当利用者の情報収集の練習、計画立案の練習を実際にさせてもらい、3 年生までに経験を積ませている	実習担当利用者で計画立案		

（7）根拠に基づく計画を教育するためのツールや指標

Q9　（3）根拠に基づく「計画」とを教育するために用いているツールや指標には、どのようなものがありますか。

Q9（3）根拠に基づく計画を教育するためのツールや指標	コーディング	中項目	大項目
中央法規出版株式会社より出版されている「介護過程」より介護過程の実践的展開のシートを活用している	中央法規「介護過程」介護過程の実践的展開のシート	中央法規『介護過程』の計画書	教科書、書籍
中央法規「介護福祉士養成講座 9 介護過程」において示されている、「介護計画書」をツールとして使用している	中央法規「介護過程」介護過程の介護計画書		
最新介護福祉士養成課程 9「介護過程」（中央法規）	中央法規「介護過程」介護過程の個別介護計画書		
中央法規出版の介護過程のテキストを参考にしている	中央法規「介護過程」教科書		
中央法規出版の教科書にもとづいて行っている 介護実習Ⅱ（担当利用者）のアセスメントの再検討から介護計画立案の再検討を行う	中央法規の教科書		
中央法規及び介養協テキスト	中央法規の教科書		
生徒が作成したものを介護実習先で添削してもらう 中央法規の介護過程Ⅱ	中央法規の介護過程Ⅱ		
教科書、独自に作成した資料	教科書	教科書、参考図書	
教科書	教科書		
テキスト	テキスト		
教科書	教科書		
教科書やテキストの内容参考	教科書		
教科書	教科書		
教科書、参考図書など	教科書、参考図書		
留学生が多いため使用教科書を指標にしている	教科書		
テキスト	テキスト		
テキスト介護過程　柊崎京子編著　にあるシートやツールを使用	建帛社のテキスト介護過程		
教科書	教科書		
テキスト	テキスト		
ケアマネジメントに於ける（施設・居宅）ツールを用いる	ケアマネジメントの施設・居宅ツール	実用されている計画書	各種計画書
さまざま企業の計画書と評価項目	様々な企業の計画書と評価項目		
実際の事業所プランや多職種のプランの参照など	実際の事業所のプランなど		
本校で作成した個別援助計画表	学校作成の個別援助計画表	学校独自の様式	
本校で使用している「介護計画表」	学校の介護計画表		
関係書籍等を参考に、本学独自のものを使用	学校独自のもの		
計画には観察計画（目標達成の指標）を含む	観察計画（目標達成の指標）		
介護計画シートは独自のシートを作成している	独自の介護計画シート		
オリジナルワークシート	オリジナルワークシート		
本学独自の記録様式を活用し演習	学校独自の記録様式		
本校指定の介護計画表を使用している	学校指定の介護計画表		
本校が使用している介護過程の様式（アセスメント、介護計画、実施、評価記録など）	学校独自の介護過程様式		
学内の様式	学内の様式		
本校独自のシートを活用しています	学校独自のシート		
長期目標、短期目標、具体的な計画、目標達成の評価欄のある「個別援助計画シート」を用いている	個別援助計画シート	計画書等	
個別援助計画書	個別援助計画書		
介護計画書	介護計画書		
個別援助計画	個別援助計画		
個別および集団援助計画表、レクリエーション実施計画表などを作成している	個別計画書、集団援助計画書、レクリエーション実施計画表		
介護実習時に施設の介護計画を見させていただく機会を設ける	実習先の介護計画書を見学	実習先の介護計画書	
1 年次の介護実習の時から、実際の「計画」を見ておくように指示をしている	実習先の介護計画書を見る		

Q9（3）根拠に基づく計画を教育するためのツールや指標	コーディング	中項目	大項目
介護実習の実習指導者の助言を参考にする	実習指導者の助言	実習先の指導	実習先の指導
指導者のアドバイス	実習指導者の助言		
生徒が作成したものを介護実習先で添削してもらう	実習先で添削してもらう		
介護実習施設指導者の意見	実習指導者の意見		
これまでの学生が作成した計画例	過去の学生が作成した計画例	過去の例	過去の例
過去の介護過程の実践例	過去の介護過程実践例		
過去の実践事例	過去の実践事例		
一人一台タブレット端末を活用し、ロイロノートスクールなどのアプリケーションを効果的に活用するよう努めている	タブレット端末によるロイロノートスクールアプリ	その他のツール	その他のツール
動画サイト	動画サイト		
ケアチェック表	ケアチェック表		
測定・客観的な判断ができる記入形式を用いる	測定・客観的な判断ができる記入形式		
アセスメントシートと連動した計画書	アセスメントシートと連動した計画書		
自分で作ったシート、ツール	自分で作ったシート、ツール		

（８）根拠に基づく実施とは何だと考えますか

Q10　(1)根拠に基づく「実施」とは

Q10(1)根拠に基づく実施とは何だと考えますか	コーディング	中項目
介護計画に盛り込まれた内容を的確に行うこと	介護計画の内容が的確に行われる	計画に沿って実施されるもの
介護計画に示された介護目標の達成を意識して、実践することにより、統一した介護が提供できるものである 実施過程は利用者の反応や心身の変化によって、目標等を(内容も含む)追加・変更することに繋がる貴重な機会である	介護計画の目標達成を意識した実践	
計画に沿った支援を提供すること	計画に沿った支援	
専門知識をベースに、計画の内容を実際のご利用者の状況に合わせて支援が行われること なぜそれを行うのか、それによって何を達成しようとしているのか、利用者・他職員に説明ができること	計画の内容を利用者の状況に合わせて支援する	
目標達成のために立案された介護計画にそって実施することであり、計画に盛り込まれた支援内容・方法について、確実に行うことだと考えている 併せて、安全性・快適さ・自立の各視点に基づき、対象者の反応も大切に実施することが求められる	介護計画に沿って実施すること	
既に根拠を基に導き出された生活課題から、計画を立てたものを実施するもの 日々の介護現場での個別のケアそのものだと考える	根拠をもとに導き出された生活課題から立案された計画を実施する	
利用者の「よりよい生活」「よりよい人生」の実現に向けて立案した計画に基づく介護実践	計画に基づく介護実践	
根拠に基づいて立案した計画を、その狙いや意味も理解したうえで実施すること	根拠に基づいて立案した計画を実施すること	
利用者の意向や身体状況や生活環境など本人の状況を踏まえ、広く利用者を理解したうえで、計画を実施すること	利用者理解をした上で計画を実施すること	
分析内容、目標、計画、評価の視点が矛盾なく、筋の通った実施である かつ、実施した内容について、事前に立てた評価の視点にてあらしあわせて、 日々、評価し、考察を加えていること 利用者の状況にあわせて、実施した内容の結果をスケール等を使用し評価していること	分析内容、目標、計画、評価の視点が矛盾なく筋が通っている実施	
個別援助計画を基に、利用者の体調や気持ちを考え、把握しながら実施 実施の中で、利用者にできたことで意欲や自信を持ってもらう 継続して行うことの必要性	個別援助計画をもとに利用者の状況を把握しながら行うこと	
介護計画内の長期目標、短期目標を理解し、利用者に関わる職員全員で情報共有し、統一したケアをおこなうこと	介護計画の目標を踏まえ、職員全員で情報共有、統一したケアを行うこと	
「目指す状態」「介護の方向性」で整理した根拠、特に具体的援助内容に根拠づけをする 何のためにその実施を行うかの理由を明確にする(長期(短期)目標を視野に入れて実施をする、観察項目を含める)	目指す状態、介護の方向性を根拠に具体的援助内容に根拠づけをする	
介護計画をもとに実施し、実施の状況を詳細に記録として言語化し、チームで共有する	介護計画をもとに実施する	
アセスメントした内容→介護計画に基づいている	アセスメント内容と介護計画に基づいている	
「計画」に基づく実施 自立支援、安全と安心、尊厳の保持を視点において行うこと	計画に基づく実施	
根拠に基づいたアセスメント・計画を「実施」すること	根拠に基づいたアセスメント・計画を実施すること	
アセスメントにより、導き出された課題＋ニーズへの対応	アセスメントにより導き出された課題・ニーズへの対応	
前述の根拠に基づく「アセスメント」「計画」をふまえた実施であり、実施する根拠および目的を理解し、評価視点を持って行うこと	アセスメント、計画を踏まえた実施	
目標達成のために立案された介護計画にそって実際に介護を実施すること	介護計画に沿って実際に介護を実施すること	

Q10(1)根拠に基づく実施とは何だと考えますか	コーディング	中項目
利用者の会話、表情、しぐさなど様々な視点から得られた情報による実施	利用者様々な情報を得て実施すること	計画に沿って実施されるもの
アセスメントをいかし、本人主体で計画を実施すること	アセスメント、計画を実施すること	
利用者の個に応じた計画実施	計画の実施	
計画をベースに実施し、記録をすることだと考える	計画をベースに実施	
利用者の意思を尊重し、介護計画の意図を考えながら実施する	介護計画の意図を考えながら行う	
目標を達成するために立案された個別援助計画に沿って実施すること	個別援助計画に沿って実施すること	
アセスメントや計画を通して職員が考案した計画が、利用者が実際に生活を通してどのように感じるかを確認するもの	計画が実際に利用者が生活の中でどう感じるかを確認するもの	
アセスメント、計画で構築した目標や根拠がブレることなく実施できること	アセスメント、計画で構築した目標や根拠が実践できること	
介護計画にもとづいて、介護福祉チームでばらつきなく個別ケアを実施する また、他職種を含めたチームアプローチを実践し、利用者が望む生活を支援する (つまり短期目標、長期目標を意識して支援する)	介護計画に基づいて介護福祉チームで個別ケアを行う	
立案した介護計画にもとづく介護の実践	介護計画に基づく実践	
アセスメント・計画に基づいた支援	アセスメント・計画に基づいた支援	
利用者のニーズを解決するための計画に基づき、利用者の状態に応じて計画を実施する	計画に基づき利用者の状態に応じて行う	
十分なアセスメントに基づく計画の沿った実践	アセスメント、計画に沿った実践	
計画に基づく実施	計画に基づくこと	
支援内容と方法に添って実際に確実に行うことで、行わなければ意味のないものになってしまう	支援内容と方法に沿って実際に確実に行うこと	
介護計画に基づく根拠のある介護実践をいう 介護過程の展開における「実施」は、日々の介護の実践そのものであり、立案した計画を実行することである	介護計画を実行すること	
介護計画に盛り込まれた支援内容・方法について、確実に実施すること	介護計画を確実に行う	
介護福祉職が計画を具体化するために行う適切な関わり	計画を具体化するために行う適切な関わり	
介護計画に示された介護目標を達成するための介護実践	介護計画の目標を達成する介護実践	
介護計画に基づいた介護の実施ができる 利用者の状況に応じ、計画を実践する その際、利用者の安全や自立を意識し利用者のもつ力を活かすことができるように注意する	介護計画に基づいた介護を行うこと	
計画を進めること	計画を進めること	
介護計画に示された介護目標の達成を意識した介護実践	介護計画の目標達成を意識した介護実践	
介護計画で示した、介護目標を達成させるための実践	介護計画の目標を達成させるために行うこと	
アセスメントで得た内容に対して、立案した計画をもとに、行うもの	アセスメント、計画をもとに行うもの	
計画に沿って実施をすることだと思います	計画に沿って行うこと	
上記の根拠に基づくアセスメント、介護計画立案で計画に示された目標の達成を意識した介護実践を行うこと	アセスメント、介護計画の目標達成を意識した介護を行うこと	
介護計画に沿った支援の実施	介護計画に沿った支援	
実施計画に準じた展開であるとともに、原則(安全、安楽、自立支援・QOL、ボディメカニクスなど)に則った生活支援を展開すること	実施計画に準じたこと	
利用者の生活の全体像やアセスメントの内容が反映された個別性のある具体的計画にそって実施されるもの アセスメントの結果をふまえ評価の視点を明確にし、実施、記録できること	具体的計画に沿って実施されるもの	
計画に基づいて共通認識を持ち利用者のケアを行う	計画に基づいて行うこと	
介護計画に基づいて介護を実践していくこと	介護計画に基づいて行う介護	
まずは、計画に沿って実施すること 必要であれば理由を示して計画内容や方法を修正できること 介護者が適切に利用者にあった支援ができること	計画に沿って行うこと	

Q10(1)根拠に基づく実施とは何だと考えますか	コーディング	中項目
計画に基づいて、当事者である利用者の情況を絶えず確認すること、状況判断をしながら適切な技術(介護、コミュニケーション)を提供することで利用者の生活を継続していくこと	計画に基づくこと	**計画に沿って実施されるもの**
一人の介護福祉士が行うだけではないため、統一されたケアが提供できることであると考えます	統一されたケア	**チームで統一して行えるもの**
介護計画に示された介護目標の達成を意識して、実践することにより、統一した介護が提供できるものである 実施過程は利用者の反応や心身の変化によって、目標等を(内容も含む)追加・変更することに繋がる貴重な機会である	統一した介護	
チームで同じ目標をもって活動することで、新しい角度からの視点を獲得できることも期待できます	チームで同じ目標を持って活動すること	
実施とは、介護計画を介護福祉職チームで共有し、介護計画に基づく根拠のある介護実践をいう 介護過程の展開における「実施」は、日々の介護の実践そのものであり、立案した計画を実行することである	介護計画を介護福祉職チームで共有する	
介護福祉職が共有できること	介護福祉職が共有できること	
支援内容の手順や留意点が明確になっているものであり、介護福祉職が誰でも対応できるようなもの	介護福祉職誰もが対応できる内容であること	
実施については、実習時に展開の際、現実的に取り組めるもの、チームでとりくめる内容で、あり、利用者の生活にそったもの	チームで取り組めるもの	
利用者の状態やその日の様子に合わせて、利用者の方と楽しく計画を実践すること	利用者のその日の状態に応じて楽しく実践する	**利用者の状態に応じてできること**
安全性・快適さ・自立の各視点に基づき、対象者の反応も大切に実施することが求められる	対象者の反応も大切に実施すること	
アセスメントで収集した情報を元に、利用者に応じた的確な生活支援技術を提供する	利用者に応じた的確な生活支援技術を提供する	
利用者のニーズに適した支援内容	利用者ニーズに適した支援	
利用者の価値に根拠を統合し、利用者が置かれている環境(利用可能な資源)、身体状況などをふまえて、適切な介護を行う	利用者が置かれている環境、状況を踏まえて適切な介護を行うこと	
個々の心身の状況に応じた介護実践	個々の心身の状況に応じた介護	
利用者の状況や状態に応じた援助を行うこと	利用者の状況、状態に応じた援助	
利用者の心身の状況に応じた実施	利用者の心身の状況に応じて行うこと	
介護者が適切に利用者にあった支援ができること	利用者にあった適切な支援ができること	
計画に基づいて、当事者である利用者の情況を絶えず確認すること、状況判断をしながら適切な技術(介護、コミュニケーション)を提供することで利用者の生活を継続していくこと	利用者の状況を確認判断しながら適切な技術を提供すること	
短期目標を意識した日々の介護提供と記録が必要となる 日々の実践記録が重要なデータとなる	短期目標を意識した介護提供と記録が必要	**評価・記録できること**
実施した内容について、事前に立てた評価の視点にてあらしあわせて、日々、評価し、考察を加えていること 利用者の状況にあわせて、実施した内容の結果をスケール等を使用し評価していること	実施内容に評価、考察を加えていること	
実施する根拠および目的を理解し、評価視点を持って行うこと	実施の根拠と目的を理解して評価視点を持って行うこと	
計画をベースに実施し、記録をすることだと考える	記録すること	
実施において利用者に対してニーズの充足、リスクマネジメントなどが妥当かどうかを意識して実施 その後その内容が行われているのかを評価する 行われている場合は継続性効率性、効果性についてまた行われていない場合にはどのような理由で行われないのかを意識して実施	実施した内容の継続性、効率性、効果性などを評価する	
アセスメントの結果をふまえ評価の視点を明確にし実施、記録できること	評価の視点を明確にして実施、記録できること	
「身体機能」+「意欲」が基本＊心を動かし、身体が動き出すような計画が結果的に根拠に基づく計画になるのだと思います	心を動かし身体が動き出すような計画	**利用者の主体性を引き出すもの**

Q10(1)根拠に基づく実施とは何だと考えますか	コーディング	中項目
利用者が自ら取り組みたいと思える内容	利用者が自ら取り組みたいと思える内容	利用者の主体性を引き出すもの
できることできそうなことを踏まえ、実施する	できること、できそうなことを踏まえて実施する	
個別援助計画を基に、利用者の体調や気持ちを考え、把握しながら実施 実施の中で、利用者にできたことで意欲や自信を持ってもらう 継続して行うことの必要性	利用者に意欲や自信を持たせ、継続できること	
計画を立てたものが、達成感や満足が感じられるもの	計画したものが達成感や満足を感じられるもの	
利用者をエンパワメントし、QOL を向上させること	利用者をエンパワメントし QOL を向上させること	
介護過程を実践していくなかで、検討し修正することをチームで取り組むことが必要 短期目標を意識した日々の介護提供と記録が必要となる日々の実践記録が重要なデータとなる	チームで検討、修正すること	計画を修正していけること
専門職としての見方を持って、計画の実行・中止・変更すること	専門職として計画を実行・中止・変更すること	
まず計画段階で Q9 に示すように学んだことを活かす次に実施では「利用者の反応によって、計画内容を随時変更すること」	利用者の反応によって、計画内容を随時変更すること	
実施にするにあたり、本人の状態の変化を把握して、状況に合わせながら修正変更できること	本人の状態の変化を把握して、状況に合わせながら修正変更できること	
必要であれば理由を示して計画内容や方法を修正できること	必要時に理由を示して計画を修正できること	
自立支援、安全と安心、尊厳の保持を視点において行うこと	自立支援、安全と安心、尊厳の保持を視点において行うこと	原則や視点、技術に基づくもの
実施は、介護過程の中心となる部分であり、実施に介護を提供することにより、支援の意義を形にして示す段階である 介護職は尊厳の保持、自立支援、安全・安心など、介護の理念を意識する必要がある 適切なアセスメントを行い、利用者の生活課題の解決に向けて適切な介護計画を立案しても、実施する介護職にこれらの視点が備わっていなければ、十分な効果を得られない 実施に至るまでの視点等を身につけ、担当利用者に適した介護を提供したい	尊厳の保持、自立支援、安全・安心など、介護の理念を意識して行う	
安全安楽であり、その人らしい生活の実現につながるもの	安全安楽であること	
3 つの視点を踏まえ、利用者が納得し、介護福祉職が共有できること	3 つの視点を踏まえること	
利用者の安全や自立を意識し利用者のもつ力を活かすことができるように注意する	利用者の安全や自立を意識し本人の持つ力を活かすこと	
原則(安全、安楽、自立支援・QOL、ボディメカニクスなど)に則った生活支援を展開すること	安全、安楽、自立支援、QOL、ボディメカニクスなどの原則に則った生活支援技術の展開	
生活支援技術などにおける基本的介助手順や留意点に基づくものであり、さらに利用者の生活の全体像やアセスメントの内容が反映された個別性のある具体的計画にそって実施されるもの	生活支援技術などに基づくもの	
科学的根拠をもとに介護を行い、自立支援、尊厳を守る実践	自立支援、尊厳を守ること	
本人がやりたいことだけをする計画にならないこと	本人がやりたいことだけをする計画にならないこと	その他
介護実習との連携	介護実習との連携	
専門職としての責任と誇り	専門職としての責任と誇り	

（9）根拠に基づく実施を教育するために工夫していること

Q10　(2)根拠に基づく「実施」を教育するために工夫していることはありますか。

Q10(2)根拠に基づく実施の教育で工夫していること	コーディング	中項目	大項目
介護実習Ⅱに於いて、期間内で実施する様指導し、その進捗状況について、適宜、指導や助言を受けられる様にしている	実習中に適宜指導助言ができる状況づくり	実習の中で実施に取り組む	実習を通じた学び
実習区分Ⅱの2回の実習においては、2回ともに実施・評価をするまでを課題としている 短期目標に基づいた実践のなかで、2日間以上の実践記録を課して記録させている また実践のなかで、計画等の見直し修正を図り実践を繰り返す学生もいる	実習中で実施させ、適宜計画の見直しをと実施を繰り返す		
授業で学んだことを介護実習において実践する 3年生の介護実習において、担当利用者を決め、情報収集からアセスメント、生活課題の明確化、目標設定、計画・実施・評価の介護過程の一連の過程を実践する 実習の巡回指導やカンファレンスにおいて、取り組み状況を把握し、助言指導を行う	実習にて実施 実習巡回で助言を行う		
利用者の日々の生活・利用者の置かれた環境・家族・過去の生活歴を総合的に見て、利用者のニーズを踏まえた上で無理のない実施計画を立てた上で、実施する 現場実習中には、職員の方のアドバイスを参考にして、実施するよう指導している	実習で職員の助言を参考にして実施するよう指導している		
学内では紙上演習のため「実施」はしていない 第3段階実習で取り組んでいる	実習で取り組んでいる		
校内では特になし 施設実習において、介護過程Ⅱの実習で実践	実習で実施		
介護実習を活用し、施設で生活されている利用者に対して計画の実施を行っている 実施の時は、計画どおりに支援ができているか確認の行い、あらかじめ決められた目標の達成状況を確認する	実習で実施		
実習担当の先生方が定期的に巡回に行き生徒の意見を聴くなど適宜指導を行っている	巡回時に適宜指導		
実習で介護過程の展開を意識して、実施は3回以上するように指導している	実習で実施		
介護実習時に現場で学習を深めている	実習で実施		
実際に3年次の介護実習で担当利用者を決め、個別援助計画の実施を行う	実習で実施		
実習の際の声かけ	実習での声かけ		
実習を通して実施を行い、担当利用者を決め行う	実習で実施		
介護実習で実践を行い、振り返りを行う	実習で実施し振り返る		
実習で実際に、対象者が体調の悪化や認知症が進むのを目の当たりにして、一度考えた計画も修正が必要であることを体験してもらう	実習を通じて、立案した計画の修正の必要性を体験させる		
介護実習Ⅱでは、教員と現場の指導者で指導している 実習の帰校日に計画に沿った支援が実践されているかチェックして修正をしている	実習指導者と連携して指導		
実習指導者との打ち合わせや話し合い、実施にあたっての協力を依頼している	実習指導者に実施の協力依頼	実習で実施機会を得られるよう相談する	
実習生は現場の職員ではないので、現場の実情（人員の配置、対応ができるか、時間が確保できるか等）やコスト面等も含め、職員と相談の上実施させてもらっている その点から、職員との協力の上で実施できていると言える それが学生の今後の自信にも繋がると考えられる	実習先の職員と相談して実施機会を作る		
施設職員に相談し生徒が実現可能な実施内容	実現可能な実施内容を施設職員に相談		

Q10(2)根拠に基づく実施の教育で工夫していること	コーディング	中項目	大項目
生徒が考えた計画を実習中に実践させてもらえるようお願いしている	実習中に実施できるよう相談している	実習指導者や職員に助言をもらう	実習を通じた学び
教員や実践現場職員から指導を受ける、実習事業所との連携など	実習現場職員からの指導、実習事業所との連携		
現場の実習指導者からも指導助言を受ける	実習指導者に指導助言を受ける		
介護実習の実習カンファレンスにおいて、「介護過程の展開」の状況を学生が報告し助言を受ける(カンファレンスシートの達成すべき課題として介護過程の項目を設定)	実習カンファレンスで実施内容の報告を行い指導を受ける		
実習施設にて指導者の助言をもらっている	実習指導者の助言をもらう		
介護実習で担当職員からアドバイスをいただきながら実施	実習担当職員から助言をもらう		
実際に 3 年生の介護実習で担当の利用者を受け持たせてもらい、実習指導者にアドバイスをもらいながら介護計画を実施している	実習で実習指導者に助言をもらいながら実施	実習で実際の実施を見学させてもらう	
介護実習の際に実施の様子を見学させていただく	実習で実施の様子を見学させてもらう		
クラスメイトや教員を利用者に見立てて、考えた計画を実際に実践させる	クラスメイトなどで模擬実施	学内で演習やロールプレイを行う	学内での実施機会を設ける
計画の立案にて実施したカンファレンスをベースに、実際に利用者役・介護者役に分け実施を行う授業を展開している 実際に実施する中で解釈の違いなどが生じることがある そのズレを学びの起点とし、時に計画の立案に立ち戻るなど、PDCA サイクルを意識した指導を行っている	立案した計画を利用者役・介護者役に分けて実施を行う		
学内演習でロールプレイ	学内演習でロールプレイ		
1 人で実施を進めることはほとんどないと考えています そのため、授業の中では、クラスメイトと共に役を決めてロールプレイをしながら、修正点などを検討させるようにしています	クラスメイトとロールプレイ		
介護実習Ⅱの担当利用者事例のグループワーク(アセスメントの再検討、介護計画立案の再検討を経て、「介護の実施」としてロールプレイを行いグループ発表をする 発表中は、グループ外のクラスメイトを利用者役として設定し、職員役の学生からの支援に利用者として反応する 発表グループは実施状況をよく観察しメモしながら行う	実習利用者を事例にロールプレイとグループ発表		
校内の事例検討で実際に介護計画を立案し、模擬利用者に支援を提供する練習なども行っている	校内の模擬事例で練習		
事例をもとにした支援のロールプレイを反復する、作成した支援計画にそった実践(演習・派遣実習)	事例のロールプレイを反復		
ロールプレイの実施、生活支援技術レポートや実習記録を通して準備→実施→評価の思考過程を学ぶ	ロールプレイの実施		
立案した計画にもとづいた実践のロールプレイを行うことで具体的な方法や観察の視点、様々な想定をしながらイメージをつくり、実践の根拠を考えることができるようにしている	ロールプレイの実施		
根拠をもとに作成した介護計画を実際の対象者に実践する機会を介護実習の他に設けている 実施を行う際の対象者を数名登録している	実施を行う対象者を数名登録して、計画を実施する機会を実習の他に設けている	実施対象者を実習以外に登録して実施機会を設ける	
それを行うことで何がどのようになるのか、どのような専門的な知識や技術が用いられているのか、それを行うことで得られるメリットと同時に起こりうるデメリットを検討する時間とるようにしている	実施に用いる専門性やメリット、デメリットを考えさせる	根拠を持って実施することを指導する	根拠と記録の重要性を指導する
実習時に対象利用者様に対して、計画を実施するにあたり、なぜこのケアが必要なのか？といった明確な根拠をもって実施に当たるように指導している	根拠を持って実施することを指導		
介護計画に基づいて行われることを理解して実施できるように、実施内容をその都度実施する目的を計画書にまとめる このことが、介護福祉職の行為が具体化されていること、根拠を持った適切な関わりを出来るようになると考える	実施内容と目的を計画書にまとめ根拠を持たせる		
介護実習で実際に計画を実施する際に、利用者の方の表情や言動、計画の評価に必要な事柄を漏らさず観察し記録するよう指導している	実施時は評価に必要な情報の観察と記録を指導している	実施に伴う状況や観察内容を記録する指導	

Q10(2)根拠に基づく実施の教育で工夫していること	コーディング	中項目	大項目
チームで介護方法を共有するためには、実施の状況を記録として言語化して記述すること 記録は客観的な事実を意識し記入すること そして記述して終わりではなく、実施の結果がチームの中で共有ができるようにしておくこと 目で見て観察できるものは写真として残し経過を観察できるようにする	実施状況を客観的な事実として記録して共有し得るものにさせる	**実施に伴う状況や観察内容を記録する指導**	**根拠と記録の重要性を指導する**
本校で使用している「介護計画表」に基づき、実施する 利用者の反応、可能性の発掘 新たな課題の発見 実施状況の経過及び結果の記録を行う	実施時の利用者の反応や経過などを記録させる		
記録の方法やポイントを伝え、実施場面の映像を流し記録をする練習をしている その後グループワークで意見交換し、全体で情報共有している	実施場面の映像を流し、記録する練習をさせる		
実践記録に対象者の状態・変化【観察計画に基づく)をきちんと残す指導	観察計画に基づく実施記録を残させる		
実施をした日については、実施しても実施できなくても、理由を記録する	実施の可否ともに理由を記録させる		
実施した支援内容、利用者の反応や言動、観察した内容や判断の根拠などを、記録として残すようにしている	実施した内容や観察内容、判断の根拠を記録させる		
実習記録の記入の中で、実施したことを根拠とともに明確化するよう指導している	実施内容を根拠とともに記録させる		
利用者への説明と同意 体調や安全に配慮すること(無理に実施しない)	利用者への説明と同意、安全への配慮	**利用者への説明と配慮**	
実施する内容を利用者が納得して実施する様指導すると共に、利用者の体調への配慮	利用者の納得を得て、体調に配慮するよう指導		

（１０）根拠に基づく実施を教育するためのツールや指標

Q10　(3)根拠に基づく「実施」を教育するために用いているツールや指標には、どのようなものがありますか。

Q10(3)根拠に基づく実施を教育するためのツールや指標	コーディング	中項目	大項目
教科書、独自に作成した資料	教科書	教科書	教科書
教科書	教科書		
テキストが中心である	テキスト		
特別なものはありません（学校で使用しているテキストの様式）	テキスト		
教科書やテキストの内容参考	教科書		
教科書、指導者のアドバイス	教科書		
教科書、参考図書など	教科書		
留学生が多いためツール等は使用教科書を指標にしている	テキスト		
テキスト、視聴覚教材、キャリア段位制度の指標（参考）など	テキスト		
テキスト	テキスト		
中央法規の介護過程Ⅱ	中央法規の介護過程テキスト	中央法規出版の教科書	
中央法規出版の介護過程のテキストを参考	中央法規出版の介護過程テキスト		
中央法規出版の教科書にもとづいて行う（生活支援技術など他科目で学習した知識・技術、これまでの介護実習で学んだこと、介護施設でのアルバイトでの体験等を思い出してもらいながらすすめる）	中央法規出版の教科書		
中央法規及び介養協テキスト	中央法規出版の教科書		
動画教材を活用し、実施の際の留意点を学んでいます 中央法規出版株式会社より出版されている「介護過程」より介護過程の実践的展開のシートを活用している	動画教材	動画、映像教材等	動画、映像教材等
映像教材	映像教材		
iPad、映像資料を使用	タブレット、映像資料		
動画サイト	動画サイト		
視聴覚教材	視聴覚教材		
実施の演習において、タブレット端末を使用し実演風景を撮影後、検討するなど振り返りにつなげている	実施演習をタブレットで撮影し振り返り検討		
介護実習の機会を活用	実習機会	実習機会	実習を通じた教育
実習での実践をふまえて、振り返る	実習の振り返り		
介護実習時に現場で学習を深めている	実習時に学習を深める		
実習施設でのカンファレンス	実習でのカンファレンス		
介護実習の実習指導者の助言を参考にする	実習指導者の助言	実習指導者の助言	
指導者のアドバイス	指導者の助言		
介護実習施設指導者の意見	実習指導者の意見		
実習中のノートや表	実習ノート	実習記録	
介護過程に関連する介護実習記録なども使用している	介護実習記録		
実習記録用紙	実習記録用紙		
実施→評価の記録用紙、記録の書き方ふりかえりの授業の実施	記録用紙、記録の書き方	記録の指導	記録の指導
実施記録の書き方についての指導	実習記録の書き方についての指導		
実際に行った時の反応・様子・状況を伝える資料	実施時の反応などを伝える資料	その他の実施教育ツール	その他の実施教育ツール
本学オリジナルの生活支援技術演習「チェックリスト」	オリジナルの生活支援技術演習チェックリスト		
実施記録	実施記録		
実施シートは、独自のシートを作成している	独自の実施シート		
数値化できる等の様式	数値化できる等の様式		
本学独自の記録様式を活用	学校独自の記録様式		
ツールとしては事例研究の意義目的および事例研究方法を明示したツールを使用している	事例研究の教示	事例研究	事例研究

（１１）根拠に基づく評価とは何だと考えますか

Q11　(1)根拠に基づく「評価」とは何だと考えますか。

Q11(1)根拠に基づく評価とは何だと考えますか	コーディング	中項目
生活課題や長期目標や短期目標について、成果の確認がなされていることだと思います 計画を立案しただけではなく、支援内容や方法の振り返りも必要であると思う	生活課題、長短期目標の成果の確認ができていること	目標の達成度を明らかにすること
目標に沿った介護実践を経て、達成の可否、程度、その理由等を明らかにすることで、今後に必要な関わり方や、ケアの方向性を示す、いわば再アセスメントの機会である、～循環過程に於ける折り返し点となる	目標達成の可否、程度その理由を明らかにすること	
評価基準と合わせて考えるもの、目標の達成状況を明らかにするもの	目標の達成状況を明らかにするもの	
目標がどの程度達成できたのか、出来なかったとしたらどのような理由からで、今後どのような支援が望ましいと考えるのかを、専門知識を基盤としながらさらに誰にでもわかる言葉で説明できること	目標の達成度合い、今後の望ましい支援が誰もがわかる言葉で説明できること	
長期目標に近づく、短期目標がどれくらい達成できたかを図ることができる具体的な視点	長短期目標の達成度を測る視点	
利用者の「よりよい生活」「よりよい人生」の実現に向けて立案した計画に基づく介護実践についての評価 目標の達成度を利用者の生活の向上、満足度、課題などの観点から振り返り・評価し、再アセスメント・計画の修正の必要性などを検討する	目標の達成度を様々な観点から振り返る	
実施中・後に得られた情報・課題等（←これが根拠となる）に基づき、実施したことで得られた成果や課題を確認し、計画や目標に対して現在どの位置にいるかの現状把握を行う その際、計画の継続や変更等も視野に入れる	実施中・後に得られた情報・課題等に基づき、計画や目標の現状把握を行うこと	
生活課題、目標がクリアになったかどうか、分析ができていること	生活課題、目標がクリアになったか分析できていること	
実施した計画について、記録に基づいて効果を判定し、目標達成度を評価し、目標達成に至らなかった場合は、自身が収集した情報と計画を実施した記録をもとに、計画の見直し修正を行う	記録に基づいて効果、目標達成度を判定すること	
実施した結果から、できたこと・一部できたこと・できなかったことを、理由を考え評価する、次回アセスメントにつなげるもの	実施結果から達成度を理由を考えて評価すること	
プロセスを振り返り目標が達成できているかを検証し、評価を客観的に行う実践項目について目標達成の程度やケアを判断し根拠を記入する	目標達成度を判断する	
支援の効果を言語化し客観的に評価を介護計画で定めた目標が、どの程度達成できたのかを評価する 定めた支援内容が適切であったかを確認し、介護が必要の望む生活に近づけたかを確認する	目標達成度を判断する	
根拠に基づき設定した目標が、利用者にどの程度の効果をもたらしたのか、また適切だったのかを判定するものと考える	目標の効果、適切さを判定するもの	
実践した介護の効果がどの程度であったか判定し、目標の達成度を評価る	実践の効果、目標達成度を判定する	
目標に対しての達成度、実践しての振り返り	目標の達成度、実践の振り返り	
前述の根拠に基づく「アセスメント」「計画」「実施」をふまえた評価であり、目標に対する到達度とともに実施内容、ご利用者の反応、アセスメント・計画内容の再確認など、介護過程全体の意義を理解し総合的に評価すること	目標の達成度と実施内容などの再確認	
介護計画に沿って実施後の観察結果から目標に達しているのか、利用者のニーズは満たされたか判断する	実施後の観察結果から目標の達成度を判断する	
個別援助計画にもとづいて実施した結果、目標の達成度や計画内容の適正、また計画通りに実践しているか、新たな課題や可能性はないかどを評価すること	実施結果、目標達成度、計画の適正、計画の進捗、新たな課題などを評価すること	
介護計画で設定した目標にどの程度近づいていたか、介護の実施は利用者の状況に合っていたか	目標の達成度、自立、安全、チームケアなど多角的に評価する	
実践を経て、目標の達成度を判定すること	目標の達成度を判定すること	
十分なアセスメントから導き出された目標の達成度および介護実践の実績評価②③適切な評価にするための実習指導者・担当教員・学生によるカンファレンス、実習後の介護過程の振り返り（追加・修正）	目標の達成度と実践者の実績評価	

Q11(1)根拠に基づく評価とは何だと考えますか	コーディング	中項目
目標達成のために効果を上げているかどうかを確認すること	目標達成効果の確認	目標の達成度を明らかにすること
立案した計画が達成できたか、適切であったかを振り返り、次に繋げるもの	計画の達成度と適正を振り返り次に繋げるもの	
介護実践の後には、その評価を客観的に行う必要がある これまでのプロセスを振り返り、目標が達成できているか検証し、そのうえで実践された介護を今後どのようにするのかを検討する 評価は立案時に設けた期限(評価日)及び利用者の生活状態に変化が生じたときに行う	目標の達成度の検証	
評価は利用者の最終アウトカムに近いているのか、そのために設定したスモールステップが達成できているのか、また持続可能性、効果性などの実施状況を客観的に実施状況としてまとめ、それらを評価すること	目標の達成度合い、持続可能性、効果性を客観的に実施状況として評価する	
計画に基づいて実施した結果、計画に盛り込んだ目標がどれくらい達成されたかを客観的に判断すること	目標の達成度を客観的に判断する	
立案した介護目標の達成度、成果の確認	介護目標の達成度、成果の確認	
これまでのプロセスを振り返り、目標が達成できているか、できていないのか検証できること	目標の達成度の検証	
設定された目標が達成できたか否かを、客観的に判断することができる また、日々行われる支援において、利用者の反応や言葉、姿勢などを観察し記録することができる 実践ののち、「望む生活」にどれだけ近づくことができたか、近づくことができなかったのかを明確にし、本人の満足度や達成感、新たな目標を持つことができるような支援を行うことができるよう支援していくことが重要だと考える	目標の達成度を客観的に判断すること	
実践して短期目標を達成させるために効果的であったか考察すること	短期目標達成に効果的だったか考察すること	
立案した介護目標がどれくらい達成されているかの判定	介護目標の達成度合いの判定	
介護実践を重ねたあと、目標がどれくらい達成されているか、成果を確認すること(課題の解決・軽減につながっているか)	目標の達成度や成果を確認すること	
決められた期間内で短期目標や長期目標がどうだったか、達成した理由も考える 達成できなかった場合も改善点を考える	長短期目標の達成度や理由、改善点を考えること	
根拠となっている事実に変化はあるのか、利用者の状態はどのように変わったのか、目標は達成できたのか等、客観的に判断すること	利用者状態の変化や目標達成度等を客観的に判断すること	
上記の根拠に基づくアセスメント、介護計画立案、実施を重ねた後に、当初立案した介護目標がどれくらい達成されているか、その成果を判定すること	介護目標の達成度や成果を判定すること	
計画で設定した目標がどのように実践されているか確認し、修正を行い次の実践(アセスメント)につなげる	目標への実践状況確認と修正や次のアセスメントにつなげる	
生活課題や長期目標や短期目標について、成果の確認がなされていることだと思います 計画を立案しただけではなく、支援内容や方法の振り返りも必要であると思います	支援内容や方法の振り返り	支援内容など計画の妥当性を確認すること
支援内容・方法が適切であったかの評価	支援内容、方法の適切さ	
考えた計画が利用者にとって適切なものだったのか、見直すこと	計画が利用者にとって適切かどうか見直すこと	
提供したサービスが利用者の生活課題を解決するものであったかを再確認し、多くの視点から結果を検討し、今後の介護に活かすこと	実施内容が生活課題を解決するものだったかを再確認すること	
実施サービスの内容が利用者の生活課題に沿っているかの再確認、計画の妥当性、利用者の満足度を知る	実施が生活課題に沿っているかの再確認、計画の妥当性、利用者満足度を知る	
実施したサービスが利用者の求める生活課題にそっているかを再確認し、それを踏まえて介護過程が適切に展開されるように検討することだと考える	実施が生活課題に沿っているかを再確認すること	
立案した計画が利用者の生活課題の改善にどれだけ役に立っているか、残された課題としてどのようなものがあるかを明確にすること	計画が生活課題の改善に役立っているか	
実施したサービスが利用者の求める生活課題にそっているかを再確認し、それを踏まえて介護過程が適切に展開されるように検討することである	実施が生活課題に沿っているかを再確認すること	
立案した計画が利用者の生活課題の改善に役に立っているか、残された課題としてどのようなものがあるかを明確にすることが評価で明らかになる	計画が生活課題の改善に役立っているか	
生活課題の解決に向け、効果を上げているかどうかを確認し、介護計画の妥当性を測ることをいう	生活課題の解決、効果を確認して介護計画の妥当性を測ること	

Q11(1)根拠に基づく評価とは何だと考えますか	コーディング	中項目
標準化されたケアであれば、複数の職員が評価をしても、一定の妥当性を担保できるのが、根拠に基づく「評価」にあると考えます また、「計画」段階での測定可能な目標設定が「評価」に影響を及ぼすので一体的なものとしてとらえています	標準化されたケアによる複数職員の評価で一定の妥当性を担保できること	支援内容など計画の妥当性を確認すること
記録、観察により得られた情報から生活課題の解決に向けて効果を上げているかどうかを確認する	記録、観察情報から生活課題解決の効果を確認する	
現在展開している援助がその人に合った内容かどうかを確認すること	進行中の援助がその人に合った内容か確認すること	
客観的な観察、計画の妥当性？	客観的な観察と計画の妥当性	
評価基準と合わせて考えるもの、目標の達成状況を明らかにするもの	評価基準と合わせて考えるもの	評価基準に基づいて行うこと
実施をする際に、事前に評価項目を作成し観察、利用者の変化が根拠になると考える	実施前に作成した評価項目の観察や変化を根拠とする	
具体的援助が計画通りに進んだかどうか、また、支援の効果がどの程度あったのかを客観的にはかれること	支援の効果を客観的にはかれること	
事前に作成した「評価の視点」にそって、分析、評価していること	事前に作成した「評価の視点」にそって、分析、評価していること	
客観的な指標を基に評価すること	客観的指標をもとに行うこと	
根拠に基づいたアセスメント・計画に対して、定量的・定性的に振り返ること	定量的・定性的に振り返ること	
評価基準にそって、客観的に評価すること	評価基準に沿って客観的に評価すること	
利用者の前向きな言葉、表情、動きのスムーズさ、笑顔の数など	利用者の言葉、表情、動き、笑顔の数など	
「計画」段階での測定可能な目標設定が「評価」に影響を及ぼすので一体的なものとしてとらえています	計画段階の測定可能な目標設定	
客観的な視点から評価を行う	客観的な視点から行うこと	
評価基準が利用者・家族のみならず、計画を実施する介護職員が理解できるもの	介護職員や本人家族が評価基準を理解できるもの	
目標の達成度を利用者の生活の向上、満足度、課題などの観点から振り返り・評価し、再アセスメント・計画の修正の必要性などを検討する	再アセスメント・計画の修正の必要性などを検討する	計画の見直しや次の展開につなげること
実施中・後に得られた情報・課題等(←これが根拠となる)に基づき、実施したことで得られた成果や課題を確認し、計画や目標に対して現在どの位置にいるかの現状把握を行う その際、計画の継続や変更等も視野に入れる	計画の継続や変更等も視野に入れる	
実施した計画について、記録に基づいて効果を判定し、目標達成度を評価し、目標達成に至らなかった場合は、自身が収集した情報と計画を実施した記録をもとに、計画の見直し修正を行う	目標未達成時に計画の見直し修正を行うこと	
実施した結果から、できたこと・一部できたこと・できなかったことを、理由を考え評価する 次回アセスメントにつなげるもの	次回アセスメントにつなげるもの	
残された課題としてどのようなものがあるかを明確にすること	残された課題を明確にすること	
アセスメントと計画の目標設定は適切で、利用者に合った介護になっていたかを評価し、今後の生活の課題、計画の修正等も検討する	アセスメントや計画、目標の適性を評価して今後の課題、計画の修正を検討すること	
実践された介護を今後どのようにするのかを検討する 評価は立案時に設けた期限(評価日)及び利用者の生活状態に変化が生じたときに行う	実践された介護を今後どうするかの検討	
また残った課題はどれだけあるのかを明確にする	残った課題を明確にする	
PDCA サイクルの実現:利用者の反応に応じて、実施計画を変更する	利用者の反応に応じて実施計画を変更する	
実践経過記録をベースにして、複数の指標からの客観的な効果・変化測定、利用者の満足度からの効果・変化測定など、生活支援を振り返り次のブラッシュアップした展開へつなげること	生活支援を振り返り次の展開へ繋げること	
介護計画の実施によって、次の課題を根拠立てて明らかにできるか	実施から次の課題を根拠立てて明らかにできるか	
実践してみて、本人の思いがどれくらい反映されているのか、どのくらいの変化があったのか、具体的に表現できること	実践後の本人の思いの反映や変化を具体的に表現できること	記録や利用者の反応から振り返ること

Q11(1)根拠に基づく評価とは何だと考えますか	コーディング	中項目
実施状況下での利用者の様子や言動、その後の変化を基に評価すること	実施状況下での利用者の反応や変化をもとに行うこと	記録や利用者の反応から振り返ること
記録	記録	
対象となる人の反応や姿を確認すること、利用者の生活の質の評価であると考えています また、介護職の考え方を振り返ることもあると考えています	対象者の反応を確認すること	
実施記録をもとに、正確な分析ができていることであると考える 目標や評価基準を常に意識して一つ一つの状況に対して「なぜそうなったのか」を考えていくことが大切である	実施記録から正確な分析ができていること	
実施前と実施後を比較し、本人から聞き取りをする	実施前後の比較して本人から聞き取りをする	
日々行われる支援において、利用者の反応や言葉、姿勢などを観察し記録することができる	支援による利用者の反応や言葉などを観察記録すること	
実施の際、またその語の利用者さんの様子や反応、一連のプロセスの振り返り	実施中、後の利用者の様子や反応の振り返り	
実践経過記録をベースにして、複数の指標からの客観的な効果・変化測定、利用者の満足度からの効果・変化測定など、生活支援を振り返り次のブラッシュアップした展開へつなげること	記録や指標による客観的な効果・変化測定、利用者の満足度などから振り返ること	
実践(事実)を記録し、支援者側の働きかけや行動、その結果(実施状況が評価できる情報)、利用者の反応(言葉、表情、動作)をもとに行動の意味や実践の効果を振り返ること	実施結果や利用者の反応、実践記録をもとに行動の意味や実践効果を振り返ること	
自分ががんばったから評価が良くなるのではないこと	自分ががんばったから評価が良くなるのではないこと	その他
モニタリングではなく、あくまでエバリュエーションであること	モニタリングではなくエバリュエーション	

（１２）根拠に基づく評価を教育するために工夫していること

Q11　(2)根拠に基づく「評価」を教育するために工夫していることはありますか。

Q11(2)根拠に基づく評価の教育で工夫していること	コーディング	中項目	大項目
実習後の実習指導者からの意見等を個々の学生にフィードバックしています	実習指導者の意見を学生に伝える	実習を通じて評価を体験	実習を通じて評価を学ぶ
介護実習Ⅱでの評価機会の設定 学内でのフィードバックの機会も作っている	実習での評価機会の設定		
3 年次の介護実習において、実際に介護過程を展開し、アセスメントから評価まで一連の実践を経験する その際、先の実施における「実施状況」を踏まえ、評価を体験する	実習で行った実施状況の評価を体験		
介護実習の最終カンファレンスにおいて、実践した介護計画及び実施の評価を行い、施設の実習指導者及び担当教員から指導助言を行う	実習の最後に介護計画の実施評価を行い指導者から助言をもらう		
施設での評価の仕方についてアドバイスをもらっている	実習施設から評価の仕方の助言をもらう		
各施設の担当教員によって、実施した介護計画について検討します また、介護実習の反省会の際、各施設の実習担当者から評価についてアドバイスをいただきます	実習担当者から評価について助言をもらう		
介護実習時に現場で学習を深めている	実習で深める		
介護実習の実習カンファレンスにおいて、「介護過程の展開」の状況を学生が報告し助言を受ける	実習中のカンファレンスにて助言を受ける		
介護実習で担当指導者からアドバイスを得ている	実習指導者からの助言		
実際に 3 年生の介護実習で担当の利用者を受け持たせてもらい、立案した介護計画を実施し、評価を行っている	実習の担当利用者への実施内容を評価している		
すべての実習の終了後に、介護過程Ⅳにおいてケーススタディに取り組んでいる ツールとしては事例研究の意義目的および事例研究方法を明示したツールを使用している	実習後のケーススタディや事例研究の学習	実習後に様々な形で振り返る	
介護実習後の授業「介護総合演習」において、「事例研究」として各自が取り組んだ介護実習における介護過程の実践を改めて考察し、評価する	実習後に事例研究を行い振り返る		
実習後に実習事例を学内演習し個々の介護過程実践力および他事例から視野を広げる機会を設定している	実習後に学内演習で振り返る		
実習でもち帰った事例を振り返りながら考える	実習の事例を振り返る		
3 年次に介護実習事例研究発表会の実施をしている	介護実習事例研究発表会の実施		
介護実習Ⅱの担当利用者事例に関するグループワークで実施したロールプレイ(介護の実施)の実施状況記録からイメージしてグループで評価をおこない、グループごとに発表し、クラス全体で共有する	実習担当利用者事例に関する実施状況記録をグループで評価させる		
介護実習において施設での指導を受けるものの、「評価」に関する指導(「評価」の評価)は十分なものではないと感じています そのため、介護実習終了後に学校で「評価」をさせることが多いです	実習終了後に学校で評価をさせる		
実習後、学校で実際の事例について時間をかけて評価	実習後に学校で評価させる		
施設実習後の事後指導	実習後の事後指導		
実習指導者を招いて介護報告会の発表・文集作り	実習指導者を招いて介護報告会の発表		
実習先で実施後、フィードバックしてもらったのを授業で振り返る	実習先での助言を学校で振り返る		
評価基準を明確に	評価基準を明確に	数値などを用いて客観的評価ができるような指導	客観的で根拠を持った評価

Q11(2)根拠に基づく評価の教育で工夫していること	コーディング	中項目	大項目
数値など客観的な視点をもってできる限りわかりやすい(評価しやすい)ものとなるよう指導している	数値など評価しやすい客観的視点の指導	数値などを用いて客観的評価ができるような指導	客観的で根拠を持った評価
計画を立案する際に、評価を見据えて具体的な数値目標などを入れるようにしている	計画立案段階で数値目標などを入れるようにしている		
①事前に、評価方法や視点を決めさせている ②QOL の向上など、あいまいなものの評価についても、フェイススケールなど、客観的に評価できるスケールを使用する	事前に評価方法や視点を決め、スケールなどを活用して客観的な評価をさせている		
客観的な事実が記載された実施記録から、介護者の主観ではなく数値の変化や状態、言動の変化から客観的に評価する	数値の変化や状態、言動の変化から客観的に評価させる		
「評価」を実施するためには、「計画」を立てる段階でしっかりと「目標」を立てておくことが重要であることを認識させるよう工夫している	計画段階からしっかりと目標を立てることを認識させる		
計画の段階で評価できるように具体的に立案すること(定量・定性)	評価できるような具体的な計画立案を指導		
評価基準が正しく評価できているものかどうか、みんなで考えることをしています	評価基準の評価の妥当性を学生たちに考えさせる		
客観的判断を行う思考を養う	客観的判断を行う思考を養成		
数値化できる評価指標の作成、活用	数値化できる評価指標の作成、活用		
計画作成時に計画を作るだけではなく、評価基準も併せて作成することを伝える 使用教科書のツールを使用しているが、評価基準を作成するスペースを確保し記入するように伝える	計画立案時に評価基準を併せて作成させる		
客観的評価をする必要があるため、計画段階より評価基準を設けて客観的に評価できるようにしています	計画立案時から評価基準を設けて客観的に評価できるようにしている		
実施前から、実施後の評価項目を具体化する 常に評価項目から振り返り、次のケアへの繋がりとしていく	実施前から評価項目を具体化させる		
評価の用紙に、利用者のケアのアプローチ前・アプローチ中、アプローチ後とどのような場面で声かけをし、どのような様子だったのかを含め記録をするように指導している そして、それはなぜできたのか？できなかったのか？の考察を書き、次へのアプローチへつなげるようにしている(毎回同じ職員が実施するわけではないので、細かく記載するようにしている)	実施評価の考察を書かせる	評価が主観的にならないよう様々な角度から考える	
実施した計画を、本人や家族の立場になって考えてみることで、気づきを持たせる	実施した計画を本人・家族の立場になって考えさせる		
変化等を、表などにまとめて、比較させる 日々の評価と、最終評価を書かせている 結果の根拠について書かせている	評価のまとめ方や根拠を書かせる		
達成できたことよりも、達成できなかったことをしっかり考える	達成できなかったことを考えさせる		
できたことだけでなく考察、分析し追記させ根拠づけをさせている 実施項目について目標達成の程度やケアの継続、追加、変更、中止(終了)を判断する根拠を記入させる	実施項目の目標達成の程度やケアの評価を判断する根拠を記入させる		
計画通りに実施できなかったら、何が悪かったのか、例えば、利用者の状況なのか、学生の声掛けなのか、実施自体のテクニックなのか、そもそもアセスメントが不十分だったのか(利用者理解ができていなかった、情報収集が不十分だったなど)と言うことを考えています	計画通り実施できなかった原因を様々な角度から考えさせる		
評価の視点を教える、例えば･･･利用者の意向に沿うものであったか、実施は計画に沿って行われたか、計画に無理はなかったか、アセスメントの情報に不足はなかったか、情報の解釈・判断に偏りはなかったか	評価の視点を教える		
事実に基づいた結果を見る、プロセスを振り返ることで次への課題を見つける	事実に基づいた結果を振り返らせる		
「できた」「できない」の 2 択ではないことを説明する	2 択でないことを伝える		
自己評価と他者評価の違いは当然出るが、その差の意味を考えること	自己評価と他者評価の差を考えさせる		

Q11（2）根拠に基づく評価の教育で工夫していること	コーディング	中項目	大項目
上手くいって嬉しかったという生徒の感想で終わらないように気をつけている、利用者にどのような効果があったのか客観的に考えるよう指導する	利用者にどのような効果があったかを客観的に考えるよう指導する	**評価が主観的にならないよう様々な角度から考える**	**客観的で根拠を持った評価**
評価ツールを作成して、介護過程の展開でアセスメントが重要であること、再アセスメントの必要性を指導している	作成した評価ツールを使用し再アセスメントにつなげる	評価ツール、書式の活用	
評価を記入する際に、客観的情報・主観的情報・専門的な知見からの成果と課題を記入する欄を設ける	客観的情報、主観的情報、専門的知見からの成果と課題を記入できる書式		
評価ツールの複数体験	評価ツールの複数体験		

（１３）根拠に基づく評価を教育するためのツールや指標

Q11　(3)根拠に基づく「評価」を教育するために用いているツールや指標には、どのようなものがありますか。

【ツール】

Q11(3)根拠に基づく評価を教育するためのツールや指標	コーディング	中項目	大項目
中央法規出版株式会社より出版されている「介護過程」より介護過程の実践的展開のシートを活用している	中央法規出版株式会社　介護過程の実践展開シート	中央法規の教科書	教科書
中央法規「介護福祉士養成講座 9 介護過程」において示されている、「実施評価表」	中央法規　介護過程　実施評価表		
最新介護福祉士養成課程 9「介護過程」(中央法規)	中央法規　介護過程テキスト		
中央法規出版の介護過程のテキストを参考	中央法規　介護過程　テキスト		
中央法規出版の教科書にそっている	中央法規の教科書		
中央法規及び介養協テキスト	中央法規の教科書		
中央法規　介護過程Ⅱ	中央法規　介護過程		
教科書、独自に作成した資料	教科書	教科書	
介護過程の教科書	介護過程の教科書		
教科書	教科書		
教科書を用いる	教科書		
教科書やテキストの内容参考	教科書		
教科書	教科書		
教科書、参考図書など	教科書		
テキスト	テキスト		
学内用書式、ケアマネジメントに於ける事例集	学内様式	学校独自の様式	各種評価様式
介護計画の達成度を図るための「短期目標を評価するためのチェックポイント」シート	短期目標を評価するためのチェックポイントシート		
学生が記入する評価表をオリジナルで作成し、それを各教員が評価し、再アセスメントの指導ができるように教員用の評価ツールを作成している	オリジナルの学生記入用評価表、指導するための教員用評価ツール		
当校独自の評価表	学校独自の評価表		
実施評価表(1)(2)(3)	実施評価表		
本校が使用している「介護計画表」の書式に、実施した日付、実施した結果・反応、評価・修正する項目があり、実施した後の振り返りができるようになっている(自由記述式)	実施した結果・反応・評価・修正項目がある学校の介護計画表		
本校の介護計画の要旨を元に検討します	学校の介護計画		
関係書籍等を参考に、本学独自のものを使用	学校独自のもの		
実施経過表	実施経過表		
評価シートは、独自のシートを作成している	独自の評価シート		
評価表などの記録ツールを使用する	評価表		
各種の評価スケールの表現を参考にする	各種評価スケール		
数値化できる評価指標の作成、活用	数値化できる評価指標		
オリジナルワークシート	オリジナルワークシート		
本学独自の記録様式を活用	学校独自の記録様式		
本校指定の介護計画表を使用し評価を行う	学校指定の計画表		
本校が使用している介護過程の様式(評価記録など)	学校使用の評価記録		
自主作成評価シート、他団体・専門職の評価シートや評価の視点など	自主作成評価シート、他団体・専門職の評価シート		
記録や介護計画と連動した書式	記録や介護計画と連動した書式		
本校独自の評価シートを活用しています	学校独自の評価シート		
「ICF」の概念図を用いて、「実施」後にどのように生活全般が変容したのかについて「再アセスメント」をさせるようにしています	ICF 概念図	既存の評価様式	
プロセスレコード	プロセスレコード		
担当利用者に関わる実習中の「経過記録」・「実施状況の記録」	実習中の経過記録、実施状況の記録	実習時の情報	実習を通じたツール
実習時アセスメントを行った実習対象者の情報を基に、実際に評価を行う	実習時の対象者情報		

Q11(3)根拠に基づく評価を教育するためのツールや指標	コーディング	中項目	大項目
介護実習の機会を活用	実習の機会を活用	**実習の機会**	
介護実習時に現場で学習を深めている	実習時に現場で学習		
現場実習中においては、職員さんからのアドバイス等	実習中の職員の助言	**実習中の指導者の意見**	
介護実習施設指導者の意見	実習指導者の意見		
介護実習事例研究発表会	実習事例研究発表会	**実習事例研究発表会**	**事例発表会**

【指標】

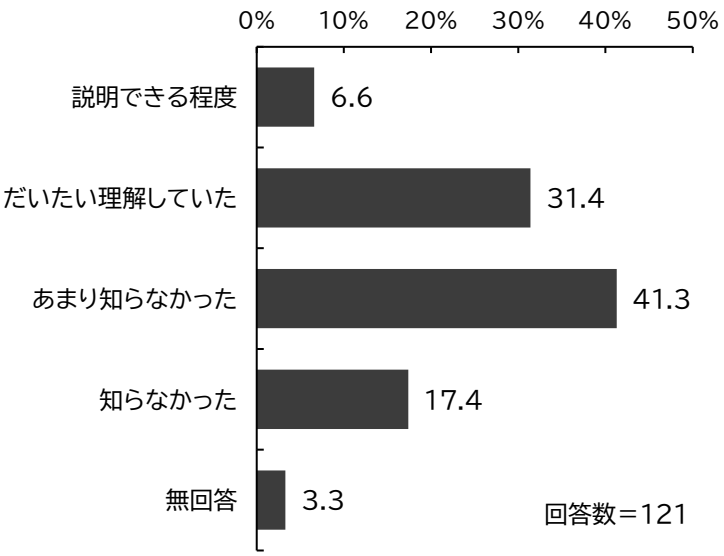
Q11(3)根拠に基づく評価を教育するためのツールや指標	コーディング	項目
バーセルインデックス	バーセルインデックス	バーセルインデックス
バーゼルインデックス	バーセルインデックス	
FIM	FIM	FIM
LIFE データ項目等	LIFE データ項目	LIFE データ項目
DBD13	DBD13	DBD14
長谷川式認知症スケール	長谷川式認知症スケール	長谷川式認知症スケール
心理尺度	心理尺度	心理尺度
フェイススケール	フェイススケール	フェイススケール
行動分析学的評価を用いる	行動分析学的評価	行動分析学的評価
ペインスケール	ペインスケール	ペインスケール
QOL 評価	QOL 評価	QOL 評価
定量評価(数的)	定量評価(数的)	定量評価(数的)
定性評価(利用者や家族の声)	定性評価(利用者や家族の声)	定性評価(利用者や家族の声)

３－３　ＬＩＦＥという仕組みが介護過程教育に与える影響

（１）ＬＩＦＥの理解度

Q12　LIFE(科学的介護情報システム)についてどのくらいご理解されていましたか。

ＬＩＦＥの理解度



学校種別×ＬＩＦＥの理解度

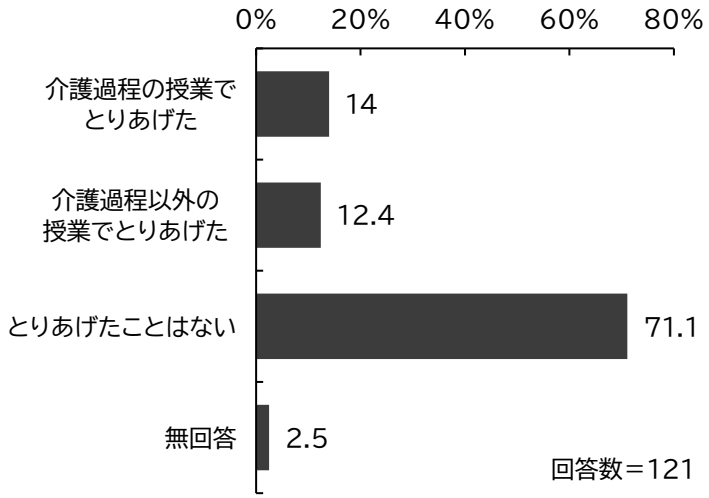
	合計	説明できる程度	だいたい理解していた	あまり知らなかった	知らなかった	無回答
全体	121 100.0	8 6.6	38 31.4	50 41.3	21 17.4	4 3.3
4 年制大学	10 100.0	1 10.0	5 50.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0
短期大学	8 100.0	1 12.5	3 37.5	3 37.5	1 12.5	0 0.0
専門学校	44 100.0	5 11.4	15 34.1	20 45.5	2 4.5	2 4.5
福祉系高等学校	59 100.0	1 1.7	15 25.4	23 39.0	18 30.5	2 3.4

※上段は実数、下段はパーセント

（２）教育においてＬＩＦＥを取りあげたこと

Q13　これまでの貴校の教育において、LIFEを取りあげたことがありますか。

教育においてＬＩＦＥを取りあげたこと



学校種別×教育においてＬＩＦＥを取りあげたこと

	合計	介護過程の授業でとりあげた	介護過程以外の授業でとりあげた	とりあげたことはない	無回答
全体	121 100.0	17 14.0	15 12.4	86 71.1	3 2.5
4 年制大学	10 100.0	4 40.0	1 10.0	5 50.0	0 0.0
短期大学	8 100.0	1 12.5	2 25.0	5 62.5	0 0.0
専門学校	44 100.0	7 15.9	10 22.7	25 56.8	2 4.5
福祉系高等学校	59 100.0	5 8.5	2 3.4	51 86.4	1 1.7

※上段は実数、下段はパーセント

（３）教育においてどのようにＬＩＦＥを取りあげたか

Q14　Q13 で「1. 介護過程の授業でとりあげた」「2. 介護過程以外の授業でとりあげた」と答えた方は、どのように取りあげたかお教えください。

Q14 教育においてどのようにLIFEを取りあげたか	コーディング	中項目	大項目
LIFE の活用が介護実践の場で広まっており、データの蓄積から根拠ある介護が展開できるようなシステムが構築されている 今後どのように活用されていくのか、注目していく必要がある、程度です	LIFE の背景等情報伝達	LIFE の背景や概要の紹介	LIFE の概要などを紹介
LIFE の概要として、なぜ LIFE が始まったのか、今後どのように活用されていくか、現場の LIFE に関する取り組みの現状と課題など	LIFE の背景について		
介護評価を新しい視点で行うシステムとして紹介、介護評価だけでなく介護現場の業務の再構築につながる可能性（期待として）	LIFE の可能性について紹介		
個別支援の結果について、利用者の反応に関する評価を数値化して評価する指標を作成、活用しているので、実践現場でも「数値化」「フィードバック」「ケア方法の改善」の仕組みが進んでいることを例示	現場でも評価の数値化が進んでいることとして紹介		
LIFE の資料を用いて、説明した	資料を用いて LIFE の説明		
情報収集のツールの 1 例として	情報収集のツール例として紹介		
加算などの説明を通して授業を行った	加算などの説明を通じた授業		
使用教科書に掲載されているため、概要を伝えた	教科書に掲載されている概要を伝える		
単元の中の項目の一つとして（厚労省の資料を引用）	厚生労働省の資料を引用して		
まだ「しっかりと教育に活かせる」レベルではなく、紹介程度である	紹介程度		
紹介、目的等	目的などを紹介		
別紙解説資料に掲載されている内容のようなことを説明する程度にとどまっています	本調査別表資料程度の内容を説明		
電子記録体験のなかで	電子記録体験の中で取り上げた	ICT 関連授業で取りあげる	
ICT 概論で LIFE について取り上げていた	ICT 概論で取り上げた		
介護過程実践事例集を紹介、LIFE 導入事例（施設）を紹介	LIFE 導入事例施設の紹介	LIFE 導入事例・施設紹介	
実際に LIFE を実践している施設の職員からのスペシャリスト授業	LIFE 実践施設職員の授業	LIFE 実践現場職による講義として	LIFE 実践現場職による講義として
地域にある事業所で、LIFE を初期段階から活用している方に講師として実践例を話して頂いた	LIFE 実践事業所を招いての授業		
施設の職員からの講義	施設職員による講義		
LIFE の目的と LIFE のアセスメントをふまえた介護過程を展開する意義を伝えている 介護現場で LIFE を活用していくためには、まずは根拠を踏まえた介護を展開する介護過程の実践が不可欠であることを伝えている	介護過程の重要性と LIFE の関連について	介護過程実践のための一手段として紹介	介護過程実践のための一手段として紹介
介護過程の 1 回目の授業の中で、介護の専門性とは何か、介護過程とは何か、について対話形式で授業を行う その中で根拠にも基づいた介護実践の一例として、LIFE を紹介している	介護過程との関連における LIFE の紹介		
科学的根拠に基づく介護を実践する必要性をふまえて、介護過程のひとつのシステムとして LIFE の目的、活用法を説明した	介護過程実践の活用事例として LIFE を紹介		
LIFE の概念とシステムを説明すると同時に、LIFE の限界、つまり、LIFE の分析する情報を入力するのはケアワーカーの業務であり、ワーカー自体がケアの PDCA サイクルの重要性を理解して自律的なケアができることが求められることを取り上げました また、LIFE が運用されていれば、利用者のニーズが直接的に解決するわけではないことも取り上げました	LIFE の概要と限界、活用する側に求められることについて		

（4）介護過程の教育におけるＬＩＦＥ活用

Q15　介護過程の教育において、どのようにLIFEを活用することが想定できますか。

Q15 介護過程の教育において想定されるLIFE活用	コーディング	中項目	大項目
アセスメントの視点、実践に向けての方向付けが不足していないかどうか、客観的に把握することができる	客観的なアセスメントの視点	介護過程の各段階における根拠付として活用	根拠ある介護過程実践のための活用
アセスメント（特に情報取集） 情報を分析する段階においては、LIFE の数値情報を踏まえた分析ができる 目標を具体的な数値として設定することが可能となる 実施前の状態が数値化されてわかるため、実施途中にも変化がとらえやすい、計画の遂行状況によっては適宜見直しがしやすくなる 数値的にみえるので評価方法が設定しやすく、達成度が測りやすくなる 達成度が客観的に見えると本人をはじめ、職員のモチベーションにつながる	数値による情報で介護過程の各プロセスに取り組みやすくなる		
アセスメントに入れ込むことができれば、アセスメントの根拠も、なぜのそのような計画の内容にしたかも更に信憑性が増すし、家族や本人への説明ができると考えられる	LIFE データの実際を知ることでアセスメントや計画の根拠が増す		
主観や経験に拠らない、客観的な根拠とは何かを理解させ、アセスメントや評価の際に根拠に基づく介護とは何かを学ぶ際に活用できると考える	アセスメントや評価における客観的な根拠を学ばせられる		
養成校用にログインでき、実際に入力などできるのであるならば、PDCA サイクルを活用し根拠に基づく支援は何なのか？という教育に繋げられる可能性はある	養成校用にログインできれば入力や根拠に基づく支援として教育に繋げられる		
ケアの標準化を説明する際に使います	ケアの標準化の説明に使う		
科学的根拠による介護の実践へつなげることができる	科学的根拠による介護の実践へつなげられる		
日々の実践に関する PDCA サイクルの根拠の一つ	PDCA サイクルの根拠		
科学的根拠	科学的根拠		
ケア現場において「根拠ある介護過程を展開し定着するための実践方法」として紹介できる	根拠ある介護過程の実践方法として紹介		
LIFE への理解が深まることで、根拠に基づいた実践が共通理解のもと実施できるようになる	共通理解のもと根拠に基づいた実践が実施できる		
介護過程は適切な介護の提供に必要なデータを集め、それに基づいて科学的な介護を展開していくことが求められる 教育するにあたり、信頼のおけるデータを集めるのに LIFE を活用できる	信頼あるデータ収集に活用できる	情報収集の手段として活用	
科学的な介護実践を目指すには、客観的根拠のあるデータ、分析、説明などが求められる 介護過程の教育において、まずは情報収集の視点などに LIFE を活用できるのではないでしょうか	情報収集の視点に活用できる		
情報収集のツールの 1 例として	情報収集ツールの 1 例として		
可視化に効果的である	可視化に効果的		
利用者の状況等の把握ができやすくなり、利用者らしい生活の実現のために何ができるのか考えやすくなるのではないかと思う 養成校用のシステム等になれば授業でも活用できると思う（事例とかを活用して）	利用者の状況等の把握がしやすくなる		
実習で作成した個別援助計画についての有用性を評価し、計画立案への改善指導に使用できるのではないか	実習で作成した計画の有用性を評価できる	実習中の取り組みの評価に活用	
生徒が介護実習で取り組んだ「個別介護計画の作成・実施・評価等」の妥当性の検証	生徒が実習で取り組んだ計画等の妥当性が検証できる		
介護実習の中で、本校 2 年生が行っている「介護探求」において、情報収集に活用できる可能性はある また、3 年生の介護過程の展開で、評価する際に活用できる	実習の情報収集や評価に活用できる		

Q15 介護過程の教育において想定されるLIFE活用	コーディング	中項目	大項目
多角的な視点でのアセスメントや、他職種連携の促進につながる	多角的なアセスメント、他職種連携の促進	他職種連携の理解につながる	根拠ある介護過程実践のための活用
介護の知識だけでなく、リハビリテーションや医療知識等、蓄積されたデータから分析できるため、介護の知識が深まり、データに基づいた介護過程が反映できるのではないか	他職種領域の知識やデータからも分析でき介護過程に反映できる		
事例集を活用した実際の展開状況を知る、視点の工夫について理解する	実際の展開事例として活用できる	現場の実践事例や標準事例として活用	標準的な実践の取り組みの理解促進
LIFE で得られた情報を元に、介護福祉施設を利用している標準的な利用者像を作成、各養成施設に提示し、その方の介護過程（アセスメントから介護計画まで）を展開する また LIFE のデータを元に標準的な利用者像に実際にこういう介護を行うとこのような成果や課題が出ると予想されるなどの一つの模範解答を提示することで、専門的な知見に生徒がふれることができる	標準的な利用者事例に取り組ませることで専門的な知見に触れることができる		
介護過程の展開も PDCA サイクルに似ている部分があるため、LIFE を活用することで、再アセスメントの具体的なイメージを持たせることや、記録の重要性などに気づく授業に活用できるのではないかと思う	再アセスメントのイメージや記録の重要性につなげる		
事例集等を活用し、先行研究、先行事例として、計画立案時に参考にする	先行事例として参考にできる		
第 3 段階の介護実習で介護過程を実践します 学生自身で展開したものと、LIFE にその情報を入力したらどのような結果になるのか比較ができる 学生自身に足りなかった視点が見えてくることがある また、その逆もあると思います	LIFE を取り組みの一つとして学生の介護過程と比較できる		
現場での実践例を紹介し、自分であればどの形が最も理解できたか確認してみるという間接的な経験	現場での実践例として紹介し理解を促進できる		
実践結果や事例などが増えると授業で取り上げやすくなると考える	実践事例として取り上げやすくなる		
事例を用いた演習の中で、チームで共有すべき各段階の解釈の方法として活用できる	演習中の各段階の解釈方法として活用できる		
事例演習やチームアプローチの授業において、事例としてデータを活用する	演習等で事例としてデータを活用		
学生に介護を必要とする利用者の症状別に「必要な介護の方向性」をイメージを抱かせるために利用することが可能であると考えます しかし多くのデーターを収集し、そのデータを基に作られた計画等が対象利用者に必ず合致するとは言い切れないので、確認が必要	利用者の症状別に必要な介護の方向性イメージを抱かせる		
今後は、現場でどのように取り入れて、どのような効果があったのか、現場の取り組みの実際の声も反映したい	現場の実際の活用例、効果を反映する		
事例として	事例として		
全く別の事例を活用して、一連のシステムの有効性を学ぶことや、必要な情報を判断し記録する演習等活用できるかもしれない	演習等への活用		
データベースを使用してケーススタディや模擬状況を作成し、実践的な経験を積むなど	ケーススタディや模擬実践		
生徒は知識として介護過程を理解する中で、介護実習に参加する 実習では利用者のケアに視点が行きがち 施設での介護過程の展開は見えにくいものとなっている 施設の支援を仕組みとして理解するために、紹介できると考える	見えにくい実習先の介護過程の展開を理解する一助になる	現場の実践を知る一助となる	
実際の施設において、利用者への介護過程実践について知ることができる	事業所の介護過程実践の実際を知ることができる		
基礎的なことを学ぶことに時間をかけていることから、応用しての現場の状況を知るということを想定	現場の状況を知ることを想定		
毎年標準的な利用者像を全国の養成施設に課題として提示し、各校が作成した介護過程を共有したり、コンテスト的な要素を持たせて、最優秀賞を選出したりする この取り組みにより、養成施設の教育効果の充実や、介護業界の専門性の向上に寄与することが期待できる	標準的な利用者像に対する介護過程への取り組みをコンテスト化して養成校の教育効果の充実などに活用する	介護技術コンテスト事例としての活用	

Q15 介護過程の教育において想定されるLIFE活用	コーディング	中項目	大項目
介護事業所での活用が増えれば、現在各施設独自の介護過程の考え方に統一性が出ると考えるため、学校の指導も一貫性がうまれると考えられる	各事業所ごとの介護過程の考え方の統一性が進み、学校教育との一貫性が生まれる	**その他**	**その他**
LIFE 自体の仕組みだけでなく、データ作成や加算要件の確認など介護保険費の請求なども理解することにつながる	加算など介護保険請求等の理解につながる		
難しい	難しい	**想定できない**	**想定は難しい**
まったくわからない、イメージがつかない しかし、活用することが必要だと考えている、介養協などで研修会をしてほしい	まったくわからない		
LIFE を実際に使用したこともないのでわからないが、実習の場面でも取り上げている施設がないのか？一切そのようなシステムを学生からも聞いたことがない	LIFE を使用したことがないためわからない		
他の専門職との連携によるケアの見直しや理解ができる 運動プランを介護職が実施できる機会が増える 口腔衛生の取組等の LIFE の活用	他職種連携におけるケアの見直しや理解ができる		
まだ想定できません	まだ想定できない		
わからない	わからない		
現段階ではデータを集めたい国と加算を取りたい事業者の話のみで利用者や専門職の視点が欠けているため、想定が難しい フィードバックされた情報をどのように活用していくのか、事業所間でも違いが出てくるであろうし、もう少し時間が必要だと思う	想定が難しい		
まだ考えられていない	まだ考えられない		

（5）ＬＩＦＥを介護過程の授業で取り入れた場合の効果

Q16　LIFEを介護過程の授業で取り入れるとしたら、どのような効果があると思いますか。

Q16LIFEを介護過程の授業で取り入れた場合の効果	コーディング	中項目	大項目
原因を結果等の因果関係を示す根拠にもなる	因果関係を示す根拠になる	科学的根拠に基づく介護実践の重要性に気付ける	根拠ある介護過程実践に寄与
数値（データ）から介護の根拠を考えることが出来るようになる	介護の根拠を考えることができるようになる		
これまで教育の場において蓄積された指導方法を踏まえつつ、より科学的な視点に基づいた介護過程の理解につながるのではないか	より科学的な視点に基づく介護過程の理解につながる		
科学的根拠の重要性と必要性をわかりやすく学ぶことができる 客観的データなど科学的根拠に基づく介護の理解が深めることができる	科学的根拠に基づく介護の重要性と必要性をわかりやすく学べる		
根拠に基づく支援の理解	根拠に基づく支援の理解		
数値によって客観的なアセスメントや評価が行われることで、経験値が低い学生でも根拠に基づいた介護過程の実践が可能になる	経験値が低い学生でも根拠に基づいた介護過程実践が可能になる		
根拠となります	根拠になる		
可視化に効果的であり、思考を明確にできる	可視化に効果的		
データや根拠の重要性を理解できる	データや根拠の重要性を理解できる		
エビデンスの共有、確率	エビデンスの共有、確率		
根拠に基づく介護実践において LIFE の視点を活かすことができる	根拠に基づく介護実践に活かすことができる		
介護は、科学的な根拠に基づいているということの証明として生徒に提示することで、根拠の大切さを伝えることができるのではないかと考える	介護が科学的根拠に基づいていることを生徒に示し、根拠の大切さを伝えることができる		
根拠ある介護が意識化できる 可視化でき、共有しやすいため作業効率が良い	可視化でき共有しやすくなる		
情報の解釈、関連づけがもっと広い視野を持ってできるようになるのではと考えます	情報の解釈、関連付けが広い視野を持ってできる	より広い視野でアセスメントができる	
介護実習において、利用者のケアを観察する際の視野が広がると推察する（施設のケアマネジメントを考えることができるのではないか）	実習で利用者のケアの観察の視野が広がる		
情報が可視化できることによって、気づかなかった視点からアセスメントすることができる	情報の可視化により気づきにくい視点からアセスメントできる		
いろいろな視点から、利用者をみることができる	色々な視点から利用者をみることができる		
新しい視点からの学びが得られると思う	新しい視点からの学びが得られる		
より細かなデータを学生が知ることができると思う	より細かなデータを学生が知ることができる		
データに基づいた介護計画の立案	データに基づいた介護計画の立案	根拠ある計画立案につながる	
PDCA サイクルを回すことにより、どのように利用者の状態が変化していったのか、また介護計画内容の変更点などを知ることで、利用者に合わせた介護計画の立案の手順や目標設定を理解できる効果があるのではないかと思う 利用者の変化を実感することができるのではないか	利用者に合わせた計画立案の手順や目標設定の理解、利用者の変化の実感に効果がある		
これまでの立案に比べより利用者のニーズに沿った立案ができ、適切な介助へつながる	より利用者のニーズに沿った計画立案、実施へつながる		
将来の介護負担軽減や根拠のある適切な介護計画などに効果があると思う	根拠ある介護計画に効果がある		
介護過程から介護計画への立案を行いやすくする	介護計画立案が行いやすくなる		

Q16LIFEを介護過程の授業で取り入れた場合の効果	コーディング	中項目	大項目
学生の効果としては、実践を何で評価するのかがわかりやすくなるため目指すものがみえやすい 結果が見えやすくなることで介護実践のやりがいにつながるのではないか	評価がわかりやすく、目指すものが見えやすくなる	根拠に基づいた評価につながる	根拠ある介護過程実践に寄与
介護福祉士が行うケアの評価、成果が可視化される	ケアの評価、成果が可視化される		
LIFE を実際に使用したこともないのでわからないが、実際の授業の中では利用者への効果というのは図れない LIFE を基にして根拠のあるアセスメントや計画を立てられたとしても、それが利用者へ提供して初めて効果があった、ケアの内容が的確だったと判断するものであると考えられる 学生が授業の中では根拠を基にアセスメントができたかどうかという部分でしか評価できないのではないか	学生が根拠をもとにアセスメントができたかを評価できる		
データによる分析があることでより根拠に基づいた評価が可能になる	データによる分析で根拠に基づいた評価ができる		
客観的データを用いて評価する練習になる、またその必要性を理解することにつながる可能性がある	客観的データを用いて評価する必要性の理解、練習になる		
利用者の経過をいくつかの側面からモニタリングし変化をみることができる(一日、1 週間、1 か月の活動状況等)	利用者の経過的変化をいくつかの側面からモニタリングできる		
LIFE の活用によって、自己の提供するケアが利用者の ADL、QOL の向上につながったと自覚することができると考えます	利用者の ADL、QOL の向上につながったと自覚		
心身の障害等へのケアの有効性に関しては客観的評価につながる可能性はある	客観的評価につながる		
評価の認識につながり、評価力が向上する	評価の認識につながり、評価力が向上する		
介護過程の展開プロセスの理解や、評価基準の明確化などにつながる	評価基準の明確化		
情報や根拠の可視化につながり、生徒同士で情報を共有することが可能になり、思考過程を理解する効果が上がると思います	生徒同士で情報を共有でき、思考過程を理解する効果が上がる	介護過程の理解につながる	
介護過程の PDCA の理解	介護過程の PDCA の理解		
介護過程の展開プロセスの理解	介護過程のプロセス理解		
介護の視点の深まり	介護の視点が深まる	学生の視点や知識に寄与する	
生徒の知識量が増える	生徒の知識量が増える		
生徒の意識づけには繋がると思います	生徒の意識づけになる		
学生の知識の幅や実践力に繋がるのではないでしょうか？	学生の知識の幅や実践力		
利用者の個々の情報や状況を詳細に把握することができ、課題解決に向けた介助方法やケア内容の実践に繋がるのではないかと考えます	利用者個々の状況を詳細に把握して実践に繋げられる	実際の現場の実践事例をイメージしやすくなる	養成校と現場のつながりが強くなる
介護現場におけるケアマネジメントシステム及びプロセスの理解 介護保険制度とケアマネジメントシステムとの関連についての理解	現場のケアマネジメントシステム・プロセス介護保険制度との関連の理解		
現場ですでに実践されている、様々なエビデンスに基づいた先行事例を参考にすることができる	エビデンスに基づいた現場の選考事例を参考にできる		
施設実習に行く前の、介護過程における事前学習となる 施設での介護過程の展開・実践の理解につながる	実習先の介護過程の理解		
Q15 に記載した標準的な利用者像の介護過程の展開や模範解答にふれる活動は、介護実習で行う介護過程を展開する際に、専門的な知見に裏打ちされた一つの指針として大いに役立つと思います	標準的な利用者像に対する介護過程の模範解答として示す		
実際の事例としての活用ができるのであれば、教科書等の事例よりさらに実践的な介護過程の展開につながるのではないかと思う	実際の事例として実践的な介護過程の展開につながる		
介護実習や現場における介護職の取組みとして、イメージを持つことができる程度になってしまうと思います 実際に指標等を検討する力はまでは望めないです	実習先や現場の介護職の取り組みとしてイメージを持てる		
より具体的な学びができる	より具体的な学びができる		
実際の事例として活用できるため、利用者さんがどのように変化したかや、職員がどのような支援を行ったかなどを理解し、学びを深めることができる	実際の事例として利用者変化や職員の支援内容を学べる		
展開のイメージづくり	展開のイメージづくり		
症例問題を学生と共有できる	症例問題を学生と共有できる		

Q16LIFEを介護過程の授業で取り入れた場合の効果	コーディング	中項目	大項目
生徒の現場経験の少なさを蓄積データで補う	生徒の現場経験の少なさを蓄積データで補う	実際の現場の実践事例をイメージしやすくなる	養成校と現場のつながりが強くなる
文字による情報に慣れ、データから事例（利用者像）を想像し、理解し、課題を検討することができるようになる	文字情報に慣れて利用者像を想像しやすくなる		
実際の介護シナリオやケーススタディをシミュレートできる これにより、理論だけでなく実践的な介護スキルや計画の立案、実施に関する経験を積むことができる	実践的な介護スキルや計画の立案、実施に課する経験を積める		
社会（介護現場）との接続、介護過程のよりよい統一化が考えられる	現場と介護過程の統一化が図れる	学校と実習先の指導に一貫性が生まれる	
学校でも施設でも同様の思考過程で介護されているという理解ができる効果	学校と施設で共通の思考過程で介護がされているという理解		
Q15 でも述べたとおり、施設と学校現場の指導体制に一貫性がうまれると思う 学校での授業と施設での学びがリンクすること、利用者へのケアの質の向上のために LIFE など情報システムの必要性も理解できると考える	施設と学校の指導体制に一貫性が生まれる		
LIFE を導入している施設へ入職した場合、スムーズに実践できる	LIFE 導入施設就職時にスムーズに実践できる	現場に出た際に役立つ	
LIFE が現場の介護の質を上げるだけでなく、その恩恵を養成施設でも得られることで、今の生徒たちが LIFE を入力する・活用する際に意味や意義を理解したうえで前向きに取り組むことが期待できます（LIFE の恩恵を養成時代に受けることのメリット）	学生のうちに LIFE の意義を理解することで前向きに取り組むことができる		
現場において、即戦力となる	現場で即戦力になる		
現場で活用している事業所もあると思うので、心構えができる	現場に出る心構えができる		
システムの紹介をすることで、今後介護業界に進んだ際に活用できることを知ってもらう機会になる	介護業界に進んだ際に活用できることを知る機会		
介護現場へ就職した際の知識として	介護現場へ就職した際の知識		
現場の施設では LIFE を取り入れている所が多いので、卒業後に活かせると思うので、介護過程が授業で活用できれば、就職先でも活かせると思う	卒業後に就職先で活かせる		
就職後に活用できるスキル修得につながる	就職後に活用できるスキル習得		
現場に出たときに即戦力…とまではいかないかもしれないが、根拠に基づいた介護実践を実施する牽引者になってくれることが期待できる	現場に出た時に根拠に基づいた介護実践の牽引車になる期待		
チームとして共通認識すべきツールとして活用される	チームの共通認識につながる	多職種チーム連携につながる	介護現場への寄与
フィードバック情報を活用することで、利用者の支援計画をチーム（役割分担：介護職、看護、リハビリ等）で検討することができるのではないか	支援計画を多職種で検討できる		
データ分析により、リハビリテーション、栄養状態の改善が数値化して分かる等により、チームで協力する効果があると思う	多職種チームで協力する効果		
現場の効果としては、「介護過程の展開を踏まえた実践」といった Plan-Do-See という個別介護計画の必要性が高まると考える	現場における計画の必要性が高まる	現場の介護の質が高まる	
ライフの活用が、経験の浅い介護職員も根拠に基づいた介護の提供が可能になり、ケアの向上につながる	経験の浅い介護職員が根拠に基づいた介護が提供可能になる		
介護の科学的実践が積み重なり介護の専門性の評価につながるのではないか	介護の専門性の評価につながる	介護の専門性につながる	その他
自分たちが行う介護の価値や専門性について再確認できる	介護の価値や専門性の再確認ができる		
質の高い介護につながる	質の高い介護につながる	その他	
産学連携による体験型授業が作れると思うので、理解度・関心度が高まると思います	産学連携による体験型授業が作れる		
介護過程の枠を超えて、介護保険全体の理解と自立支援の重要性に結びつく	介護保険全体と自立支援の重要性が結びつく		

（６）介護過程の教育でＬＩＦＥを取り入れていく上での課題

Q17　介護過程の教育において、LIFEを取り入れていく上での課題がありましたらお教えください。

①授業展開の課題

Q17 授業展開の課題　①授業展開の課題	コーディング	中項目	大項目
もう少し LIFE についての知識が必要である	LIFE の知識が必要	LIFE の理解が必要	LIFE の特徴を理解したカリキュラム構成
R4 などさまざまなアセスメント方式で施設がケアマネジメントを展開してるため、LIFE がどこでどのように活用されているのかイメージがつかみにくい	現場ごとの LIFE 活用イメージがつかめていない		
LIFE の概要を理解できていないため、適切な指導できない	LIFE の概要を理解できていない		
教員側の知識不足という点があげられるため、LIFE に関する調査研究や事例等から知識を深める必要がある	教員側の知識不足、知識を深める必要性がある		
紹介はできると思うが、生徒にうまく伝えることができるかわからない 教員側も知らない人の方が多いと思うため	教員側も知らない人が多い		
教員の理解度	教員の理解度		
勉強不足もあり、具体的なフィードバック内容と根拠がわかりにくい	具体的なフィードバック内容と根拠がわかりにくい		
ある程度介護過程への理解が進んだ状態でなければ、有効的な活用が望めないのではないか 活用するにしても、2 年次終盤か 3 年次になると予想される	介護過程への理解がある程度進んだ状態でなければ活用は望めないので、カリキュラム終盤になる	既存カリキュラムと調整しながらの導入検討	
介護保険制度の理解を他の科目と連携してすすめる	介護保険制度の理解を他科目と連携して進める		
カリキュラム（授業時間配分）	カリキュラム（授業時間配分）		
少ない介護過程の時間で情報システムだけが授業ではない よって、他科目とのリンクが必要になる	介護過程の時間の中では時間が少ない、他科目とのリンクが必要		
時間数の役割分担や、担当する教員の人数など差異がある現状である	役割分担や教員の人数		
シラバスの見直し	シラバスの見直し		
授業のどの段階でとりいれるのか、具体的な教授法がわからない	具体的な教授方法がわからない		
これまで以上に、科目横断的な内容になっていくと考えられます 介護過程での取り扱いのみならず、「福祉情報」での AI 活用の概念とデータ入力規則の取り扱い、個人情報保護の観点、介護実習における実践との連動制など、同時に考えなければならないことが多いです また、介護実習においても実際のシステムの見学などを計画する必要もあります	科目横断的な内容になるため規則や実習との連動など検討事項が多い		
介護総合演習等、他科目との授業内容の連携と統合	他科目の授業内容の連携と統合		
どの教科で、どの単元で取り入れていくのか	どの教科、単元で取り入れるか		
導入のタイミング	導入のタイミング		
介護過程教育の中での効果やどのように取り入れるかの具体例	介護過程教育の中での効果やどのように取り入れるかの具体例		
どの段階で取り入れていくか	どの段階で取り入れていくか		
限られた時間の中で教材として、どこを取り上げることができるのかが不明	時間が限られている	時間数が限られている	
授業できる時間数がない 2～3 コマならできなくはないが、中途半端で終わってしまう	授業できる時間数がない		
基礎的な理解時間が必要である	基礎的な理解時間が必要		
演習で時間をほとんど使うため、講義のどの段階で使えるか（15 回中）	演習で時間をほとんど使ってしまう		
学習時間の増加	学習時間の増加		
授業展開の課題→十分な授業時間が確保できない	十分な授業時間が確保できない		

Q17 授業展開の課題 ①授業展開の課題	コーディング	中項目	大項目
標準テキストに、その記載が無いので、改訂版を発行すべき	テキストを改訂すべき	理解を深める事例や教材が必要	学びの環境に関する課題
どのように教材に取り込んでいけばよいか	教材への取り込み方		
現場の方がこのシステムを使用する際、実在する利用者（人物）がいるので、情報内容も正確だと思いますが、生徒（授業として）が使用する場合は実在する人物の情報やアセスメント内容は使えないと思いますし…架空の人物（事例）の情報でもこのシステムは使用可能ですか？それとも、テスト事例のようなものを生徒は使用するのでしょうか？	生徒が LIFE を使用するための架空の人物事例が必要		
介護過程の教育において、LIFE を取り入れることで、どのような力が育めるのか明確でない LIFE の恩恵を受ける・受けていると感じることができる学習コンテンツ（Q15 に記載した標準化利用者像・介護過程コンテスト）を作っていただけると大変ありがたいです	LIFE の恩恵を感じられる学習コンテンツが必要		
事例として使用し、介護過程の展開を行うには、情報が少ない施設で導入している LIFE について、福祉系高校で使用している教科書とどうリンクさせ、 どう展開していけばいいのか悩む	事例として情報が少ない、使用中の教科書とどうリンクさせるべきか		
授業で取り入れていくのであれば、その事例に基づいた映像資料もセットで活用したい 利用者の情報や介護過程の展開例を読むだけでは、介護過程を展開していく力は身につかないため、実践形式でできるような内容が望ましい	事例に基づいた実践形式の映像資料などがある事例を活用したい		
テキストがない	テキストがない		
事例集などが欲しい	事例集が欲しい		
LIFE システムの導入、資金 介護保険制度の理解を他の科目と連携してすすめる	LIFE システム導入、資金	学びの環境整備の課題	
タブレットなどの端末が生徒全員に確保されていない	生徒全員にデバイスが確保されていない		
本学は、PC 必携なのでよいが、学校によっては使用環境が整備されていないこともある	使用環境の整備		
インターネットの環境が良くないため、授業中に活用することが難しい	ネット環境が整っていない		
授業でシステムを活用する環境の確保ができるか	授業でシステムを活用する環境の確保		
利用者理解、アセスメント能力の低下（思考整理）、観察力	利用者理解、アセスメント能力の低下、観察力	学生の学ぶ力	学ぶ能力
生徒の学力も年々低下してきているため、どのように教えていくかが課題である あまり複雑なものは興味・関心がなくなる また、生活力が乏しいため、中々考えができないのが本校としては現状である	生徒の学力低下		
学生ごとの理解レベルの個人差をどのように対応するのか	学生の理解レベルの個人差への対応		
学生の介護過程の展開が LIFE の評価項目に偏ったものに偏る可能性があると考える よって介護過程を展開するために LIFE の理解が必要である 全人的に対象者を捉え理解した介護過程の展開するためには、LIFE を活用することに加え、数値で表せないもの、LIFE で取り扱わないものにも気づかせ、そうしたアセスメントを含めた全人的観点が重要であることを理解させアセスメント力を養う必要があると考える	全人的に利用者を捉える介護過程展開のために、LIFE を含めたアセスメント力を養う必要がある	LIFE 以外の情報も活用すること	
データから情報を選択する際に、あわせて利用者・家族の意思、社会資源の活用等、周囲の環境も取り入れながら展開する必要があると考える	データ情報以外に主訴や環境情報なども取り入れる必要がある		
ICF における背景因子が LIFE にどう反映されているかわかりにくい	ICF における背景因子が LIFE にどう反映されているかわかりにくい		
個人情報の取り扱いとなるため、個人情報に留意する必要がある	個人情報への留意	個人情報の取扱い	その他
個人情報の扱い	個人情報の扱い		

Q17 授業展開の課題　①授業展開の課題	コーディング	中項目	大項目
LIFE を活用する目的、範囲の明確化など	LIFE を活用する目的、範囲の明確化など	その他	その他
実践結果がまとまっていない	実践結果がまとまっていない		
国家試験との関係性はどうするのか	国家試験との関係性をどうするか		

②教員側の課題

Q17 授業展開の課題　②教員側の課題	コーディング	中項目	大項目
教員の理解、ICT の活用方法の理解	教員の理解	LIFE に関する知識、理解不足	LIFE の実際を知り理解すること
教員側の理解	教員の理解		
教員も LIFE を机上のみでなく実践的に学ぶ必要があると考える	実践的に LIFE を学ぶ必要がある		
介護過程を評価するための評価指標について理解した上で教授する必要があると考える	介護過程を評価するための評価指標の理解		
LIFE についての理解が不足している、介護過程について現場との連携	LIFE についての理解不足		
LIFE についての知識と実習先や施設での導入状況を見せてもらっていかないと、学生への説明もできない	LIFE についての知識不足		
教員側が、システムの内容や施設での活用方法などについて熟知しておく必要がある	システム内容や施設での活用方法を熟知する必要がある		
効果的に LIFE を授業に導入するにあたり、教員の研鑽が深められていない為、LIFE を授業にどのように取り入れると効果的なのかなどの具体的な話し合いが行われにくい	LIFE に関する教員の研鑽が深められていないため具体的な話し合いが行われにくい		
LIFE 自体を理解できていない	LIFE 自体を理解できていない		
LIFE について知らない教員もいると思うため、LIFE について事前に学習する必要がある	LIFE についての事前学習が必要		
LIFE についての理解と既存の学習内容にどのようにとり入れるかを考えていく課題がある	LIFE についての理解不足		
理解不足	理解不足		
教員がまずは勉強すること	教員がまずは勉強すること		
LIFE の理解がなされていない	LIFE の理解がなされていない		
まずは教員が LIFE について理解することが重要であり、課題である	LIFE について理解すること		
介護施設ではないので情報が入らない、知識不足	情報が入らず知識不足		
LIFE に対する理解度を高める	LIFE に対する理解度を高める		
LIFE について教員の理解不足	LIFE についての教員の理解不足		
LIFE の理解	LIFE の理解		
実践の場で活用した経験がないのでイメージが付きにくい	イメージできない	LIFE の実用が未経験であること	
LIFE の活用方法をきちんと理解しなければならない	LIFE 活用方法の理解		
授業での活用方法がわからない	活用方法がわからない		
LIFE を実際運用した経験がないため、実際の現場においてどのように LIFE を活用しているのかイメージがつかめていない	LIFE 実用経験がないため実際の活用イメージが掴めない		
取り入れていないので分からない	取り入れていないのでわからない		
LIFE を現場で使ったことがないため、そのあたり	LIFE の実用経験がないこと		
LIFEの活用事例などを十分に理解できていない	LIFE 活用事例を十分理解できていない		
教員が LIFE の運用をしたことがない点が最大の課題だと思います	教員が LIFE を運用したことがない点		
LIFE のようなツールによる介護実践の未経験	LIFE を使用した介護実践が未経験		
ライフに関する理解やシステムを活用できるようになる必要がある 今の現場に即した指導ができるかという不安がある	LIFE やシステム活用の理解		
ライフについての知識が乏しいため、教員にまずは指導をしてほしい	LIFE について教員に指導してほしい	LIFE を知る機会や時間がない	
教員側の課題→取り組むまでの教員自身の勉強が必要であり、その時間の確保が難しい	教員自身の勉強とその時間の確保		
研修	研修		

Q17 授業展開の課題 ②教員側の課題	コーディング	中項目	大項目
生徒に理解させるために LIFE に関する知識を深める必要があるが、研修等の参加の機会が少ない	LIFE に関する知識を深めるための研修機会が少ない	LIFE を知る機会や時間がない	LIFE の実際を知り理解すること
研修会への参加	研修会への参加		
LIFE について学修できる機会が少ない、事例で体験できるような学習用のコンテンツがあればよいと思います	LIFE について学修できる機会が少ない		
研修を受けていない	研修を受けていない		
研修会の参加・他の教員への指導、伝達	研修会の参加、他の教員への指導、伝達		
LIFE についての知識と実習先や施設での導入状況を見せてもらっていかないと、学生への説明もできない	実習先などでの導入状況理解	導入現場を理解する必要	
LIFE の理解、実践現場からのヒアリングなどが必要	実践現場からのヒアリングが必要		
施設のケアマネジメントの全体像（施設ケアマネージャーの役割や動きの実情など）を教員が理解しておく必要があるのではないか	施設のケアマネジメント全体像の理解		
ICT 活用の観点から、活用導入にあたり教員間の温度差が生じるのではないか 教育におけるツールの一選択肢と捉えるのであれば、早期導入は可能かと考えられる	教員間の温度差	教員間での連携、共通理解	学内の調整等における課題
介護過程担当教員の LIFE に対する共通理解	介護過程担当教員の LIFE に対する共通理解		
上記同様先生方の間で強化の連携が必要になる	先生同士での連携強化		
授業展開の中で何の科目と連動させるのか検討が必要だと考える	連動すべき他教科の検討	カリキュラム等の検討	
LIFE について、共通認識と授業、実習にどこまで活用するか検討が必要	授業・実習にどこまで活用するかの検討		
既存の学習内容にどのようにとり入れるかを考えていく課題がある	既存学習内容へどのように取り入れるかの検討		
何を重点に学ぶかの段階別目標なども再検討が必要と考えている	重点を置くことなど段階別目標などの再検討		
介護における根拠に基づいた実践の経験や、教員としても根拠に基づいた教育実践の経験がある教員が少ない 今後研修等で、勘と経験だけでなく、介護や教育における理論と実践の往還の経験やそれをベースに介護・教員の専門性を確立・向上させる主体者となる必要がある	根拠に基づいた教育実践の経験不足	教員の能力や経験値	教員の能力や経験値
利用者理解、アセスメント能力の低下（思考整理）、観察力、カリキュラム（授業時間配分）	利用者理解、アセスメント能力の低下		
実際に利用者に対して介護過程の展開をするといった経験が無いため、実際の介護過程の展開方法や留意点、評価の方法などについて理解を深めていかなければならない	利用者に対する実際の介護過程展開の方法等の理解を深める		
現場での勤務経験がある教員はゼロに近いです 研修等で代替の学びは実施しますが、やはり LIFE を教えるにあたっては、対象となる人と関わる経験が必要ではないかと考えます	現場経験がある教員はゼロに近いため利用者と関わる経験が必要		
仕組みを理解するのが難しい	仕組みを理解するのが難しい		
教員の介護過程の指導力の有無によっては取り入れるのは難しい	教員の介護過程指導力		
LIFE を取り入れた事例を展開できるような教材づくりが必要となる	LIFE を活用した教材づくり	その他	その他
知識・教援方法の確立	知識・教授方法の確立		
事例を扱う際の個人情報保護について、不安がある	個人情報保護についての不安		

③学生の状況による課題

Q17 授業展開の課題 ③学生の状況による課題	コーディング	中項目	大項目
毎年学力的にも下がってきている学生が多い中で、LIFE を理解できるのかどうか心配	学生の学力低下	習熟ペースの差への配慮	学生の多様性に対する課題
目の前の利用者支援にフォーカスしがちな生徒が、施設のケアマネジメントまで視野を広げることができるか不明	目の前の利用者だけでなく施設のケアマネジメントまで視野を広げられるかどうか		
利用者理解、アセスメント能力の低下（思考整理）、観察力	利用者理解、アセスメント能力の低下、観察力		

Q17 授業展開の課題　③学生の状況による課題	コーディング	中項目	大項目
理解力の低下、説明してもイメージしにくいのでは（理解が中途半端になる聞いたことはある程度で終わってしまう）	理解力の低下		学生の多様性に対する課題
LIFE についてどこまで理解させるか、どこまで理解できるか	LIFE をどこまで理解できるか		
学習内容を理解できるかどうか	学習内容を理解できるかどうか		
高校生には、教科書に指定された学びでかなり手一杯なところがあります 特に本校では中学校では登校もできなかった生徒も多く、勉強は文章の読解から順に実施します さらに、学校で設定されている授業では足りずに長期休暇中も補習や実習を行っています	現在のカリキュラムや能力では時間が足りない		
通常使ってるツールの習得で、精一杯であり、追加で覚えることに消極的	使用中のツール習得で精一杯でありツールの追加には消極的		
新しい学習内容に対する負担感が出てくる可能性があります	新しい学習内容に対する負担感が出る可能性		
適応能力が低いため、テキストの内容と異なると途端に対応できないことが多い	テキスト内容と異なると対応できない適応能力の低さ		
10 代の生徒には、イメージしにくく掴みにくい部分がある	イメージしにくい可能性		
システムの煩雑さ、準備ができていない 様々なレベルの学生がおり、理解できるまでに要する時間が予測できない	様々なレベルの学生がおり、理解に要する時間が予測できない		
生徒・学生側の課題→介護への興味・関心が薄い生徒が増えている中で、そこまで時間を割くことへの需要は感じない	介護への興味関心が薄れている		
留学生などでも十分活用できるのだろうか	留学生が活用できるかどうか	多様な背景を持つ学生への配慮（留学生など）	
留学生の日本語理解レベルによる習熟度の格差	留学生の日本語理解力の差		
LIFE の活用のために必要な情報を判断し収集する力、客観的に利用者の状況を表現する文章力が求められる	必要な情報を判断し収集する力、客観的な状況表現の文章力	根拠ある介護過程実践に必要な基本的力	
介護過程に興味をもち学習することが大切であり、介護実習と学内学習との連動にて介護福祉士が行う介護過程の意義を理解することが何よりLIFEの意義を理解することにつながるのではないかと思います	介護過程に興味を持ち学習すること		
介護保険制度の理解がすすんでいない 客観的、科学的根拠の意味が理解できていない	客観的、科学的根拠の意味の理解		
LIFE のデータから関連づけた介護を展開するまでには、他の専門科目の知識も必要であると考える	LIFE データを関連付けて介護を展開するための他の専門科目の知識		
現状、介護過程実践力に差がみられる状況である	介護過程実践力の差		
対象者の持っている力（ストレングス）や、個人因子の把握、尊重を忘れてはいけない	利用者のストレングスや個人因子の把握、尊重を忘れないこと	利用者の思いなどを把握する力	
学生のうちに、思いや希望の部分をしっかり読み取る姿勢を身につけることが重要であると考えているため、安易に記録・データに頼りすぎないような教育、自身で情報を集め確かめる力、そのための観察力、質問力が不足することのないように十分留意する必要がある	安易に記録・データに頼りすぎず、利用者の思いを読み取る姿勢や自分で情報を集め確かめる力が不足しないように留意すること		
高校生が理解するには時間が必要、内容的に難しい	理解するための時間	習得に要する時間的課題	
LIFE を取り入れることにより時間的な課題も考えられる	時間的な課題		
介護過程の展開で精一杯である、個人差はあるが	介護過程の展開で精一杯		
①分析スケールを使用することで、学生自身で考える思考過程が育たない可能性がある	学生自身で考える思考過程が育たない可能性	学生の考える力が育たない危険	
LIFE に頼ること前提の考えない介護になってしまわないか	LIFE に頼ること前提の考えない介護になる可能性		
学生が考え、行動する機会が減ってしまう可能性があると考える	学生が考える機会行動の減少		
自分で考える力がますます欠落していく可能性がある	自分で考える力がますます欠落する		
高校アカウントとしてログインし利用する場合、複数の教員・生徒が同時並行的にログインし利用することが可能か	複数の教員・生徒の同時ログイン利用が可能か	学びの環境の課題	学びを促進のための環境的課題
実習現場でも、LIFE が導入され、それに基づいて介護が展開されている施設と、そうでない施設での介護の展開が違う為、理解が深まりにくい	実習先の LIFE 導入進捗の差による学生の理解に与える影響		
実践できる場がないと学習しにくいと思う	実践できる場がないと学習しにくい		

Q17 授業展開の課題　③学生の状況による課題	コーディング	中項目	大項目
介護過程の展開には、高齢者の特徴や障害の理解など様々な知識の定着が必要となる 総合的な知識が無いと、利用者の状態像を想像しづらかったり、その後の見通しを立てづらい 実習の事前学習として、この介護過程教育を実施するのであれば、映像資料等の多岐にわたる補足が必要	総合的な知識が必要であり、多岐にわたる映像資料などの補足が必要	習熟促進のための教材	学びを促進のための環境的課題
介護過程（座学）ではほぼピンとこないと思われるが、介護実習等の受け持ちケースで活用できればわかりやすくなる可能性はある しかし、多くの情報が必要となると思われるので、学生用のものがあればよいと思う	学生用のものが必要		
LIFE の存在を知らない	LIFE を知らない	その他	その他
個人情報の扱い	個人情報の扱い		
福祉ロボットや情報システムなど、現場で取り入れている内容も授業の中で取り入れていく必要があると感じている	現場で取り入れられている ICT などの内容も授業に取り入れる必要性がある		

④その他の課題

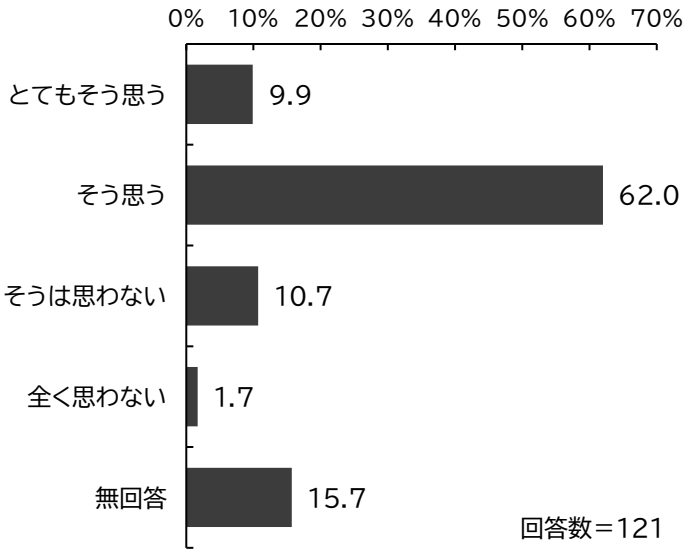
Q17 授業展開の課題　④その他の課題	コーディング	中項目
実習先でも学生に対して、LIFE についての話題は出ない	実習先で LIFE の話題が出ないこと	LIFE が広く認知され浸透すること
今回のアンケートで初めて「LIFE」を知ったので、福祉の教員への情報提供や周知をさせる必要がある	福祉教員への情報提供や周知の必要性	
LIFE の認知度を認知度を上げて欲しい	LIFE の認知度を上げること	
いかに周知され、施設でも学校でも使用されるものになり得るかどうかが課題だと思います 学ぶ側、現場ともに使用する共通のツールとなればメリットは大きいです	如何に周知され施設、学校で使用されるものになり得るか	
現場での活用、浸透がまだ浅い	現場での活用・浸透が浅い	
LIFE はとかくリハビリテーションに近い概念であると理解しています よって、介護福祉士にとっての LIFE をどのように理解するのか、そして教授するのかを整理することが喫緊の課題であると考えます	介護福祉士にとっての LIFE の理解・教授方法を整理すること	介護福祉士の業務と LIFE とのかかわり
介護過程の展開が数値化(データ化)できるものだけに限られてしまうのではないか	介護過程の展開が数値化できるものだけに限られてしまう可能性	
リハなどはまずますと思えるが、肝心な介護福祉の評価指標（多くの介護現場で行われているケアをもとに対象事例のケアの過不足がフィードバックされるとしたら？充分理解できていないなら済みません）は少し改善する必要があるように感じている	リハだけではなく介護福祉の指標がもっと必要	
ライフ頼みのようになり、それがあたかも正解であるようにならないように、捉えていけるか重要である	LIFE が正解であるようにならないよう捉えていけること	
学習コンテンツを制作できるのか 介護福祉施設の職員さんや養成施設の教員に、学習コンテンツ制作協力スタッフを公募してみてはいかがでしょう	学習コンテンツの制作が必要	教授するための教材
実際のものを見せることや触れることができるかなどハード面での課題	実際の LIFE を見たり触ることができるハード面での課題	
周辺地域の実践事例（特に介護現場）が知れると望ましい 仮に介護実習先に導入実績があれば、よりよい学びの接続が期待できる	周辺地域の介護現場の実践事例を知れることが望ましい	具体的な事例
厚生労働省の「LIFE」を紹介する資料等を拝見したが、手続き的なことばかりで、介護事業所・施設以外がどのように活用すればよいかわからなかった 実際に活用した場合の様子や経過・結果などの具体的な事例を示してほしい、このための研修が必要ではないか	実際に活用した具体的な事例の明示や研修が必要	
LIFE に掲載されてる実践事例のもっと詳しい具体的な事例があれば、介護過程の練習に使うことができるのではないか	具体的な事例が必要	
介護過程は、実習も含めた展開になってくると思うので、実習先との連携が不可欠	実習先との連携	実習先との連携
介護現場と教育における介護過程に関するツールは統一されていません 現場では介護過程の理解、実践などの差も報告されています LIFE の活用にあたり、現場と教育との共通理解、連携の在り方をどのように構築していくのかも今後の課題といえます	現場と教育の介護過程に関する共通理解、連携のあり方	

Q17 授業展開の課題 ④その他の課題	コーディング	中項目
LIFE を教えるためのソフトやアプリのツール選びや作成が課題となるのではないか	LIFE を教えるためのソフトやツール選び、作成	実習先との連携
Wifi などのインターネット環境がない	インターネット環境がない	養成校に内在する様々な課題
LIFE は施設では加算が取れるだけで義務ではない？ 養成校で教育するかどうかは養成校の判断になる	教育するかは養成校の判断になる	
学生確保が大きな問題な状況の中で、養成校に求めるものと現場に求めるものが混在している	学生確保が大きな問題であり、現場と養成校のニーズに差がある	
運営指針等の中で、LIFE 等を学習できるシステムを導入するための予算措置の問題があるように思います	LIFE 学習を導入するための予算措置に問題がある	
その他の課題→客観的なデータが必要なことは理解できるが、高校生レベルでは、客観的データを求めるまでの実施に至らない また、客観的データを取るだけの実施期間がとれない	客観的データをとるだけの実施期間が取れない	
授業に取り入れる時期をいつにしたら良いか	授業に取り入れる時期	
学習する内容が介護支援専門員向けになるような気がする	学習内容がケアマネ向けの印象	その他
LIFE のフィードバックの内容の精査	フィードバックの内容の精査	
数字や統計に対する苦手意識	数字や統計に対する苦手意識	
事例を扱う際の個人情報保護について、不安がある	事例の個人情報保護について	

（7）ＬＩＦＥの理解は学生に必要か

Q18　LIFEの理解は学生にとって必要だと思いますか。
そのように回答した理由をお教えください。

ＬＩＦＥの理解は学生に必要か



学校種別×ＬＩＦＥの理解は学生に必要か

	合計	とても そう思う	そう思う	そうは 思わない	全く 思わない	無回答
全体	121 100.0	12 9.9	75 62.0	13 10.7	2 1.7	19 15.7
4 年制大学	10 100.0	1 10.0	7 70.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0
短期大学	8 100.0	1 12.5	5 62.5	2 25.0	0 0.0	0 0.0
専門学校	44 100.0	6 13.6	20 45.5	6 13.6	0 0.0	12 27.3
福祉系高等学校	59 100.0	4 6.8	43 72.9	4 6.8	2 3.4	6 10.2

※上段は実数、下段はパーセント

【必要だと考える理由】

Q18LIFEの理解は学生にとって必要だと考える理由	コーディング	中項目	大項目
実際の介護現場で活用され TE いるため	介護現場で活用されているため	現場で実際に導入が進むものは理解しておく必要があるため	将来的に必要なものだから
高校卒業後、すぐに介護現場に就職する生徒が半数ほどいるため。また、現場でも実際に活用されている施設があるので必要だと思う	現場で実際に活用されている施設があるので必要		
将来、介護現場で使用されるのであれば、活用できるスキルを身につけておく必要がある	将来介護現場で使用されるならば活用できるスキルを身につけておく必要がある		
今後、施設、事業所を使用が増えていく場合、学生は、1つのツールとして知っておいた方が良い	現場で使用が増えていく場合のツールとして知っておいた方が良い		
現場での内容や現状を知る機会となる	現場での現状を知る機会となる		
介護現場で運用されつつあるようなので(各種「加算」の要件が LIFE の活用)、ケアの過程において知っておくべきことと考える また、根拠のある介護の具体的ツールとして理解しておく必要があると考える	現場で運用されつつあるようなので、知っておくべきことと考える		
今後必要になってくることが予想できる	今後必要になってくることが予想できる		
今後は、このようなシステムが増えていくと思うので必要な知識だと思う。	今後はこのようなシステムが増えていくため必要な知識である		
今後の介護分野での AI の活用は必須になると考えるからです 一方で、高校段階での限られた時間での介護福祉士養成では、学習内容の優先順位を考えるとあまり重視されない可能性も想定されます	今後の介護分野での活用は必須になると考えるから		
今後、LIFE を活用する介護現場が増加する可能性があり、概要や活用方法を学習しておく必要があるため	LIFE を活用する介護現場が増加する可能性に対して概要や活用方法を学習しておく必要があるため		
多くの現場で今後活用されていくことが予想され、ある程度スタンダードになっていくのではないかと考える	今後多くの現場で活用されていくことが予想されるため		
現場で導入されている、あるいは導入されることが見込まれるツールであること ビッグデータの活用方法が学べるのではないか 業務を合理的に捉える視点と創造的に捉える視点を学べるのではないか	現場で導入が見込まれるツールであるため		
介護現場の状況を理解するためには知っておく必要がある	介護現場の状況を理解するために知っておく必要がある		
実際に現場で導入されているのであれば、現場に送り出す前に指導しておく必要があるのではないでしょうか	実際に現場で導入されているのであれば、現場に送り出す前に指導しておく必要がある		
これからの現場でこれが基本的に用いられていくのならば、学生自身が躊躇せず対応できるためには必要かもしれない	今後の現場で用いられていくならば学生が対応できるために必要		
実際に介護現場に就職した際の LIFE の早期理解・活用に繋がる	介護現場に就職した際の早期理解・活用につながる	介護現場への就職において必要になってくるため	
取り入れている施設が増えているということなので、就職先などで使用することになるのであれば、理解しておく必要があると思ったから	就職先で使用するならば理解しておく必要があるため		
福祉系高校を卒業した後の進路先は，生徒それぞれではあるが，大半の生徒が福祉施設へと就職するため，知っておく必要があると思う	福祉施設へと就職する上で知っておく必要があると思う		
卒業後、職場で活用されることを想定し、知っておく必要があるため	職場で活用されることを想定し、知っておく必要があるため		
就職先で事業所が活用している場合の心構えができる	就職先で事業所が活用している場合の心構えができる		
今後、介護系に就職すると必要だから	介護系に就職すると必要だから		
将来、介護施設で働く生徒が多いため	将来介護施設で働く生徒が多いため		
働くうえで必要になる、また、思考展開のなかで根拠に基づく実践につながる	働く上で必要になる		

Q18LIFEの理解は学生にとって必要だと考える理由	コーディング	中項目	大項目
卒業後の就職先を考えると LIFE の理解は、学生にとって必要であると考える	卒業後の就職先を考えると理解は必要である	介護現場への就職において必要になってくるため	将来的に必要なものだから
自立支援をうたっている日本の介護について、LIFE の必要を理解しなければ十分に就労できないだけでなく、介護の専門性を磨くことができなくなる	必要性を理解しなければ十分に就労できない		
介護福祉職に就く上で知っていた方がいいから	介護福祉職に就く上で知っていた方がいいから		
当たり前だと思って行っていることではあるが、就職前に知識としてある程度の知識の理解をしておくと、現場に出てすんなりと理解していくことにつながると思う	就職前にある程度知識として理解しておくことで現場でのスムーズな理解につながる		
現場で活用されているものは養成校でもとり入れた方が良い	現場で活用されているものは養成校でも取り入れた方が良い	現場と養成校で同じものを理解しておくべきだから	
現場と乖離が生じないようにするのが、養成校としての役割の１つだと考えるが、現場での指導体制の強化も重要である	現場と養成校の乖離が生じないようにする必要があるため		
学ぶ側、現場ともに使用する共通のツールとなればメリットは大きいと思うからです	学校、現場共に使用する共通ツールならば学ぶメリットは大きいと思う		
今後の介護福祉教育には、様々な ICT 等のツールを活用した、専門性や効率性も必要になってくる	今後の介護福祉教育において ICT 等ツールを活用した専門性や効率性も必要になるため	介護福祉士としての専門性を高めていくために必要だから	専門性を高め、根拠ある介護過程実践につながるため
介護の専門性を高めていくため	介護の専門性を高めていくため		
これからの介護福祉士の実践には、LIFE の効果を取り入れた介護過程の展開に対応できなければ、国家資格としての役割を担えないばかりか社会に取り残されると考えるから	これからの介護福祉士の実践で活用できなければ国家資格としての役割を担えない、社会に取り残されると考えるため		
勘と経験だけに依存しない、科学的根拠に基づいた実践は介護の専門性を高めることに大きな期待を持てるものだと思います。介護や教育業界、その他の産業においても根拠に基づいた実践はまだまだ数少ないこともあり、多くの職種が専門性を確立しているとは言えません。そのため他国に比べ仕事の質や生産性が低くなり、日本経済低迷の一要因という意見もあります。LIFE を通して、介護の専門職としての資質・能力（根拠に基づいて実践できる力や＊新しい専門知識を生み出す力）を身につけることはどのような仕事にも普遍的な力として役立つと考えているからです。 ＊参考：国分峰樹（2023）『替えがきかない人材になるための専門性の身につけ方』フォレスト出版	科学的根拠に基づいた実践は介護の専門性を高めることに期待できるため。		
自分の知識（生徒として学んでいる範囲）でしかアセスメントができないので、LIFE のシステムが使うことができれば、もっと異なるアセスメントの例を知ることができるのではないでしょうか	自分の知識以外の異なるアセスメント例を知ることができる	幅広い視点や気付きの機会につながるため	
今後日本は生産年齢人口の減少と同時に働き方も変化してくる。そうした中での介護を行う環境へ適応する生徒たちに対して、様々なことを知ることは大切と考える	今後の介護を行う環境へ適応する生徒たちは様々なことを知る必要がある		
学生にとっての視点や視野を広げる機会になる	学生の視点や視野を広げる機会になる		
全くの新しい視点だったため	全く新しい視点だったため		
色々なケース（事例）で学ぶことが大切だと考える	色々な事例で学ぶことが大切だと考える		
ケアマネジメントは、合意形成の場であるのと同時に自身では思いつかなかったこと、新たな気づきに機会を得られるものだから	自身では思い付かなかったこと、新しい気づきの機会を得られるため		
幅広い理解ができるから	幅広い理解ができるから		
現場で導入されている、あるいは導入されることが見込まれるツールであること。ビッグデータの活用方法が学べるのではないか。業務を合理的に捉える視点と創造的に捉える視点を学べるのではないか	業務を合理的に捉える視点と創造的に捉える視点を学べる		

Q18LIFEの理解は学生にとって必要だと考える理由	コーディング	中項目	大項目
LIFE 活用の今後に期待している。導入がすすめば、データが増える。そうなれば、日々のケアが利用者の状況にどんな影響が出てくるかがわかり、それが根拠になっていくと思うから	日々のケアが利用者に与える影響を知ることができ、根拠になる	根拠に基づいた介護実践を行う上で必要だから	専門性を高め、根拠ある介護過程実践につながるため
介護現場で運用されつつあるようなので（各種「加算」の要件が LIFE の活用）、ケアの過程において知っておくべきことと考える また、根拠のある介護の具体的ツールとして理解しておく必要があると考える	根拠ある介護の具体的ツールとして理解しておく必要がある		
活用をするとより良い介護過程の展開ができると感じたから	より良い介護過程の展開ができると感じたから		
思考過程の訓練として用いる	思考過程の訓練として用いる		
科学的根拠を用いた介護を実践するうえで、各事業所でのデータは大いに役立つと思うから	科学的根拠を用いた介護を実践する上で、各事業所でのデータは大いに役立つと思うから		
知らないよりも知っておいた方がよい。データが集まることで、症例が細分化され、方向性が迷った時のヒントに繋げることができる	データが集まることで症例が細分化され、方向性に迷った時のヒントに繋げられる		
今後の福祉業界の人材不足、介護力向上を改善する上で L IFE は科学的根拠に基づき、ケアのアドバイスをくれるため有効。しかしそれを踏まえて、実際の利用者で実践可能か見極めなければならない	介護力向上を改善する上で科学的根拠に基づきケアのアドバイスをくれるため有効である		
働くうえで必要になる、また、思考展開のなかで根拠に基づく実践につながる	思考展開の中で根拠に基づく実践につながる		
科学的根拠に基づいた介護を提供するために、介護実践における客観的なデータが必要であるから	科学的根拠に基づいた介護を提供するために客観的なデータが必要であるから		
介護実践の根拠について理解を深めることにつながるため	介護実践の根拠について理解を深めることにつながるため		
教員以外の客観的なアドバイスや改善、指摘をうけることで、学ぶ意欲が高まると考えるため	教員以外の客観的なアドバイスなどにより学ぶ意欲が高まるため	学びの意欲向上につながるため	その他の必要性
ICT の使用があると意欲的に授業を受ける傾向がある	ICT の活用があると意欲的に授業を受ける傾向がある		
教育、福祉、介護何れにおいても ICT の活用は喫緊の課題であり、主体的に情報を入手し経験していくことは必要であると考える	ICT の活用、主体的に情報を入手する経験は必要であるため	その他	
科学的な介護を実施することで、ケアの提供の格差が生じにくくなる。介護の質にばらつきがなくなるため	ケアの提供の格差が生じにくくなり介護の質にばらつきがなくなるため		
国が推進しているから	国が推進しているから		
ICT の活用は今後必要な社会になっていくものと考える	ICT の活用は今後必要な社会になっていくため		
介護を学ぶうえでは、身につけるべき考え方だから	介護を学ぶ上では身につけるべき考え方だから		
実践現場の全国的なアクションを理解することは介護福祉士の使命感育成につながるため	実践現場の全国的なアクションを理解することは介護福祉士の使命感育成につながるため		